

○朝鮮總督府訓令第三十號 (官報 四月十八日)

道金庫規程左ノ通定ム

道府部 道金庫

朝鮮總督 子爵寺內正毅

明治四十四年四月一日

道金庫規程

- 第一條 地方費ノ現金ハ道金庫事務取扱銀行ノ預金トス但シ當分ノ間利子ヲ附スルコトヲ要セ
- 第二條 道金庫ハ地方費現金ノ出納ニ付其ノ責ニ任ス
- 第三條 地方費ノ出納ハ一般會計及特別會計ニ分チ年度毎ニ歳入歳出ヲ區分シ整理スヘシ
- 第四條 道金庫ハ現金納付書、納入告知書、返納告知書又ハ拂込書ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ別符ニ年月日ヲ記入シ金庫及取扱人ノ印ヲ捺シ領收證書ハ納入ニ交付シ領收通知書ハ歳入徴收官ニ送付スヘシ
- 道金庫ハ韓國銀行支店若ハ出張所、農工銀行本店、支店若ハ出張所又ハ滿城銀行水原支店ヨリ付替通知書ヲ受ケタルトキハ領收通知書ノ餘白ニ發送年月日ヲ記入シ歳入徴收官ニ送付スヘシ
- 第五條 道金庫ハ京城振替貯金口座ニ加入スヘシ
- 道金庫振替貯金ニ依リ拂込ヲ受ケタルトキハ收入ノ手續ヲ爲シ振替貯金拂込通知票ノ餘白ニ發送年月日ヲ記入シ歳入徴收官ニ送付スヘシ
- 第六條 道金庫ハ毎月現金納入濟ノ現金納付書、納入告知書、返納告知書及拂込書ヲ取纏メ帳簿ニ照合シ其ノ月計ヲ表記シ保存スヘシ
- 第七條 道金庫通常支出命令ノ現金仕拂請求ヲ受ケタルトキハ地方費會計規則第二十二條ニ依リ其ノ支出命令書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

前項ノ仕拂ヲ爲シタルトキハ其ノ支出命令書ニ年月日渡濟ノ印ヲ捺捺スヘシ

- 第八條 道金庫ハ支出命令ノ有効期間内ニ現金仕拂ノ請求ナキトキハ其ノ支出命令案内ニ未請求ノ印ヲ捺捺シ直ニ之ヲ支出命令官ニ還付スヘシ
- 第九條 道金庫送金支出命令ヲ受ケタルトキハ送達請求郵便爲替共ノ他ノ方法ヲ以テ債主ニ送金シ送金濟報告書ヲ支出命令官ニ送付スヘシ但シ送達請求郵便爲替以外ノ送金ニ付テハ支出命令官ノ送金通知書ト照合シ現金ノ仕拂ヲ爲サシムヘシ
- 第十條 道金庫事務取扱銀行ハ其ノ年度賦課金ノ收入豫算ニ對スル收納不足金額ノ半額迄ヲ限度トシ一時貸越ヲ爲スコトヲ得其ノ貸越ニ關シテハ別ニ契約書ヲ作成スヘシ
- 第十一條 道金庫ハ毎月現金交付濟ニ係ル通常支出命令及送金支出命令ヲ取纏メ帳簿ニ照合シ其ノ月計ヲ表記シ保存スヘシ
- 第十二條 道金庫ハ第三條ノ區分ニ依リ日日其ノ保管現金ヲ道長官ニ報告スヘシ
- 第十三條 道金庫事務取扱銀行ハ歳入金内譯簿及歳出金内譯簿ヲ設ケ第三條ノ區分ニ依リ其ノ收支ヲ整理スヘシ
- 第十四條 道金庫ハ毎月地方費取扱報告書ヲ調製シ翌月三日迄ニ之ヲ道長官ニ提出スヘシ
- 第十五條 道金庫ハ毎月地方費收入金月計表ヲ調製シ翌月三日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ
- 第十六條 地方費ノ收入ニ要シタル振替貯金ノ受拂及送金ニ要シタル料金ハ毎年九月、三月ノ二期ニ取纏メ明細書ヲ添ヘ道長官ニ之ヲ請求スヘシ但シ收入ニ要セシ料金ハ賦課金ト共ノ他ノモノトニ區別スヘシ
- 第十七條 帳簿其ノ他ノ様式ハ第一號乃至第四號ニ依リ

附則

本令ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月 訓令 朝鮮總督府第三十號 送金庫規程

第二號様式

何年度地方費歳出金内譯簿						年月日
支出命令官 款						
摘要	證書番號	領收人氏名	金額	累計		

- 備考
- 一 本簿ハ年度毎ニ別冊トナスコト
  - 二 支出命令官及款毎ニ口座ヲ區分スルコト
  - 三 毎月末ニ月計ヲ付スルコト

四〇三

第一號様式

明治四十四年四月 訓令 朝鮮總督府第三十號 送金庫規程

何年度地方費歳入金内譯簿						年月日
何徴收官 府又ハ郡 項 款						
摘要	證書番號	納人氏名	金額	累計		

- 備考
- 一 本簿ハ年度毎ニ別冊トナスコト
  - 二 徴收官 府又ハ郡及款項毎ニ口座ヲ區分スヘシ
  - 三 毎月末ニ月計ヲ付スルコト

四〇二

明治四十四年四月 訓令 朝鮮總督府第三十號 道金庫規程

**地方費賦課金月計表**

何道主管 何府(郡)扱 年 月 分

年 度	款 項	前月迄合計		本 月 分		累 計	
	計						

右報告候也  
年 月 日  
何金庫印  
何府尹(郡守)宛

五〇五

明治四十四年四月 訓令 朝鮮總督府第三十號 道金庫規程

第三號樣式

何年度地方費取扱額報告書

年 月 分

年 月 日

前月迄收入	本月收入	入		前月迄支出	本月支出	出		月末現在額
		累 計	計			累 計	計	

(貸借ノ場合ハ金  
額ヲ差引スヘシ)

右報告候也  
何年何月何日

第四號樣式

何道長官宛

何金庫印

五〇五

朝鮮總督府訓令第三十一號(官報四月十八日)

朝鮮總督府鐵道局會計事務章程左ノ通定ム

朝鮮總督府鐵道局

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府鐵道局會計事務章程

第一章 豫算

第一條 鐵道局長官ハ每年度其ノ所管ニ屬スル歳入歳出ノ概算書ヲ調製シ前年度六月三十日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第二條 鐵道局長官ハ每年度其ノ所管ニ屬スル歳入歳出ノ豫定計算書並附屬書類ヲ調製シ前年度七月三十一日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第三條 歳出豫算各目ノ流用ハ鐵道局長官之ヲ執行スルコトヲ得但シ出納完結ノ後直ニ之ヲ報告スヘシ

第四條 歳出豫算殘額ノ繰越ヲ要スルトキハ鐵道局長官ハ繰越計算書ヲ調製シ翌年度五月二十日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第五條 豫備金ノ支出ヲ要スル場合ニ於テハ鐵道局長官ハ所要ノ金額及事由ヲ記載シタル支出計算書ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出豫算中節ノ新設若ハ改廢ハ鐵道局長官ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ執行ノ後直ニ之ヲ報告スヘシ

第二章 收入

第七條 鐵道局長官ハ部下ノ官吏ヲシテ歳入徵收事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條 歳入ハ歳入徵收官之ヲ測定シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外納人ニ對シテ拂込通知書ヲ發シ

シ出納官吏ニ納付セシムヘシ但シ必要アル場合ニハ主務ノ官吏ニ即納通知書ヲ發シシテ出納官吏ヲシテ直ニ之ヲ領收セシムルコトヲ得

前項ニ依リ出納官吏ニ納付セシムルコトヲ得

庫ニ納付セシムルコトヲ得

第九條 驛、荷客扱所並列車等ニ於テ收入スル歳入金ハ出納官吏若ハ出納員ヲシテ直ニ之ヲ領收セシムヘシ

第十條 明治四十四年勅令第六十一號第二條ノ繰替拂資金ハ出納官吏金庫ヨリ雜部金保管證書ヲ受領シタルトキヲ以テ其ノ受入ヲ爲シタルモノトス

第十一條 主任出納官吏第十六條ノ規定ニ依リ集合仕拂命令ノ交付ヲ受ケタルトキハ鐵道局長官ノ指定ニ依リ之ト同額ノ歳入金振替拂込書、繰替拂資金振替戻入書及雜部保管金拂込書ヲ調製シ該命令ニ添附シテ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

前項ニ依リ雜部保管金拂込書ヲ送付シ金庫ヨリ雜部金保管證書ヲ受領シタルトキヲ以テ繰替拂金返還ヲ受ケタルモノトス

第十二條 歳入徵收官ハ毎月各會計毎ニ徵收報告書ヲ調製シ歳入金月計對照表ヲ添ヘ翌月十日迄ニ之ヲ提出スヘシ

每年年度最終ノ徵收報告書ニハ別ニ副本ヲ添附スヘシ

第十三條 每年度收入未済ニシテ翌年度ニ繰越スヘキ歳入アルトキハ歳入徵收官ハ明治二十四年八月大藏省訓令第六十八號ニ依リ取扱ヒ最終歳入徵收報告書ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

繰越ニ係ル歳入ニシテ尙後年度ニ繰越ヲ要スルトキハ明治二十五年大藏省訓令第二十五號ニ依リ之ヲ取扱ヒ明治三十一年大藏省訓令第十二號歳入繰越預計計算書ヲ調製シ翌年度四月十五日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第十四條 歲入徵收官交替シタルトキハ直ニ關係ノ金庫ニ共ノ旨通知スヘシ

第三章 支出

第十五條 仕拂命令官繰替拂金額ニ對シ歲出金支出ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ集合仕拂命令ニ振替ノ印ヲ押捺シ仕拂證明書ヲ添附シテ之ヲ所屬主任出納官吏ニ交付スヘシ  
主任出納官吏前項ノ仕拂命令ニ對シ金庫ヨリ領收證ヲ受ケタルトキハ之ヲ仕拂命令官ニ提出スヘシ

第十六條 仕拂命令官ハ左ニ掲ケタルモノヲシテ朝鮮總督府鐵道官署現金受拂規則第二條ニ係ル繰替拂傳票ヲ發セシムルコトヲ得

- 一 計理課長
- 二 事務所長

三 其ノ他鐵道局長官ニ於テ特ニ朝鮮總督ノ承認ヲ經タル官吏

前項ノ官吏ヲシテ繰替拂傳票ヲ發セシムルトキハ仕拂命令官ハ其ノ令達ヲ受ケタル毎年度支拂豫算ノ範圍内ニ於テ配付額ヲ定メ定額豫算トシテ之ヲ當該官吏ニ通達スヘシ  
前項ノ通達ヲ受ケタル官吏ハ仕拂命令官ノ例ニ準レ之カ執行ノ責ニ任スヘシ

第十七條 繰替拂傳票ハ歲出科目ノ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第十八條 毎年度所屬歲出金ノ繰替拂傳票ヲ發スルハ翌年度五月二十日限トス

第十九條 出納官吏ニ於テ毎年度所屬歲出金ノ繰替拂及其ノ戻入ヲ爲スハ翌年度五月二十五日限トス

第二十條 仕拂命令官ハ毎月仕拂命令濟額報告書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第二十一條 仕拂命令官交替シタルトキハ印鑑ヲ調製シ之ヲ關係金庫ニ送付スヘシ

第四章 決算

第二十二條 鐵道局長官ハ毎年度其ノ所管ニ屬スル歲入歲出決定計算調書並用品資金會計ニ屬スル貸借對照表、損益計算表及資本増減表ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第五章 帳簿

第二十三條 鐵道局長官ハ繰替拂資金受拂簿、用品資金會計仕拂元受金差引簿及主任出納官吏内譯簿ヲ備フヘシ

第二十四條 歲入徵收官及歲入徵收ノ事務ヲ分掌スル官吏ハ定期收入元帳、徵收整理簿ヲ備フヘシ

第二十五條 仕拂命令官ハ歲出仕拂豫算簿、歲出仕拂豫算差引簿及定額豫算内譯簿ヲ備フヘシ

第二十六條 繰替拂命令官ハ定額豫算差引簿ヲ備フヘシ

第二十七條 主任出納官吏ハ現金出納内譯簿、保管金内譯簿及分任出納官吏内譯簿ヲ備フヘシ

第二十八條 本令施行ニ必要ナル細則及本令ニ掲クル帳簿及書類ノ様式ニシテ別ニ其ノ定ナキモノハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府訓令第三十二號(官報四月十八日)

朝鮮總督府通信局事務分掌規程中左ノ通改正ス

明治四十四年四月十日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

第一條 第一項中「及工務課」ヲ「工務課及電氣課」ニ改ム

第五條 第三號 削除

第六條 電氣課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 電氣事業ノ監督ニ關スル事項
- 二 發電水力ニ關スル事項

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

〔參照〕

朝鮮總督府訓令第六號朝鮮總督府通信局事務分掌規程(明治四十三年十月十一日)抄錄

第一條第一項 朝鮮總督府通信局ニ庶務課、業務課、計理課及工務課ヲ置ク

第五條 工務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

三 電氣事業ノ監督ニ關スル事項

○朝鮮總督府訓令第三十三號(省報四月十八日)

朝鮮總督府郵便局事務分掌規程第三條中電話掛第十二號ヲ左ノ如ク改ム

電話加入者相互間ノ市外通話ニ對スル電話電信證ノ調査ニ關スル事項

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治四十四年四月十日

○朝鮮總督府訓令第三十四號(省報四月十八日)

朝鮮總督 子爵寺內正毅

各職入職收官

明治四十四年度朝鮮總督府特別會計、朝鮮鐵道用品資金、朝鮮森林資本勘定及朝鮮森林收益勘定ニ

屬スル歲入科目表左ノ通相定ム

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府特別會計

歲入經常部

款	項	目	節
第一款 朝鮮歲入	第一項 租稅	第一目 地戶地稅 第二目 家戶地稅 第三目 酒稅 第四目 煙稅 第五目 鹽稅 第六目 雜稅 第七目 順關稅 第八目 順關稅 第九目 順關稅	第一節 探區產稅 第二節 探區產稅 第三節 探區產稅
	第二項 印紙收入	第一目 印紙收入	第一節 其他諸稅
	第三項 縣屯賦收入	第一目 縣屯賦收入	
	第四項 官業及官有財產收入	第一目 醫院收入	

第二日 水道收入		第一節 患者入院料
第三日 飲料汚及厨衛收入		第二節 藥價收入
第四日 印刷局收入		第三節 往診料
第五日 煉瓦及土管工場收入		第四節 附送醫藥材料
第六日 配當金	第一節 給水料	
第七日 營業收入	第二節 給水工費納付	
第八日 營業收入	第三節 雜金	
第九日 度支費收入	第一節 飲料濟濟下代	
第十日 林野收入	第二節 醫書拂下代	
第十一日 平壤礦業所收入	第一節 煉瓦工場收入	
第十二日 四徒工礦及製煉收入	第二節 土管工場收入	
第十三日 郵便電信及電話收入	第一節 切手收入	

第一款 公債募集金受入		第五項 雜收入	
第一項 公債募集金受入		第十四日 鐵道收入	第一節 運檢收入
第二項 公債募集金受入		第十五日 生產品收入	第二節 電話收入
第一項 公債募集金受入		第十六日 森林益金	第三節 電信收入
第二項 公債募集金受入		第十七日 官有物貸下料	第四節 雜收入
第一日 手數料	第一日 公債募集金受入	第一日 官有物標下代	
第二日 受入金	第一日 公債募集金受入	第二日 官有物標下代	
第三日 官有物標下代	第一日 公債募集金受入	第三日 官有物標下代	
第四日 辦價及違約金	第一日 公債募集金受入	第四日 辦價及違約金	
第五日 票附及沒收金	第一日 公債募集金受入	第五日 票附及沒收金	
第六日 稅關雜收入	第一日 公債募集金受入	第六日 稅關雜收入	
第七日 雜收入	第一日 公債募集金受入	第七日 雜收入	

朝鮮鐵道用品資金		朝鮮森林資本勘定		朝鮮森林收益勘定	
第一款 收入	第一款 收入	第一款 收入	第一款 收入	第一款 收入	第一款 收入
第一項 用品收入	第一項 用品收入	第一項 雜收入	第一項 雜收入	第一項 雜收入	第一項 雜收入
第二項 雜收入	第二項 雜收入	第二項 雜收入	第二項 雜收入	第二項 雜收入	第二項 雜收入
第一目 用品交換代	第一目 用品交換代	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入
第二目 用品修繕料	第二目 用品修繕料	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入
第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入
第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入
第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入	第一目 雜收入

○朝鮮總督府訓令第三十五號(官報四月十九日)

朝鮮總督府及所屬官署職託員、雇員及傭人手當俸給支給規則左ノ通定

明治四十四年四月十四日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府及所屬官署職託員、雇員及傭人手當俸給支給規則

第一條 職託員ノ手當及雇員以下ノ月俸ハ毎月二十一日(休日ニ當ルトキハ順延トス)日給ハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ分ヲ其ノ月二十一日ヨリ末日迄ノ間ニ於テ之ヲ支給ス

各局長若ハ課長又ハ所屬官署ノ長ハ毎月十六日限リ前月十六日ヨリ當月十五日ニ至ル間ノ日給者ノ勤務日數ヲ調査シ之ヲ所管經費ノ仕拂ヲナス官吏ニ報告スヘシ

第二條 職託員ノ手當及雇員以下ノ月俸ノ支給ニ付テハ前條ノ外判任官ノ俸給支給ノ例ニ依ル但シ職託員ノ手當ハ其ノ解職ノ月ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第三條 雇員、臨時雇員、寫字生、巡視、取者、投棄手、助手、船長、機關士、機關手、水夫長、鹽夫長、鹽夫副長、看護婦、守衛、通譯、山監、山直及以上ニ準スヘキ者ノ俸給ハ月俸又ハ日給トシ給仕以下傭人ノ俸給ハ日給トス但シ小使取締ノ俸給ハ之ヲ月俸トナスコトヲ得

第四條 雇員官吏ニ任用セラレ若ハ職託員ニ採用セラレタルトキハ其ノ月ノ俸給ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第五條 軍籍ニ在ル者戰時其ノ他ノ場合ニ於テ召集セラレタルトキハ召集ニ應シタル翌日ヨリ解隊上臈ノ前日迄俸給ノ支給ヲ停止ス

第六條 日給ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外上臈ノ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

一 一般ノ休日若ハ特ニ總督ノ達ニ依ル休日(休日前後上臈セサルモノハ之ヲ除ク)又ハ暑中休暇七日内

二 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ

三 父母ノ祭日



四 忌服又ハ檢疫ノ爲上廳スルコト能ハサルトキ  
 第七條 日給ノ増減アリタル場合ハ發令當日ヨリ計算ス  
 第八條 傭外國人ノ俸給ハ其ノ傭入契約ノ定ムルトコロニ依リ之ヲ支給ス  
 第九條 手當又ハ俸給ニ過渡アルトキハ翌月分ニ於テ差引整理スルコトヲ得但シ會計年度ヲ異ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
 第十條 鐵道局、通信官署其ノ他作業場ノ雇員以下俸給支給ニ付テハ別ニ之ヲ定ム  
 附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府訓令第三十六號(官報四月二十日)

司法警察事務報告ニ關スル件左ノ通定ム

司法警察官

明治四十四年四月十五日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

司法警察官ハ左記様式ニ依リ執務成績月表ヲ調製シ翌月十日迄ニ所轄地方裁判所檢事正ニ提出スヘシ  
 前項ノ月表ハ警察署及憲兵分隊ニ於テ各其ノ所屬司法警察官ノ取扱ヒタル事件ヲ取續メ之ヲ調製スヘシ  
 本年一月乃至三月中ニ取扱ヒタル事件ニ付テハ其ノ件數ヲ合計シテ一表ヲ調製シ四月分ノ月表ト同時ニ提出スヘシ  
 (様式)

明治 年 月中		司法警察官執務成績表		官署名			
罪 區 別	犯人 別	犯罪事件 件數	既 檢 察 局 既 決 罰 戒 放 免 其 他 計			未 決 件 數	
			送 檢 察 局 件 數	既 決 人員 件數	罰 戒 放 免 人員 件數		其 他 人員 件數
刑	騷擾ノ罪	朝鮮内地					
		朝鮮外地					
	逃走ノ罪	朝鮮内地					
		朝鮮外地					
	阿片煙ニ關スル罪	朝鮮内地					
		朝鮮外地					
	通貨偽造ノ罪	朝鮮内地					
		朝鮮外地					
	文書及印章偽造ノ罪	朝鮮内地					
		朝鮮外地					
	猥褻淫及重婚ノ罪	朝鮮内地					
		朝鮮外地					

法						犯													
賭博及竊盜ニ關スル罪			禮拜及墳墓ニ關スル罪			殺人ノ罪		傷害ノ罪		略取及誘拐ノ罪		強盜ノ罪		竊盜ノ罪		詐欺、恐喝及偽造ノ罪			
内	朝鮮	他	内	朝鮮	他	内	朝鮮	内	朝鮮	内	朝鮮	内	朝鮮	内	朝鮮	内	朝鮮	内	朝鮮

凡	考 備	合 計	特 別 法 犯						其 他
			内	朝鮮	他	内	朝鮮	他	

一 本表記載ニ付テハ左ノ例ニ依ル

○罪名ハ刑法ニ據リタルモノナルヲ以テ刑法大全ノ罪名ト符合セサルモノアルヘキモ罪實相等シキカ又ハ類似ノ犯罪ハ各相當罪名ノ部ニ記載スヘシ○犯罪事件ハ犯罪者ニハ犯罪者ニ記載スヘキ事件全部ヲ記載スヘシ但シ人員及犯人不明ノ場合ハ推定ニ依ル○檢査事件ニハ犯罪者ニ記載スヘシ但シ人員及犯人不明ノ場合ハ推定ニ依ル○檢査事件ニハ現在未済事件ヲ記載シ其ノ他ノ各欄ハ當月分ニ限リ調査記載スヘシ○罪名ヲ異ニスル併合罪ノ場合ハ最も重キ罪名ニ記載スヘシ但シ強盜ノ手段トシテ傷害殺人等ノ犯行アリ或ハ竊盜罪ニ伴ヒ他ノ罪ヲ犯シタル場合ノ如キハ該犯人ノ目的タル強盜罪等ノ各罪名ニ記載スルコト○内地人清國人及外國人共犯事件ハ内地人件數ニ、清國人ト他ノ外國人ノ共犯事件ハ外國人件數ニ各合併レテ之ヲ記載シ清國人、他ノ外國人件數ニハ該件數

例

一 左側ニ朱書スヘシ但シ人員ハ各欄ニ區別掲記スルコト  
件ニ計算シテ各欄ニ區別掲記スヘシ清國人及他ノ外國人ト朝鮮人ノ共犯事件亦同シ  
外國人欄ノ記帳ニ付テハ其ノ國籍別及人員數ヲ備考欄ニ掲記スヘシ  
二 本表ハ翌月十日マテニ調製シテ所轄地方裁判所檢察正ニ送達スヘシ

○朝鮮總督府訓令第三十七號(官報四月二十二日)  
道路修築標準左ノ通定ム

朝鮮總督 子爵寺內正毅

明治四十四年四月十七日  
道路修築標準

第一章 道路ノ幅員

第一條 路面ノ幅員ハ一等道路ニ在リテハ有效四間以上、二等道路ニ在リテハ有效三間以上、三等道路ニ在リテハ有效二間以上ト爲スヘシ

第二章 路面ノ築造

第二條 道路ノ表面ハ割石又ハ砂利ヲ以テ築造スルモノトス其ノ厚サハ道路ノ中央ニ於テ五寸以上トシ兩端ニ向ヒ漸次減却シ三寸以上ト爲スヘシ但シ三等道路ニ在リテハ道長官ノ認ムル所ニ依リ割石又ハ砂利ノ厚サヲ減スルコトヲ得

第三條 橫斷路面ノ形狀ハ左右兩端ヨリ中心ニ向ヒ三十分ノ一ノ勾配ヲ付シ中央ヲ相當ノ弧形ト爲スヘシ

第四條 下水ノ深サト其ノ底幅トハ各一尺五寸ヲ下ルヘカラス

第五條 道路中央ノ高サハ下水ノ最高水面ヨリ一尺以上タルヘシ

第六條 路面築造ノ方法ハ先「ローラー」或ハ蟻木ニテ地盤ヲ堅メ然ル後敷層ニ割石又ハ砂利ヲ散布シ每層「ローラー」或ハ蟻木ニテ締緊ムヘシ  
割石ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ立積ノ二十分ノ一以內ノ石屑又ハ砂利ヲ目潰トシテ散布ス

コトヲ得

第七條 割石又ハ砂利ノ寸法ハ凡ソ徑八分以上一寸五分以下ト爲スヘシ

第三章 勾配及屈曲

第八條 道路ノ勾配ハ左ノ制限ヲ超ヘカラス

一等道路 勾配三十分ノ一

二等道路 勾配二十五分ノ一

三等道路 勾配二十分ノ一

第九條 地形其ノ他已ムヲ得サル場合ハ短距離ニ限リ前條ノ制限ヲ一等道路及二等道路ニ在リテハ十五分ノ一、二等道路ニ在リテハ十分ノ一迄ト爲スコトヲ得但シ最急勾配ハ延長百間以內ノ短距離ニ限ルモノトス

前項ノ勾配ヲ使用スル場合ニ於テ一等道路及二等道路ニ在リテハ二十分ノ一以上、三等道路ニ在リテハ十五分ノ一以上ノ勾配ヲ連續使用スルコトヲ得ス

第十條 曲線ノ中心半徑ハ一等道路及二等道路ニ在リテハ八間、三等道路ニ在リテハ六間ヲ下ルヘカラス但シ地形上已ムヲ得サル場合ハ一等道路及二等道路ニ限リ中心半徑ヲ六間迄ニ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ幅員一間ヲ増築スヘシ

第十一條 曲線ノ中心半徑十間以下ノモノト坂路ノ勾配四十分ノ一以上ノモノトヲ同所ニ兩存セシムヘカラス

第十二條 中心半徑二十間以下ノ背向曲線間ニハ必ス相當ノ長ヲ有スル直線ヲ置クヘシ

第四章 掘削及盛土

第十三條 掘削傾斜面勾配ハ其ノ地質ニ從ヒ適宜之ヲ定ムヘシ但シ地質不良ニシテ崩壞ノ虞アル場合ハ石垣、柵工若ハ植芝等ヲ施スヘシ

第十四條 盛土ノ傾斜面勾配ハ一割二分以上トシ傾斜面長凡ソ六寸毎ニ筋芝ヲ施スヘシ

第五章 橋梁暗渠及隧道

第十五條 橋梁ノ構造ハ橋面平積一坪ニ付一等道路及二等道路ニ在リテハ平均四百貫目、三等道路ニ在リテハ平均三百貫目ノ等布活重ヲ負フモノトス

第十六條 橋梁ハ有效幅員(左右欄干内法)ヲ路幅ト同一ニ爲スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ有效幅員(左右欄干内法)ヲ一等道路ハ三間以上、二等道路ハ二間半以上、三等道路ハ一間半以上ト爲スコトヲ得

第十七條 暗渠ノ上長ハ道路敷ト同一ニ爲スヘシ

第十八條 隧道ハ濕拔ヲ除キ其ノ有效幅員ヲ一等道路及二等道路ニ在リテハ三間以上、三等道路ニ在リテハ路幅ト同一ニ爲スヘシ

第十九條 隧道内ノ路線ハ適宜ノ勾配ヲ付シ下水ノ疏通ヲ充分ナラシムヘシ

第二十條 隧道内ノ高サハ路面ノ全幅員上十三尺以上ト爲スヘシ

第六章 並木

第二十一條 並木ハ地方ノ状態ニ依リ主トシテ日光ヲ覆ヒ乾燥季節ニ路面ヲ保護シ風雪ヲ防キ若ハ山間雪深キ地方ニ在リテハ冬季路線ノ目標ト爲ルノ目的ヲ以テ植付クヘシ其ノ樹種ハ氣候及土質ニ適當スルモノニシテ幹長カラス葉小ナラサルモノヲ可トシ且行人若ハ路面ニ障害ナキモノヲ選用スヘシ

第二十二條 並木ハ必ス路線ニ並行ナラシムヘシ

第二十三條 並木ハ有效路面ノ外側下水ノ上縁ヨリ二尺以上ノ距離ニ植付クヘシ

第七章 市街道路

第二十四條 市街道路ハ別ニ定ムル場合ノ外木標準ニ據ルモノトス

○朝鮮總督府訓令第三十八號(官報四月二十九日) 道府郡職員管内旅費規程左ノ通定ム

明治四十四年四月二十四日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

道府郡職員管内旅費規程

第一條 道府郡職員其ノ管内ニ出張スルトキハ本規程ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ道長官及道事務官ニ對シテハ朝鮮總督府旅費規則ニ依ル

第二條 第三條ニ依リ用務以外ノ旅行ニ對シテハ第一號表ノ日額旅費ヲ支給ス  
第三條 左ノ各號ノ用務ニ從事スル者ノ出張ニ對シテハ第二號表ノ日額旅費ヲ支給シ同一地ニ引續滞在十五日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ對シテハ第三號表ノ日額旅費ヲ支給ス

一 勸業、教育、衛生ニ關スル調査、監督、獎勵、講習、傳習  
二 租稅及稅外收入ニ關スル調査、監督、滞納處分  
三 土木、營繕ニ關スル調査、監督

第四條 日額旅費ノ外第四號表ニ依リ道職員及府尹ニ對シテハ汽車賃、船賃、車馬賃ヲ、府郡職員ニ對シテハ汽車賃、船賃ヲ支給ス但シ道職員第三條ノ出張ニ對シテハ用務地ヲ轉スル場合ノ外用務地内ニ於ケル車馬賃ハ之ヲ支給セス

第五條 在勤廳ヨリ往復三里未滿ノ地ニ出張シタルトキハ本規程ニ依リ日額ノ半額ヲ支給シ汽車賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス但シ往復二里未滿ノ場合ハ旅費ヲ支給セス

在勤廳ヨリ往復六里未滿ノ地ニ出張シ宿泊セサルトキハ本規程ニ依リ日額ノ半額及汽車賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス但シ府尹ヲ除クノ外府郡職員ニ對シテハ車馬賃ヲ支給セス

第六條 道府郡職員ニシテ其ノ道及其ノ所屬官廳ニ兼勤スル者ノ旅行ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ旅費ヲ支給ス

- 一 兼勤地ニ往復ノ日額ハ第一號表汽車賃、船賃、車馬賃ハ第四號表ニ依ル
  - 二 兼勤地滯在中ノ日額ハ第二號表、其ノ滯在引續キ十五日ヲ超ニルトキハ第三號表ニ依ル
  - 三 兼勤廳用務ノ爲其ノ管内ニ出張スルトキハ本規程各條ニ依ル
- 第七條 旅行ノ都合ニ依リ管内出張ノ途次管外ヲ通過シタルトキハ本規程ニ依リ、管外出張ノ途次管内ヲ通過シタルトキハ朝鮮總督府旅費規則ニ依リ旅費ヲ支給ス

附則

第八條 本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

等 級	内地		朝鮮	
	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ
勳任	四圓	一圓八十錢	四圓	一圓六十錢
奏任	三圓	一圓八十錢	三圓	一圓六十錢
判任	二圓	一圓八十錢	二圓	一圓六十錢
吏員	一圓	一圓八十錢	一圓	一圓六十錢
官	四角	一角八十錢	四角	一角六十錢
人員	二角	一角八十錢	二角	一角六十錢

第二號表

等 級	内地		朝鮮	
	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ
勳任	三圓	一圓六十錢	三圓	一圓六十錢
奏任	二圓	一圓六十錢	二圓	一圓六十錢
判任	一圓	一圓六十錢	一圓	一圓六十錢
吏員	八角	一角六十錢	八角	一角六十錢
官	六角	一角六十錢	六角	一角六十錢
人員	四角	一角六十錢	四角	一角六十錢

第三號表

等 級	内地		朝鮮	
	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ
勳任	四圓	一圓八十錢	四圓	一圓六十錢
奏任	三圓	一圓八十錢	三圓	一圓六十錢
判任	二圓	一圓八十錢	二圓	一圓六十錢
吏員	一圓	一圓八十錢	一圓	一圓六十錢
官	八角	一角八十錢	八角	一角六十錢
人員	六角	一角八十錢	六角	一角六十錢

第四號表

等 級	汽車		馬車	
	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ	宿泊シタルトキ	宿泊セザルトキ
勳任	一圓	五角	一圓	五角
奏任	二圓	五角	二圓	五角
判任	三圓	五角	三圓	五角
吏員	四圓	五角	四圓	五角
官	五圓	五角	五圓	五角
人員	六圓	五角	六圓	五角

○内務省訓令第八號

明治四十四年度内務省所管歳出科目表ニ左ノ通増設ス

府縣

明治四十四年五月六日  
一歳出經常部府縣ノ款條給ノ項中末位ニ賞與ノ目

内務大臣 法學博士男前平田東助

○大藏省訓令第二十六號

明治四十四年三月  
大藏省訓令第十五號明治四十四年度大藏省所管歳入科目表歳入臨時部第二款雜收入第二項返納金中ニ第六目定期貸金ノ目ヲ追加ス

大藏大臣 公卿桂太郎

○陸軍省訓令第九號

明治四十四年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍一般

明治四十四年五月五日

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

歳出經常部

△印増設

款	項	目	箇
軍			
本			
費			
	馬		
	匹		
	費		

明治四十四年五月 訓令 陸軍省第十號

歲出臨時部		戰後整理費	
款	項	目	節
		行校馬匹費	
		運搬費	
		試驗及模範	
		購置料	
		復舊費	
		物件費	
		倉庫建築費	
		物件費	
		人件費	
		物件費	
		病傷費	
		俸給諸給	
		雜費	

○陸軍省訓令第十號  
 明治四十四年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス  
 明治四十四年五月二十九日

陸軍大臣 伯耆寺内正毅  
 陸軍一殿

明治四十四年五月 訓令 陸軍省第十號

歲出臨時部		軍事實費	
款	項	目	節
		修繕費	
		給與	
		運搬費	
		特別手當	
		雜費	
		雜給及雜費	
		三瓶原演習廠舍引	
		基隆要港砲具庫及	
		兵舍修繕	
		旭川街及坑官舍修	
		其他軒先修繕	
		步兵第二十七聯隊	
		兩師西成地官舍修	
		本營	

	東京府建設費	修繕費	修繕費	修繕費	修繕費
災害費	▲ 大位	▲ 大位	▲ 大位	▲ 大位	▲ 大位
▲ 仙臺市或監獄府 所其他火災復舊費					
▲ 仙臺市或監獄府 所其他火災復舊費					

○文部省訓令第七號

明治四十四年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス  
明治四十四年五月三日

一 歳入臨時部用途指定寄付金ノ款前年度支出殘金繰入ノ項中末位ニ獎學費寄付ノ目ヲ加フ  
○文部省訓令第八號

明治四十四年度學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス  
明治四十四年五月五日

一 歳入經常部中末位ニ前年度繰入金ノ款支出未済金ノ項目ヲ加フ

大臣官房會計課  
直轄諸學校 帝國圖書館

文部大臣 小松原英太郎

大臣官房會計課  
直轄諸學校 帝國圖書館

文部大臣 小松原英太郎

○文部省訓令第九號

明治四十四年度當省所管學校及圖書館歲入歲出科目表ニ左ノ通追加ス  
明治四十四年五月二十三日

一 資金部歳入維持資金收入ノ款中末位ニ期滿後收入ノ項同名ノ目ヲ加フ

○農商務省訓令第十二號

明治四十四年農商務省訓令第六號科目表中歳出經常部森林費ノ款俸給ノ項並臨時部國有林野經營費ノ款俸給及諸給ノ項ノ各末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス  
明治四十四年五月五日

○農商務省訓令第十三號

道府縣精練シタル輸出羽二重ノ検査ヲ行フトキハ左ノ規程ニ依ルヘシ  
明治四十四年五月十三日

第一條 輸出羽二重ノ検査ハ左ノ各號ニ付之ヲ行フヘシ

- 一 品位
- イ 絲質
- ロ 組織
- ハ 製絨
- ニ 精練整理

農商務大臣 男爵大浦兼武

北海道廳 府縣

農商務大臣 男爵大浦兼武

山林局 林區署

大臣官房會計課  
直轄諸學校 帝國圖書館

文部大臣 小松原英太郎

大臣官房會計課  
直轄諸學校 帝國圖書館



二 量目  
三 長  
四 幅  
五 瑕疵汚染、胴切共ノ他ノ缺點  
前項第四號及第五號ノ検査ハ匹毎ニ全部ニ付之ヲ爲スヘシ但シ不合格品ニ付テハ前項第二號乃至第五號ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第二條 検査員二人以上ノ合議ニ依リ合格ヲ査定シ且合格品ニ付テハ其ノ等級ヲ定ムヘシ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得ス

- 一 絹絲以外ノ纖維、絹紡績絲、野蠶絲又ハ節絲シ混織シタルモノ
- 二 原絲ノ著シク不良ナルモノ又ハ錯絲其ノ他色斑アル原絲ノ存在著シキモノ
- 三 組織五分間ニ於ケル經ノ數カ七十五本、緯ノ數カ五十五本ニ滿タラズルモノ
- 四 經緯ノ組織著シク緊密ヲ缺キ又ハ均衡ヲ得サルモノ其ノ他製織劣等ナルモノ
- 五 精練不足、練斑、洗滌不足、石鹼滓附着、青味過度若ハ硬軟不適度甚シキモノ又ハ練寄、絞寄、口ル寄ノ散在著シキモノ
- 六 瑕疵汚染、胴切共ノ他ノ缺點多キモノ
- 七 前各號ノ一ニ該當スルモノニ至ラサルモ前各號ヲ參酌シテ著シク不良ト認ムルモノ

前項第二號、第五號乃至第七號ニ該當スル場合ニ於テ其ノ缺點ヲ除却シ得ヘキモノト認ムルトキハ其ノ旨ヲ示シテ之ヲ還付スルコトヲ得

第四條 合格品ハ之ヲ一等級及二等級ニ分ツヘシ

第五條 瑕疵汚染及胴切ハ耳及縫邊一尺ノ部分ニ存スルモノヲ除キ之ヲ査定スヘシ汚染ニ付テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 合格品ニハ各其ノ等級ニ相當スル合格印章ヲ押捺シ不合格品ニハ不合格ノ印章ヲ押捺スヘシ

第七條 量目ハ合格品ニ付其ノ秤量シタルモノヲ表示スヘシ但シ乾燥不充分ナリト認ムルトキハ再乾燥ヲ命スヘシ

第八條 長幅ハ合格品ニ付長ハ二分ノ一碼、幅ハ二分ノ一時ニ滿タサル端數ヲ切捨テテ之ヲ表示スヘシ

第九條 合格品ノ瑕疵汚染及胴切ニ付テハ各其ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十條 検査ノ表示ニ付異議アル者ハ其ノ理由ヲ具シ再検査ヲ請求スルコトヲ得

再検査ニ依リ表示ヲ更正スル場合ニ於テハ取消ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十一條 検査ノ表示ニ用ユル印章ハ別表ノ様式ニ依ル

前項印章ノ外當分ノ内從來第一及第二ノ階級ヲ表示スル爲使用シタル證書ヲ本規程ノ等級ニ應シテ貼用スルコトヲ得

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ輸出羽二重ト看做シ取扱フヘシ

- 一 三匁半以上ノ輸出薄絹
- 二 輸出薄絹及輸出結絹ニシテ離脱スヘカラサル方法ヲ以テ之ヲ表示セサルモノ

第十三條 本規程ハ輸出縞羽二重ヲ除クノ外染色其ノ他ノ加工ヲ爲シタルモノニ付テハ之ヲ適用セス

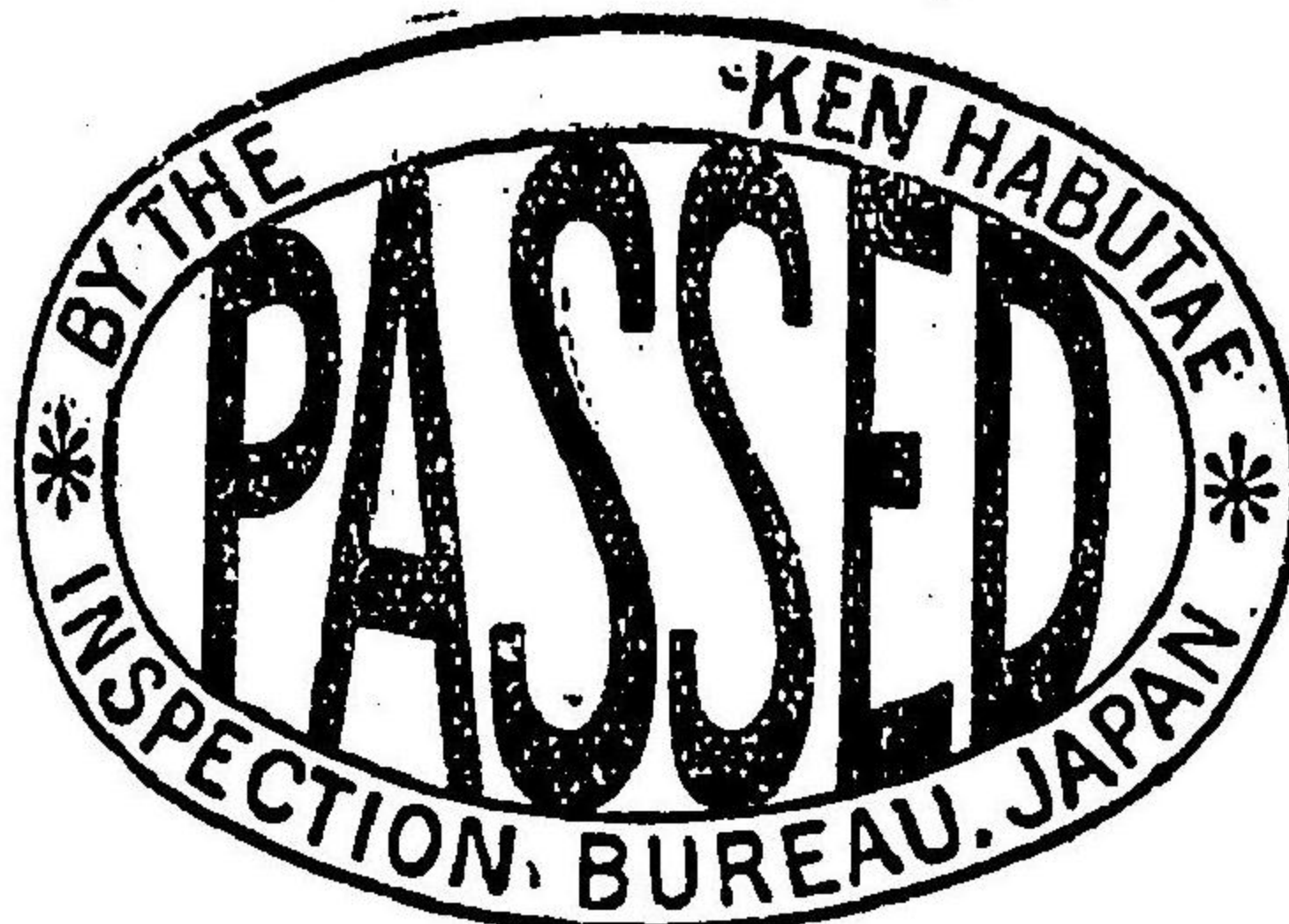
第十四條 輸出海綿 輸出絨絹又ハ生絲ヲ以テ製織シタル 輸出絹子其ノ他ノ輸出絹織物ノ検査ニ付テハ本規程ニ準スヘシ

附則

第十五條 本規程ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
別表(BY THE)ノ次ハ縣名ヲ挿入スヘシ道府ニ付テモ亦之ニ準ス

一寸五分

(赤色) 章印品等一 格合



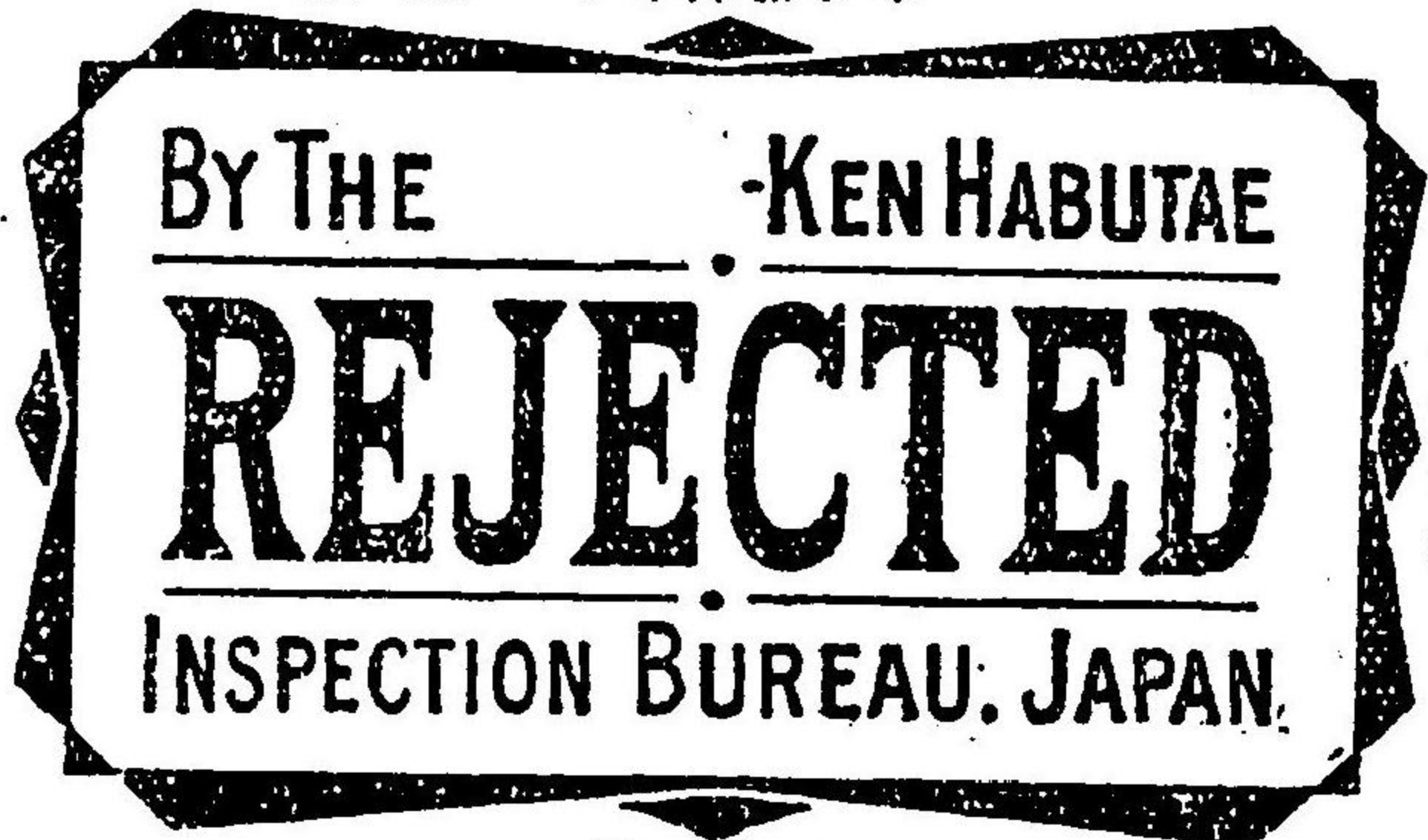
分二寸二

(赤色) 章印品等二 格合



分七寸一

(色 黒) 章印品格合不



一寸六分

分八寸二

(色 赤) 章印目量、幅長  
OFFICIALLY GUARANTEED  
BY THE KEN HABUTAE INSPECTION BUREAU JAPAN

No. \_\_\_\_\_  
LENGTH \_\_\_\_\_ YDS.  
WIDTH \_\_\_\_\_ IN.  
WEIGHT \_\_\_\_\_ MME.

二寸二分

分三寸三

瑕疵  
印章  
(黒色)



分七

汚染  
印章  
(黒色)



分七

割切  
印章  
(黒色)



分七

一寸

一寸

一寸

取消  
印章  
(黒色)



一寸一分

○朝鮮總督府訓令第三十九號 (官報 五月二日)

明治四十四年度朝鮮總督府特別會計ニ屬スル撥入科目表撥入經常部第一款第四項第一目ニ左ノ一節ヲ追加ス

第五節 雜收

明治四十四年四月二十七日

○朝鮮總督府訓令第四十號 (官報 五月六日)

朝鮮總督 伯耆寺内正毅

統監府監獄分課及處務規程及監獄領置品取扱規程中「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

朝鮮總督 伯耆寺内正毅

○朝鮮總督府月報ニ關スル規程左ノ通定ム

朝鮮總督 伯耆寺内正毅

明治四十四年五月三日

朝鮮總督府月報ニ關スル規程  
第一條 朝鮮ニ於ケル施政、産業共ノ他各般ノ狀況ヲ蒐錄スル爲毎月二十日朝鮮總督府月報ヲ發行ス

臨時調査事項ニシテ浩濔ニ涉ルモノハ月報附録トシテ之ヲ發行スルコトヲ得

第二條 月報ハ總務部文書課ニ於テ之ヲ編纂ス

第三條 月報ニ掲載スヘキ事項ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 農業及殖林
- 二 商工業



收入印紙ヲ貼付シタル書類ハ少クトモ毎月一回當該監督官ニ於テ貼付印紙ノ當否及消印ノ有無ヲ  
檢閲シ餘白ニ檢印ヲ捺捺スヘシ

明治四十四年五月十三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

(雛形)

押捺面

消

- 一 輪廓ハ直線ニテ製シ押捺ノトキハ紙面ニ小孔ヲ穿ツモノ
- 二 直徑九分
- 三 字體楷書

○朝鮮總督府訓令第四十三號(官報五月十七日)  
船舶乘組警察職員日額旅費規則左ノ通定ム

明治四十四年五月十三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

船舶乘組警察職員日額旅費規則

第一條 警備母船、警備船及稅關巡邏船乘組警察職員ニハ左ノ日額旅費ヲ支給ス

判任官(内地人) 八十錢

朝鮮人 五十錢

巡查 四十錢

巡查補(朝鮮人タル  
巡查ヲ含ム) 二十五錢

第二條 日額旅費ハ船中勤務ニ服シタル日ニ限り之ヲ支給ス

日額旅費ハ普通旅費ヲ受ケタルトキハ之ヲ支給セス

第三條 屬託醫ニシテ乘込勤務ニ服シタルトキハ判任官ニ準ヒ日額旅費ヲ支給ス

第四條 日額旅費ハ當月分ヲ翌月二日迄ニ支給ス

附則

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 從來支給ノ月手當ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ給セス

○朝鮮總督府訓令第四十四號(官報五月二十三日)

咸鏡北道長官 清津府尹

清津市街ノ經營ニ關シテハ地方費會計規則第二十五條第一項ノ規定ニ拘ラス五千圓迄ヲ限り各主任者ニ現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

明治四十四年五月十八日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府訓令第四十五號(官報五月二十五日)

道府郡

面長協議會ニ際シ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り府尹又ハ郡守ハ公錢領收員又ハ面書記ヲ面長ニ隨行セシムルコトヲ得

前項ニ依リ面長ニ隨行シタル公錢領收員又ハ面書記ニハ出席日數ニ應シ五十錢以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

明治四十四年五月二十日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府訓令第四十六號(官報五月三十日)

道府郡

鑛業法及砂鑛採取法ニ依リ納付スル税金未納者取扱方ノ件左ノ通定ム

明治四十四年五月二十五日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

鑛產稅、鑛區稅、採取稅未納者取扱方ノ件

第一條 法定ノ期限内ニ鑛產稅、鑛區稅又ハ採取稅ヲ納付セサル者アルトキハ第一號様式ノ廣告

書ヲ發スヘシ

催告書ハ代理人ヲ定メタル者ニ對シテハ其ノ代理人ニ、數人共同シテ鑛業又ハ砂鑛採取業ノ許  
可ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ代表者ニ之ヲ發シ本人又ハ代表者以外ノ各共同權者ニ對シテハ  
催告書ノ謄本ヲ送付スヘシ

第二條 催告書ニハ納稅義務者ノ住所又ハ居所及税金ヲ納付スヘキ場所ノ遠近ヲ參酌シ三十日以  
上五十日ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ納付ノ期限ヲ指定スヘシ

第三條 催告書ハ使丁又ハ配達證明郵便ニ依リ送達ヲ爲スヘシ

第四條 使丁ヲシテ送達ヲ爲サシムル場合ニ於テハ第二號様式ノ送達書ニ受取人ノ署名捺印ヲ求  
メシムヘシ

第五條 送達ヲ受クヘキ納稅義務者カ其ノ住所又ハ居所ニ於テ催告書ノ受領ヲ拒ミ又ハ其ノ住所  
及居所明ナラサル場合ニ於テハ催告書ノ要旨ヲ官報ニ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタ  
ル日ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條 催告書ノ指定期限ヲ過キ尙税金ヲ納付セサル者アルトキハ第三號様式ニ依リ府尹又ハ郡  
守ハ道長官ヲ經テ鑛業又ハ砂鑛採取業許可ノ取消ヲ申請スルコトヲ得

第七條 催告書ノ指定期限ヲ過キ尙税金ヲ納付セサル者ノ鑛業權又ハ砂鑛採取權カ差押ヲ受ケ又  
ハ抵當權ノ設定セラレタルモノナルトキハ差押債權者又ハ抵當權者ニ對シテ鑛業權者又ハ砂鑛採  
取權者ヲ納稅義務者トシタル納稅告知書ヲ再發行ノ手續ニ依リ發行スヘシ

前項告知書ニハ鑛業權者又ハ砂鑛採取權者ニ於テ税金ヲ納付セサル旨、差押債權者又ハ抵當權  
者ハ鑛業權者又ハ砂鑛採取權者ニ代リ税金ヲ納付シ得ヘキ旨並税金ヲ納付シタルトキハ許可ノ  
取消ヲ免レ得ヘキ旨ヲ附記シ且第二條ノ例ニ準シ納付ノ期限ヲ指定スヘシ

第八條 前條ニ依リ差押債權者又ハ抵當權者税金ヲ納付シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報

告スヘシ其ノ指定期限ヲ過キ尙納付セサルトキ亦同シ

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一號様式

催告書

第一何程

住所 氏名

右明治何年何月何日附第何號ヲ以テ納稅告知書ヲ發付シタルニ納期限内ニ税金ノ納付ナキニ付本府ヲ以テ更ニ發付方  
催告候條明治何年何月何日限リ納稅告知書配發ノ金取(通信官署)ニ納付スヘシ若此ノ期限内ニ完納セサルトキハ鑛業法  
第十二條(砂鑛採取法第八條)ニ依リ鑛業(砂鑛採取業)ノ許可ヲ取消スルコトアルヘシ  
明治何年何月何日 何府尹(郡守) 氏名 名圖

第二號様式

何府尹(郡守) 氏名 名圖

送達書
送達シタル書名
宛人ノ氏名
又ハ居所
右使丁ヲ以テ送達セシム
明治何年何月何日
何府尹(郡守) 氏名 名圖

送達書
送達シタル書名
宛人ノ氏名
受取人ノ署名
捺印
送達シタル日
右ノ送取取扱也
使丁何某

第三號樣式

鑛業許可取消申請書

許可番號	許可年月日	鑛種	鑛區所在地	面積	住	所	氏	名
------	-------	----	-------	----	---	---	---	---

右「何」年分「何」稅額納三依リ報告書ヲ發シタルニ指定期限内ニ納付セサルニ付鑛業(砂礫採掘業)ノ許可取消方申請書也  
 明治「何」年「何」月「何」日  
 朝鮮總督府 何府尹(郡守) 氏 名印

○朝鮮總督府訓令第四十七號(官報五月三十日)

朝鮮總督府守考査及試験規則左ノ通定ム

明治四十四年五月二十五日

朝鮮總督 伯壽寺內正毅

朝鮮總督府典獄

朝鮮總督府守考査及試験規則

第一條 守考ヲ守長ニ任用スルニハ先ツ實務ノ成績ヲ考査シ優等者ヲ選拔シテ更ニ學術試験ヲ行フモノトス

第二條 實務成績ハ隨時左ノ項目ニ付考査表ニ記入スヘシ

- 一 姿勢・禮式・服裝其ノ他規律ニ關スル事項
- 二 職務ノ當否
- 三 職務ノ他否
- 四 書類報告ノ整否
- 五 特技ノ有無
- 六 其ノ他典獄ノ必要ト認メタル事項

第三條 實務成績ニ付テハ守長ノ意見ヲ徵シ考査表ニ照合シテ其ノ優劣ヲ判定スヘシ

第四條 學術試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ但シ第五號第六號ノ科目ハ便宜之ヲ省略スルコトヲ得

- 一 監獄ニ關スル法規
  - 二 刑事ニ關スル法規ノ大要
  - 三 會計ニ關スル法規ノ大要
  - 四 算術(比例百分算迄)
  - 五 朝鮮語(朝鮮人タル者守ニ在リテハ國語)
  - 六 外國語
- 第五條 學術試験ヲ行フヘキ時期ハ須要ニ應ジ朝鮮總督之ヲ定ム
- 第六條 試験ヲ行ヒタルトキハ試験成績表ニ考査表ヲ添ヘ朝鮮總督ニ之ヲ報告スヘシ
- 第七條 考査表及試験成績表ハ別記樣式ニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記樣式)

考査表

明治 年 月 日 拜命	「某」監獄(分監)	
明治 年 月 日 轉勤 課長授與	「石」守(部長) 氏	
名	生年月日	
考査事項	實	成
至 白	至 白	至 白
明 治	明 治	明 治
「何」	「何」	「何」
年 一	年 六	年 七
月 月	月 月	月 月
		十二月
至 白	至 白	至 白
明 治	明 治	明 治
「何」	「何」	「何」
年 六	年 一	年 一
月 月	月 月	月 月
		二月
考査ノ當否		
考査式(服裝其ノ他紀律ニ關スル事項)		

備考	監獄ニ關スル法規	刑事ニ關スル法規	會計ニ關スル法規	家計ニ關スル法規	術ハ朝鮮語又ハ國語	外國語	平均點數	在勤地及職名	氏名	職務ノ勉否	書類報告ノ整否	特技ノ有無	何何	何何	備考 他ノ監獄ニ轉勤シタルトキハ本表ヲ轉勤先ノ監獄ニ引繼クヘトモノトス

○内務省訓令第九號

土木事業従務員旅費月額支給規程左ノ通相定メ明治四十四年六月一日ヨリ施行ス  
 明治三十八年四月内務省訓令第二六四號土木出張所員旅費月額支給規程ハ之ヲ廢止ス  
 明治四十四年六月一日 内務大臣 法學博士男爵平田東助

内務省土木事業従務員旅費月額支給規程  
 第一條 工區事務所、土地收用事務所、測量其他ノ調査、山地作業檢査及在勤場所所在地工場ニ従務スルモノニハ其ノ従務中旅費トシテ左表ノ月額ヲ支給スヘシ  
 (一) 工區事務所員旅費月額

工區主任	技師	五等以上	六拾圓
同	技師	六等以下	五拾圓
工場主任	同	五等以上	參拾圓
同	技師	六等以下	貳拾五圓
同	同	五級俸以上	拾八圓
同	同	六級俸以下	拾五圓
附屬員	技師	五等以上	貳拾貳圓
同	同	六等以下	拾八圓
同	同	五級俸以上	拾貳圓
同	同	六級俸以下	拾圓
同	同	月給三十圓以上	拾圓
同	同	月給一圓以上	七圓
同	同	未滿	七圓



(二) 土地收用事務所員旅費月額

主任	技師	五等以上	五拾圓
同	同	六等以下	四拾五圓
技手及屬	同	五級俸以上	參拾五圓
同	同	六級俸以下	參拾圓
技手及屬	同	五級俸以上	參拾圓
同	同	六級俸以下	貳拾五圓
附屬員	同	月給三十圓以上	貳拾五圓
同	同	月給二圓以上	貳拾圓
雇及工費雇	同	未滿	

(三) 測量其ノ他ノ調査員旅費月額

技師	五等以上	六拾圓
同	六等以下	五拾圓
技手	五級俸以上	四拾圓
同	六級俸以下	參拾五圓
雇及工費雇	同	參拾五圓
同	月給三十圓以上	參拾五圓
同	月給二圓以上	參拾圓
同	未滿	

(四) 山地作業検査員旅費月額

技師	五等以上	八拾圓
同	六等以下	七拾圓
技手	五級俸以上	五拾五圓
同	六級俸以下	四拾五圓

(五) 在勤廳所在地工場員旅費月額

雇及工費雇	月給三十圓以上	四拾五圓	
同	同	未滿	
工場主任	技師	五等以上	貳拾五圓
同	同	六等以下	拾八圓
同	同	五級俸以上	拾貳圓
同	同	六級俸以下	拾圓
同	同	五等以上	拾八圓
同	同	六等以下	拾五圓
同	同	五級俸以上	九圓
同	同	六級俸以下	七圓
同	同	月給三十圓以上	七圓
同	同	月給二圓以上	七圓
同	同	未滿	五圓

第二條 測量其ノ他ノ調査及山地作業検査ニ従事スルモノハ其ノ業務ヲ始ムル地ニ著ノ翌日ヨリ

歸途ニ就クノ日ノ前日迄日割ヲ以テ月額ヲ支給スヘシ

第三條 事務所ニ従務スルモノハ其ノ事務所ニ著ノ翌日ヨリ同所ヲ發スル前日マテ日割ヲ以テ月額ヲ支給スヘシ

第四條 事務所又ハ工場ニ従務スルモノ片道三里以上隔リタル他ノ事務所又ハ工場ヲ兼務スルトキハ第一條ノ月額ニ參圓ヲ増給スヘシ但兼務場所遠距離ニ涉リ増給ノ範圍内ニ於テ支辨シ能ハサルトキハ特ニ一般旅費ヲ支給スルコトアルヘシ

在勸勵所在地ノ工場ノミヲ兼務スル場合ハ本條ヲ適用セス  
 第五條 在勸勵又ハ勸務場所ヨリ直ニ第一條ノ業務ニ従事スルモノハ其ノ當日ヨリ月額ヲ支給ス  
 第六條 在勸勵又ハ勸務場所ヲ發シ用務地ヘ著ノ日マテ及該地ヲ發シ在勸勵又ハ勸務場所ニ著ノ  
 日マテハ一般旅費ヲ支給スヘシ  
 第七條 事務所又ハ工場移轉若ハ甲場所ノ用務ヲ終了レ乙場所ニ移ルトキハ其ノ出發ノ日ヨリ若  
 ノ日マテハ一般旅費ヲ支給スヘシ  
 第八條 月額日割ノ方法ハ支給スヘキ日數ニ月額ヲ乘シテ之ヲ三十分スルモノトス  
 但一旅行毎ニ打切リ計算スヘシ

○大藏省訓令第二十七號

府縣

河川法及砂防法ニ依ル府縣納付金ニ關スル大藏省所管治水費資金歳入豫定計算書ハ明治二十五  
 年ニ大藏省訓令第十號及明治二十六年一月大藏省訓令第一號ニ依リ編製進達スヘシ

明治四十四年六月十四日

大藏大臣 公爵桂太郎

○大藏省訓令第二十八號

大藏省所管經費仕拂令官

明治四十三年四月大藏省訓令第十二號様式中左ノ通改正ス  
 明治四十四年六月二十日

大藏大臣 公爵桂太郎

諸支出金調書

科		目		仕		要		取		算		度		額		送引		算		項	
諸支出金(項)		退官賜金		内		官氏名		在職最終ノ官等係給ノ		賜金額		死亡年月日		内		官職氏名		金		額	

賠償金	但シ何々(所要ノ事由ヲ詳記スヘシ)
訴訟費	但シ何々(所要ノ事由ヲ詳記スヘシ)
地所家屋公課	但シ何々(所要ノ事由ヲ詳記スヘシ)

○大藏省訓令第二十九號

明治四十三年<sup>三</sup>大藏省訓令第五號内國稅徵收費科目中處分費ノ頂滯納處分費ノ目車賃ノ節ノ一舟車馬類備賃ニ改ム

明治四十四年六月二十八日

大藏大臣 公藤桂太郎

稅務監督局

○陸軍省訓令第十一號

明治四十四年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十四年六月二日

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

陸軍一般

歲出經常部

款	項	日	節
軍事費	修繕費		

歲出臨時部


陸軍營繕費補充資金

款	項	日	節
砲臺建築費	東京灣砲臺建築費		
	監督諸費		

陸軍營繕費補充資金

款	項	日	節
陸軍營繕費補充資金	陸軍營繕費補充資金		
	辦價及遠約金		

○陸軍省訓令第十二號

明治四十四年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

陸軍一般

歳出經常部

款	項	目	部
軍事費	俸給		
	修繕費		
	賃費		
	不仕		
	旭川衛皮地官舎棟		
	旭川衛皮地官舎棟		
	旭川衛皮地下水溝		
	旭川衛皮地下水溝		
	基隆各部隊倉庫修繕		
	中央幼年學校生徒會棟修繕		
	青森縣區司令部敷地修繕		
馬政局			
	俸給		
	賃費		
	不仕		
	不仕		

△印付費

歳出臨時部

款	項	目	部
海軍臨時費			

○陸軍省訓令第十三號

明治四十四年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス  
 明治四十四年六月二十七日

歳出經常部

款	項	目	部
軍事費			
	東京府砲臺修繕費		
	新營費		
	不仕		
	各所新營		
	不仕		
	戰後整理費		
	戰後整理費		
	物件費		
	不仕		
	被服費		
	不仕		
	滿洲駐劄部隊ハス		
	防風其他設備費		
	環防及消毒路費		
	防風其他設備費		
	不仕		
	不仕		

陸軍大臣 伯爵寺内正毅

陸軍一校

△印付費

大阪砲兵工廠作業  
歳入

款	項	日	節
大阪砲兵工廠作業 歳入	雑 收 入	雑 入	
		雑 入	
			雑 入

○文部省訓令第十號

明治四十四年度當省所管學校及圖書館歳入歳出科目表ニ左ノ通追加ス

明治四十四年六月三十日

大臣官房會計課 直轄諸學校 帝國圖書館 文部大臣 小松原英太郎

○朝鮮總督府訓令第四十八號 (官報 六月五日)

地方費ノ支辨ニ關スル工事及物件ノ賣買ニ關シテハ同費ノ例ニ依ルヘシ

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府訓令第四十九號 (官報 六月五日)

朝鮮總督府臨時土地調查局事務員講習規程左ノ通定ム

明治四十四年五月三十日

朝鮮總督府臨時土地調查局

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮總督府臨時土地調查局事務員講習規程

- 第一條 本講習ハ土地調査ニ必要ナル學科ヲ授クルヲ目的トシ臨時土地調査局ニ於テ之ヲ行フ
- 第二條 講師ハ臨時土地調査局職員中ヨリ臨時土地調査局總裁之ヲ命ス但シ總裁ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時土地調査局職員ニ非サル者ニ講師ヲ囑託スルコトヲ得
- 第三條 講習生ハ臨時土地調査局職員中ヨリ臨時土地調査局總裁之ヲ命ス
- 第四條 講習ノ期間ハ三月乃至六月ノ範圍内ニ於テ臨時土地調査局總裁之ヲ定ム
- 第五條 講習學科目課程及授業時數ハ左ノ如シ

學科目

課程

授業時數

- 一 修身 (修身訓話、官吏服務心得) 一
  - 二 算術 (四則比例) 一
  - 三 法制 (土地ニ關スル制度、慣習及法規ノ大要) 四
  - 四 實習 (土地調査ニ關スル實習) 四
  - 五 朝鮮語 (講讀、作文會話) 二〇
- 前項ノ學科目課程及授業時數ハ必要ト認ムルトキ之ヲ變更スルコトヲ得
- 第六條 休業日ハ臨時土地調査局ノ例ニ依ル
- 第七條 講習ヲ終ヘタルトキハ各學科目ニ付其ノ成績ヲ考査シ講習證書ヲ授與ス

○朝鮮總督府訓令第五十號 (官報 六月六日)

朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締非番勤務手當及特別手當支給規則左ノ通定

明治四十四年六月一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締非番勤務手當及特別手當支給規則  
區別ニ依リ非番勤務手當ヲ支給ス

内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
一日十二時間以上勤務ノ者	一日三時間以上十二時間未滿勤務ノ者	一日十二時間以上勤務ノ者	一日三時間以上十二時間未滿勤務ノ者
五十 錢	三十 錢	三十 錢	二十 錢

三時間未滿勤務ノ者ニハ非番勤務手當ヲ支給セス

第二條 朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ニレテ通譯其ノ他特別ノ技能ヲ要スル事務ヲ兼掌スル者ニハ明治四十四年朝鮮總督府訓令第十八號ニ依ルモノノ外左ノ區別ニ依リ特別手當ヲ支給ス

一級	二級	三級	四級	五級	六級
内地人 二十四圓	十五圓	十圓	七圓	五圓	三圓
朝鮮人 七圓	六圓	四圓	三圓	二圓	一圓

特別手當支給ノ方法ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

附則

統監府看守及統監府女監取締非番勤務手當、宿料及特別手當支給規則ハ之ヲ廢止ス

○朝鮮總督府訓令第五十一號 (官報 六月七日)

朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締精勤證書授與規則左ノ通定

明治四十四年六月二日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 精勤證書ハ看守及女監取締ノ精勤ヲ證シ其ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條 精勤證書ハ左ノ事項ニ該當スル者ニ對シ典獄之ヲ授與ス

- 一 品行方正
- 二 職務勉勵
- 三 事務熟達
- 四 滿三年間勤続

第三條 左ニ記載シタル者ニ付テハ前條第四號ニ掲クル期間ハ處分ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

一 懲戒處分ニ因リ月俸百分ノ二十以上ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者又ハ一年內ニ二回以上月俸百分ノ二十未滿ニ相當スル減俸ニ處セラレタル者

二 奉職中處刑セラレタル者

第四條 精勤證書ヲ有スル者懲戒處分ニ因リ免職セラレタルトキ、奉職中處刑セラレタルトキ又ハ退職後禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ精勤證書ヲ無効トス

第五條 精勤證書ハ別記雛形ニ依リ調製スヘシ

第六條 第二條第四號ノ期間ハ當分ノ內二年迄ニ之ヲ減縮スルコトヲ得

第七條 明治四十三年朝鮮總督府訓令第二十號ハ之ヲ廢止ス

(別記雛形)

六寸

<p>朝鮮總督府(守女)勸進書</p> <p>朝鮮總督府(守女)氏 名</p> <p>右品行方正ニシテ職務ニ</p> <p>勉勵シ事務ニ熟達ス因テ</p> <p>此證ヲ附與スル者也</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>朝鮮總督府典獄位勳氏名印</p>
--

(參照)

明治四十三年十月一日朝鮮總督府訓令第二十號ハ朝鮮總督府守及朝鮮總督府女監取掃ノ勸進書授與ニ關シテ

○朝鮮總督府訓令第五十二號(官報六月十二日)

職員公務執行ノ場合ハ特ニ所屬長官ノ許可ヲ受ケタル者ヲ除ク外必ス制服ヲ着用スヘシ

明治四十四年六月六日

○朝鮮總督府訓令第五十三號(官報六月十三日)

朝鮮總督府及所屬官署職員ハ當分ノ内從前ノ制服ヲ着用スルコトヲ得

明治四十四年六月八日

○朝鮮總督府訓令第五十四號(官報六月二十日)

明治四十四年朝鮮總督府訓令第三十四號藏入科目表中朝鮮總督府特別會計藏入臨時部ニ左ノ通追加ス

明治四十四年六月十四日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第三款	韓國鐵道資本勸進資金殘餘繰入	項	目	部
第一項	韓國鐵道資本勸進資金殘餘繰入			
第一日	韓國鐵道資本勸進資金殘餘繰入			

朝鮮總督府訓令第五十五號(官報六月二十日)

朝鮮總督府報告例左ノ通定ム

朝鮮總督府所屬官署  
朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮總督府報告例

明治四十四年六月十五日

第一條 朝鮮總督府所屬官署ハ別冊ニ定ムル事項ヲ共ノ順序及様式ニ從ヒ朝鮮總督ニ報告スヘシ但シ機密ニ屬スル報告ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第二條 報告ハ記述及統計ニ區分シ各之ヲ分チテ左ノ六種トス

即報 即時提出スルモノ

日報 即日提出スルモノ

月報 翌月十五日迄ニ提出スルモノ

半年報 上半期ハ八月末日迄下半年期ハ翌年二月末日迄ニ提出スルモノ

年報 曆年調ハ翌年二月末日迄年度調ハ翌年五月末日迄ニ提出スルモノ

特報 隨時提出スルモノ

第三條 即報項目中重大ニシテ急ヲ要スルモノハ電信、電話又ハ急使ヲ以テ其ノ概略ヲ報シタル後詳細ノ報告ヲ爲スヘシ

第四條 報告用紙ハ野紙ヲ用非別紙様式ニ依リ年月日官氏名及宛名ヲ記シ捺印スヘシ

第五條 本例ニ様式ヲ示ササルモノハ適宜調製スヘシ

第六條 報告ニハ主任者共ノ欄外ニ捺印スヘシ

第七條 報告ニ記入スヘキ文字ハ楷書ヲ用ウヘシ

第八條 統計表中一報告ニシテ二頁以上ニ至ルトキハ用紙裏面ノ一行目ニ項目ノ欄ヲ設クヘシ

第九條 統計表中數位ハ金額ニ付テハ單位共ノ他ニ付テハ單位以下二位迄ヲ掲ケ單位ニ付テハ附シ其ノ右傍ニ圓斤噸等單位ノ種類ヲ記入シ千位百位等三位毎ニ付テハ附スヘシ但シ特別ノ定

メアルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 統計表中計數未詳ノ欄ニハ「?」計數ナキ欄ニハ「—」計數ノ單位ニ違セサル欄ニハ「○」ヲ記入スヘシ

第十一條 報告期ニ至リ調査未済等ノ爲報告ノ延期ヲ要スルモノハ其ノ報告期ニ於テ其ノ理由及豫定期日ヲ稟申スヘシ

第十二條 報告事項中報告スヘキ事實ナク又ハ調査シ難キ事故アルトキハ報告期ニ於テ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十三條 記述報告ニハ所定ノ事項以外ニ必要ト認メタルモノヲ掲載スヘシ

第十四條 所屬官署ニ於テ命令又ハ例規ト爲ルヘキ通牒、諭告、訓諭等ヲ登シタルトキハ其ノ全文ヲ即報スヘシ

第十五條 所屬官署ニ於テ職員ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ官職氏名ヲ即報スヘシ但シ總務部人

事局ニ於テ發令シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

(別冊ハ略ス)

別紙様式(記述報告)

年月日

主任檢印

報告提出者官氏名

總督宛

左記(別紙何何ノ件)報告例ニ依リ報告ス  
報告 件名



別紙様式(統計報告)

年月日	報告提出者官氏名
總督宛	主任檢印

左表(別紙何何ノ件)報告例ニ依リ報告ス

○朝鮮總督府訓令第五十六號(官報六月二十二日)

朝鮮總督府警察官署

朝鮮總督府巡查及巡査補ニシテ非番ノ日ニ於テ勤務ヲ爲シタル者ニハ左ノ區分ニ依リ非番勤務手當ヲ支給ス但シ三時間未滿勤務ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一日十二時間以上勤務ノ者	一日三時間以上十二時間未滿勤務ノ者
内地人	内地人
朝鮮人	朝鮮人
五十錢	三十錢
三十錢	二十錢

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年六月十七日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府訓令第五十七號(官報六月二十六日)

道府郡

朝鮮總督府道府郡職員間島、琿春又ハ安東縣地方へ出張スル場合ニ於ケル旅費減額ノ件左ノ通定メ明治四十四年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年六月二十日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 道府郡職員(内地人)間島、琿春又ハ安東縣地方へ出張スル場合ニ於ケル口當、客舍料及食卓料ハ朝鮮總督府旅費規則ニ定ムル朝鮮内旅行ノ場合ト同額ヲ支給シ支度料ハ之ヲ支給セス但シ同規則中宿泊料トアルハ客舍料ニ該當ス

第二條 道府郡職員(内地人)獸疫豫防事務ノ爲前條ノ地方ニ出張スル場合ニ於テハ外國旅費規則ニ定ムル一切ノ旅費ニ代ヘ左ノ日額旅費ヲ支給ス

奏任官

七圓

判任官

五圓

雇員

三圓五十錢

○朝鮮總督府訓令第五十八號(官報六月二十九日)

道府郡

驛屯土小作料滞納者取扱方ノ件左ノ通定ム

明治四十四年六月二十四日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 驛屯土小作料ヲ滞納シタル者アルトキハ面長ヲシテ之ヲ報告セシメ第一號様式ノ督促書ヲ發スヘシ

第二條 督促書ハ使丁又ハ郵便ニ依リ滞納者ノ住所又ハ居所ニ送達スヘシ

第三條 使丁ヲシテ督促書ヲ送達セシムル場合ニ於テハ第二號様式ノ送達書ニ受領者ノ署名捺印ヲ求メシムヘシ

第四條 督促書ヲ受領スヘキ者其ノ受領ヲ拒ミ又ハ滞納者ノ住所若ハ居所不明ナルトキハ督促書ノ全文ヲ府又ハ郡ノ揭示場ニ公示スヘシ

第五條 督促書ニ掲ケタル指定期限ヲ過キ小作料ヲ納入セサル者アルトキハ府尹又ハ郡守ハ驛屯土小作ノ認許ヲ取消シ其ノ冒本人ニ通知スヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ滞納者カ資力ヲ有スルトキハ府尹又ハ郡守ハ民事訴訟ノ手續ニ依リ小作料ノ請求ヲ爲スヘシ

滞納者無資力ニシテ前項ノ請求ヲ爲スモ小作料ヲ收入スヘキ見込ナシト認ムルトキハ其ノ事由ヲ詳記シタル缺損決議書ヲ作り缺損處分ヲ爲スヘシ

第一號様式

督促書

第「何」號

住所又ハ居所

氏 名

一金「何程」 明治「何」年分驛屯土小作料

(二般「何程」)

右明治「何」年「何」月「何」日限り納入スヘキ感納額ニ付更ニ本書ヲ以テ督促候明治「何」年「何」月「何」日限り「何」金「何」程「何」程又ハ何所ニ納入スヘシ若此ノ期限ヲ過キ納入セサルトキハ驛屯土小作ノ認許ヲ取消ス

「何」府尹(郡守) 氏 名 印

第二號様式

送達書

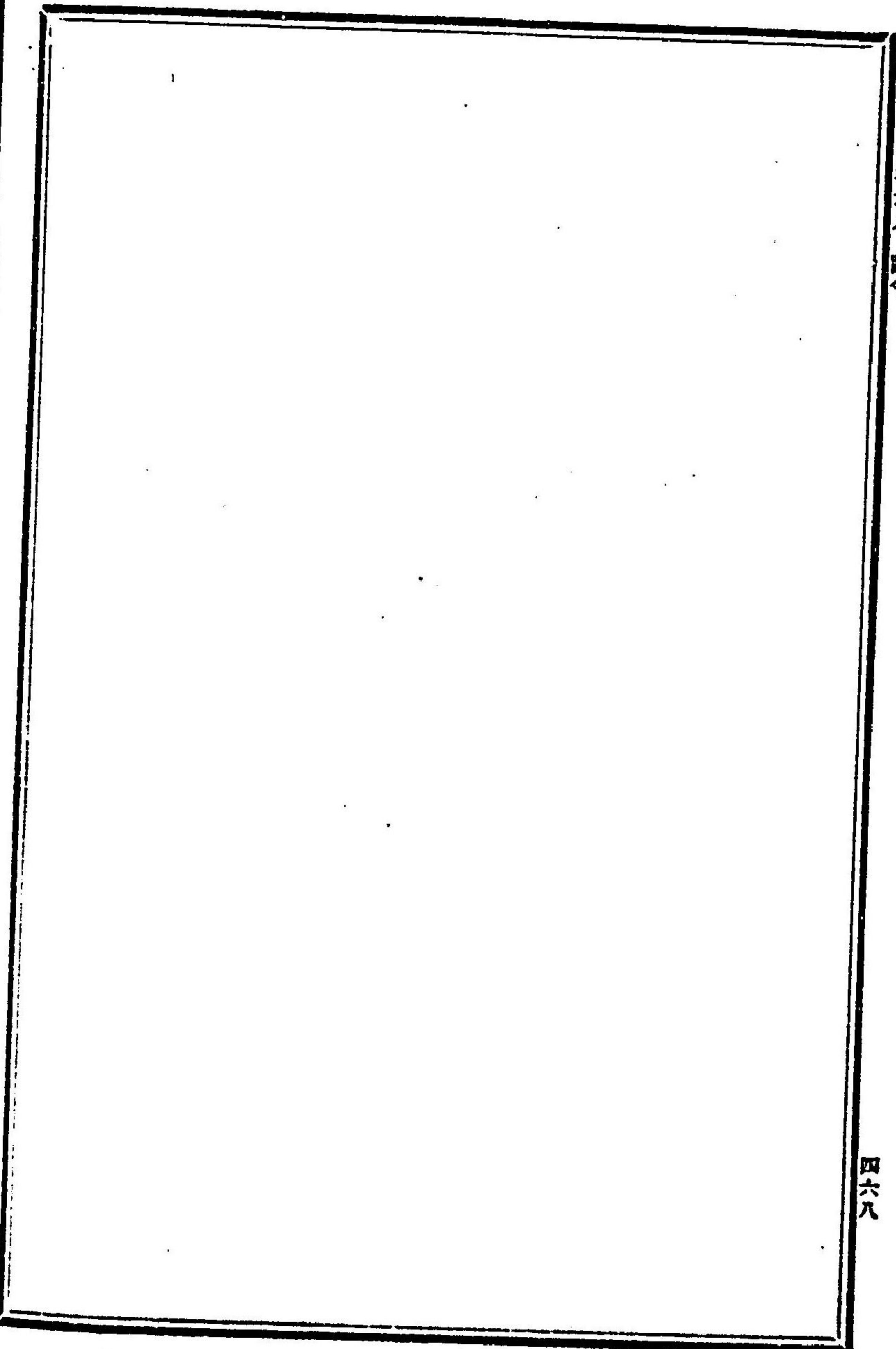
送達スヘキ書名通數	
名宛人ノ氏名	
名宛人ノ住所又ハ居所	
右使丁ヲシテ送達セシム	
明治「何」年「何」月「何」日	
「何」府尹(郡守) 氏 名 印	

送達書

送達シタル書名通數	
名宛人ノ氏名	
受領者ノ署名捺印	
送達シタル日時	
右ノ通取扱候也	
使丁 氏 名 印	

明治四十四年六月 訓令

四六八



○陸軍省訓令第十四號

明治四十四年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十四年七月七日

歳入臨時部

陸軍大臣 伯爵寺内正毅  
△印増設

款	項	目	節
官有物拂下代	△船船拂下代		
		△船船拂下代	
歳出臨時部			
款	項	目	節
臨時軍奉費	△臨時軍奉費		
		△一時賜金	
		△從軍記章費	

○陸軍省訓令第十五號

明治四十四年度當省所管歳入歳出科目表中左記ノ通増設ス

明治四十四年七月十四日

陸軍大臣 伯爵寺内正毅  
陸軍一般

明治四十四年七月 訓令 陸軍省第十四號 第十五號

四六九

歲出經常部

款	項	目	節
軍事費	修繕費		
		軍馬補充部購蹄支 軍官會費修繕費 大村附屬場地的場 模範營	
歲出臨時部			
款	項	目	節
戰後整理費	戰後廢務整理費	物件費	
		築造費	

八印附設

○文部省訓令第十一號

明治四十三年文部省訓令第十八號行幸啓ノ節學生生徒ノ敬禮方中左ノ通改正ス  
明治四十四年七月十二日

北海道廳 府縣  
直轄學校

文部大臣 小松原英太郎

武裝セサル場合ノ項中、御車カ組ノ右翼約十歩ニ近キタルトキヲ、御車カ指揮者ノ前ニ達シタルトキニ改ム

〔參照〕

文部省訓令第十八號(學生生徒敬禮方)(明治四十三年八月二十六日抄録)

二 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見ニタルトキ、氣ヲ付ケ、命令ヲ下シ、一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラン。御車カ組ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ、隨ノ命令ニテ敬禮セシメ、禮ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈セシム。添二元ノ姿勢ニ復セシム。

御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス。

○文部省訓令第十二號

今般高等女學校及實科高等女學校教授要目左ノ通之ヲ定ム。地方長官ハ宜シク各學校長ヲシテ本要目ニ準據シテ適切ナル教授細目ヲ編成セシメ、以テ各學科目教授ノ内容ヲ充實シ克ク當該學校教育ノ本旨ヲ貫徹セシメンコトヲ期セラルヘシ

明治四十四年七月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

高等女學校及實科高等女學校教授要目

本要目實施上ノ注意

修身

國語

外國語

歷史

地理

北海道廳 府縣

- 數學  
 理科  
 圖畫  
 家事  
 裁縫  
 音樂、唱歌
- 本要目實施上ノ注意  
 一 各學科目ヲ教授スルニハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルコトヲカムルト共ニ互ニ聯絡補益シテ統一ヲ保ツンコトヲ要ス  
 二 本要目ニ掲ケタル事項及順序ハ斟酌ヲ加フルモ妨ナシ  
 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ヲ注入シ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメテ實用ニ資セシメンコトヲカムヘシ  
 四 教授ハ學年ノ始ニ精シクシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサフンコトヲ要ス  
 五 教授用具ハ教授上差支ナキ限り成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テント  
 六 實科高等女學校ニ於ケル理科及家事ハ交互連結シテ之ヲ授ケテ可ナリ

高等女學校

第一學年及第二學年

每週二時

生徒心得

學校、家庭、國家及社會ニ關聯シテ日常心得ヘキ事項ヲ教授シ生徒タルノ本分ヲ明ニ悟ラシムヘシ

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦暗寫セシムヘシ

道德ノ要領

- 誠實 勤勉 貞淑 溫良 忍耐 廉耻 節制 身體ノ鍛鍊等  
 孝行 友愛等  
 敬愛 從順 信義 恭儉 禮節 同情 寬恕 謝恩等  
 忠君 愛國等  
 以上ノ事項ハ適切ナル例話ヲ舉ケテ平易ニ教授スヘシ  
 作法

第二學年及第四學年

每週二時

戊申詔書

詔書ノ全文ニ就キテ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ知ラシムヘシ

道德ノ要領

- 皇位及皇室  
 國體 臣民  
 家 祖先 父母 兄弟姊妹 親族 僕婢  
 夫婦 舅姑 夫ノ兄弟姊妹 子女  
 社會ノ秩序 風俗 公益 職業 名譽 財產  
 人格 女子ノ本分  
 我國道德ノ特質  
 我國道德ノ由來 祖先尊崇 忠孝一致 愛國奉公

作法

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ本要目中第三學年第四學年ニ掲ケタル事項ヲ第三學年第四學年及第五學年ノ三學年ニ互リ適宜ニ配當シテ教授スヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週二時

高等女學校第一學年及第二學年ニ準ス

第二學年及第四學年

每週一時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

修業年限三箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等女學校第一學年及第二學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

第二學年及第三學年

每週一時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

修業年限二箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週一時

生徒心得

教育ニ關スル勅語 戊申詔書

勅語・詔書ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ悟ラシムヘシ

道德ノ要領 高等女學校第二學年及第四學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ

作法

注意

- 一 教育ニ關スル勅語ハ第一學年ニ於テ之ヲ授ケ第二學年以上ニ於テハ每學年適宜若干ノ時間ヲ以テ復習セシムヘキノミナラス常ニ教授ノ話題ヲ此ニ求メ聖旨ノ存スル所ヲ切實ニ領得セシムヘシ
- 二 修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ應ジシメ又力メテ實際ノ生活ニ適切ナラシメンコトヲ要ス
- 三 本要目中何レノ事項ニ就キテモ本邦古來ノ女子ノ美風ニ鑑ミテ適切ナル教授ヲ爲シ婦徳ヲ養成センコトヲ力メ殊ニ「家」ニ就キテハ意ヲ用ヒテ教授センコトヲ要ス
- 四 本要目中責務ノ對照ヲ示セルモノニ就キテハ主トシテ之ニ對スル責務ヲ説キ且之カ實踐ニ必要ナル諸徳ノ涵養ヲ力メンコトヲ要ス
- 五 作法ヲ教授スルニハ克ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス
- 六 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル時又ハ國民ノ記念スヘキ日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

國語

高等女學校

講讀

講讀ノ材料ハ普通文ヲ主トシ口語文・書牘文・韻文ヲ交フ  
 普通文ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ交フ何レモ平易ニシテ作文ノ模範トスヘキモノナルヘシ  
 口語文ハ簡明ニシテ方言ヲ雜フルコトナク口語ノ標準ヲ示スニ足り話方・作文ノ模範トスヘキモノナルヘシ

書讀文ハ平易ニシテ繁縟ニ失セス日用書讀文ノ模範トスヘキモノタルヘシ  
韻文ハ新體詩・短歌・今樣俳句等ニ互リテ格調高雅ナルモノタルヘシ  
右諸種ノ文章ハ我國體及民族ノ美風ヲ記シ國民性ヲ發揮スルニ足ルモノ、健全ナル思想ヲ述  
ヘ温良貞淑ノ女徳ヲ涵養スルニ足ルモノ、古今東西ノ美德善行アル女子ノ事蹟又ハ忠貞賢哲  
ノ言行ヲ敏シ修養ニ資スヘキモノ、高尚ナル趣味ニ富ミ心情ヲ優雅ナラシムヘキモノ、及日常  
ノ生活ニ裨益シ常識ヲ養成スルニ足ルモノ等タルヘシ

作文

作文ハ現代文及書讀文ヲ主トシ口語文ヲ併セ課スヘシ

文法

文法ハ現代文ニ通有セル法則ヲ説明スヘシ

習字

習字ハ楷書・行書・草書ノ三體及假名トシ大字・細字ヲ練習セシムヘシ但シ假名ハ主トシテ平假  
名ヲ授クヘシ

第一學年

每週六時

講讀

讀本ハ尋常小學校トノ聯絡ヲ圖リ現代文ヲ主トシ口語文書讀文ヲ交ヘ間讀文ヲ加ヘテ組織セ  
ルモノタルヘシ

讀方及解釋

發音ヲ明確ニシ句讀ヲ正シクシ假名遣漢字ノ字畫用法及語句・文章ノ意義ヲ領得  
シテ全文ノ大意ヲ把握セシメ文意・文勢ヲ誦讀ノ上ニ表サシメ材料ニ應ジテ文章ノ妙味ヲ玩  
味セシメ布置・結構ヲ説明シテ思想排列ノ法ヲ知ラシムヘシ

話方 主トシテ讀本所載ノ事項ニ就キ談話ヲ練習セシム共ノ際發音ニ注意シ方言訛言ヲ矯正

センコトヲカムヘシ

暗誦 隨時適當ナル章句・文章及格言等ヲ暗誦セシムヘシ

書取 讀本若ハ讀本以外ノ語句・文章ヲ筆記セシメ假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫用法ヲ正確ニシ且  
速記ノ習慣ヲ養フヘシ

作文

主トシテ自作文ヲ課シ便宜生徒既習ノ事項ニ關聯シテ文話ヲ爲シ又正誤法・敷衍法・短縮法・改作  
法(復文)等種々ノ練習ヲ行フヘシ

自作文ハ種類ニ就キテハ記事文・敘事文・書讀文トシ文體ニ就キテハ文語文ヲ主トシ口語文ヲ併  
セ課スヘシ

習字

楷書・行書及假名ノ大字・細字

講讀

前學年ニ準ス

作文及文法

前學年ニ準ス

作文

前學年ニ準ス

文法

品詞類ノ大要

習字

前學年ニ準ス

習字

前學年ニ準ス

每週一時

第三學年

每週五時

講讀

讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文・口語文・書牘文ヲ交ヘ間、訓文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ  
讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作文及文法

每週一時

作文

前學年ニ準ス但シ自作文ハ其ノ種類ニ就キテハ書牘文ノ比ヲ多クスヘシ  
文法

文章論ノ大要

習字

每週一時

行書・草書及假名ノ大字・細字

第四學年

每週五時

講讀

讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文・近古文ヲ交ヘ間、書牘文・讀文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ  
讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作文

每週一時

前學年ニ準ス但シ自作文ハ其ノ種類ニ就キテハ書牘文ヲ主トシ、記事文・敘事文及論說文ヲ加ヘ  
文體ニ就キテハ專ラ文語文ヲ用フヘシ

習字

每週一時

行書・草書及假名ノ細字

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ第四學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

講讀

講讀ノ材料ハ普通文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交フ但シ多少ノ讀文ヲ加フルモ妨ナシ  
普通文ハ現代文ヲ主トシ數篇ノ近世文・近古文ヲ交フ

普通文・口語文及書牘文等ノ選擇上ノ標準ハ高等女學校教授要目ニ據ル但シ一層實際ニ適切  
ナランコトニ注意シ高等女學校ニ比シテ不足セル學科目ノ材料ハ便宜之ヲ加フヘシ

作文

高等女學校ニ準ス但シ修業年限二箇年ノモノニ在リテハ口語文ヲ缺ク

文法

習字

高等女學校ニ準ス

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週六時

講讀

讀本ハ尋常小學校トノ聯絡ヲ圖リ現代文ヲ主トシ口語文・書牘文ヲ交ヘテ組織セルモノタルヘシ  
讀方及解釋 話方 暗誦 書取

高等女學校第一學年ニ準ス



作文

習字

高等女學校第一學年ニ準ス

每週一時

講讀

第二學年

每週六時

第一學年ニ準ス

每週四時

作文及文法

習字

高等女學校第二學年ニ準ス

每週一時

講讀

第二學年

每週六時

讀本ハ現代文ヲ主トシ口語文・書讀文ヲ交ヘ間、近世文ヲ加ヘテ組織セルモノナルヘシ

作文及文法

習字

高等女學校第三學年ニ準ス

每週一時

講讀

第四學年

每週六時

讀本ハ現代文ヲ主トシ書讀文ヲ交ヘ間、近世文・近古文ヲ加ヘテ組織セルモノナルヘシ

作文

習字

高等女學校第四學年ニ準ス

每週一時

修業年限三箇年ノモノ

第一學年乃至第三學年

每週六時

修業年限四箇年ノモノ、第二學年乃至第四學年ニ準ス

修業年限二箇年ノモノ

每週六時

修業年限四箇年ノモノ、第二學年及第四學年ニ準ス但シ文法ハ高等女學校第二學年及第三學年ノ要目ニ據リ便宜講讀作文等ニ附帶シテ教授スヘシ

注意

- 一 各分科ノ教授ハ互ニ聯絡補益センコトヲ力ムヘシ
- 二 講讀ノ際ニハ常ニ他ノ學科目ト相俟テ生徒ノ思想感情ヲ啓發陶冶センコトヲ期スヘシ
- 三 漢字ヲ教授スル際ニハ普通ニ行ハル、字音或俗字、和字略字等ノ字體ヲ避ケス實用ニ適センコトヲ主トシテ煩瑣ナル考證ニ趨ラサランコトヲ要ス
- 四 字畫及語意ノ異同ハ常ニ相對比シテ教授シ又其ノ語ヲ部分トセル普通ノ熟語ヲ附帶シテ教授スヘシ
- 五 故事・古語等ハ大體ノ説明ヲ與フルニ止メ共ノ出典等ニ關シテ煩瑣ナル穿鑿ニ趨ラサランコトヲ要ス
- 六 適當ノ時期ニ於テ字書ノ用法ヲ授ケ共ノ使用ニ慣レシムヘシ
- 七 作文ハ達意ヲ主トシ用語ノ爲ニ思想ヲ拘束スルノ弊ニ陥ラサランコトヲ期スヘシ

- 八 書讀文ハ上級ニ進ムニ隨ヒ草案ヲ起サス直ニ用紙ニ認ムル習慣ヲ養フヘシ
  - 九 作文ハ添削ノ際批正スヘキ部分ニシテ生徒ノ自ラ訂正シ得ヘキモノハ符號ヲ附シテ推致ヲ促シ共通セル誤謬又ハ參考ニ資スヘキ事項ハ之ヲ一般ニ知ラシムル等常ニ其ノ成績ヲ利用センコトヲ力ムヘシ
  - 十 作文ハ初ハ主トシテ即題ヲ課シ學年ノ進ムニ隨ヒテ漸ク之ヲ減シ宿題ト相半スルニ至ラシムヘシ
  - 十一 文法ハ本要目ニ示シタル順序ニ依ラス品詞論ト文章論トヲ相聯結シテ教授スルモ可ナリ
  - 十二 文法ハ特ニ其ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ便宜講讀作文等ニ附帶シテ之ヲ教授シ又ハ練習セシムヘシ
  - 十三 文法ハ實例ニ就キテ歸納的ニ教授シ實用ニ適切ナラシメンコトヲ要ス
  - 十四 習字ヲ教授スル際ニハ問架結構ノ大要ヲ知ラシムヘシ但シ專ラ實用ニ適切ナラシメンコトヲ主トシ徒ニ繁雜ナル書論ニ互ルコトヲ避クヘシ
  - 十五 作文其ノ他書寫ノ際ニモ毎ニ習字ニ關スル注意ヲ與ヘ又普通ニ用ヒサル假體假名ヲ避ケルムヘシ
- 外國語
- 高等女學校
- 外國語ノ各分科ニ於テ授クル事項左ノ如シ
- 發音 綴字
- 單語ニ就キテ單音連音、あくせんと及文字ノ組合セテ授ク
- 讀方及譯解
- 文章ノ聽方讀方及解釋ヲ授ク

- 話方及作文
- 話方ニ於テハ對話ノ聽方言方ヲ授ク
- 作文ニ於テハ凡左ノ諸例ニ準シ適宜之ヲ課ス
- 一 讀方及譯解又ハ話方ニ於テ練習セル事項ヲ應用シテ記述セシムルモノ
  - 一 國語ヲ外國語ニ譯セシムルモノ
  - 一 記述スヘキ事項ノ梗概ヲ授ケ又ハ使用スヘキ語句ヲ示シテ之ヲ綴ラシムルモノ
- 書取
- 文章ヲ監寫セシメ又ハ之ヲ朗讀シテ筆記セシム
- 習字
- 書寫文字ノ書方ヲ授ク
- 文法
- 他ノ分科教授ノ際便宜簡易ナル事項ヲ知ラシム
- 第一學年 每週三時
- 發音 綴字
- 初ハ專ラ發音綴字ヲ授ケ後ニハ他ノ分科ニ關聯シテ之ヲ練習セシムヘシ
- 讀方及譯解 話方及作文 書取
- 近易ナル文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ近易ナル話方及作文書取ヲ練習セシムヘシ
- 習字
- 成ルヘク既習ノ語句文章ニ就キテ之ヲ授クヘシ
- 第二學年 每週三時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍々進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

習字

前學年ニ準ス

每週三時

第三學年及第四學年

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ更ニ進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ第四學年ニ準シ稍々進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

注意

- 一 發音ハ何レノ學年ニ於テモ之ヲ忽ニスヘカラスト雖モ初期ノ教授ニ於テハ特ニ注意シテ之ヲ正スヘシ
- 二 發音ヲ授クルニ際シ必要アルトキハ舌齒唇等ノ位置ヲ説明シ又ハ發音圖ヲ示スヘシ
- 三 綴字ヲ授クルニ際シテハ便宜羅馬字綴ヲモ授クヘシ
- 四 讀方及譯解ニ於テハ場合ニ依リ實物・繪畫等ヲ用ヒ又彼我風俗習慣等ノ相違ヲ説キテ意義ノ了解ヲ助クヘシ
- 五 教授中教師ハ生徒ノ了解シ得ル程度ニ於テ成ルヘク外國語ヲ使用スヘシ
- 六 生徒ノ學力ニ應ジテ正確明瞭ニ會得セル文章ニ就キ時々暗誦ヲ課スヘシ
- 七 適當ノ時期ニ於テ豫習ヲ課シ又辭書ノ用法ヲ授クヘシ

高等女學校

日本歷史

第一學年

每週一時

神代 皇基ノ遠祖

神武天皇

崇神天皇 垂仁天皇

日本武尊

三韓 任那及三國 神功皇后 文物ノ傳來

仁德天皇

大陸トノ交通 朝鮮半島ノ變遷

佛教ノ傳來 蘇我物部兩氏ノ爭亂

聖德太子 支那ヘノ使節派遣

佛教ノ興隆 美術・工藝ノ進歩

蘇我氏ノ無道

大化ノ新政

蝦夷ノ服屬

朝鮮半島ノ變遷

奈良奠都 卑人及西南諸島ノ服屬

聖武天皇 光明皇后 奈良時代ノ佛教・文物

和氣清麻呂及廣田

平安奠都 蝦夷ノ鎮定

朝鮮半島ノ變遷 渤海ノ入貢

佛教ノ新宗派

攝政・關白

菅原道真

地方ノ情況 承平・天慶ノ亂

平安時代ノ文物

刀伊ノ入寇 前九年・後三年ノ役

後三條天皇 僧兵

源平二氏ノ隆替 平氏ノ滅亡

第二學年

源賴朝 鎌倉幕府

鎌倉時代ノ佛教・文物

蒙古ノ高麗 元寇

朝廷ノ幕府

北條氏ノ滅亡

建武中興 足利尊氏ノ反 楠木正成・新田義貞等ノ勤王

吉野ノ朝廷

室町幕府

關東管領

應仁ノ亂

室町時代ノ佛教・文物

每週二時

群雄割據

明トノ交通

織田信長

豐臣秀吉 朝鮮征伐

德川家康 關ヶ原ノ戰 豐臣氏ノ滅亡

江戸幕府 德川家光

海外諸國トノ交通 天主教ノ禁 島原ノ亂

德川綱吉 德川吉宗

江戸時代ノ佛教・文物 西洋學術ノ傳來

諸藩ノ治

國史古典ノ研究 尊王論

露國人ノ來航 海防論 蝦夷地ノ開拓

亞米利加合衆國使節ノ來朝 開港攘夷ノ論 和親條約

安政ノ大獄 幕府ノ衰頹

長州征伐

大政奉還

鳥羽・伏見ノ戰 明治戊辰ノ役

現代ノ一般

第四學年

明治維新 東京奠都

第二學期ノ後半及第三學期每週二時

版籍奉還 廢藩置縣

外交 歐米文物制度ノ採用 徵兵ノ制

朝鮮トノ關係 征韓論

清國トノ修好 臺灣事件

北海道ノ拓殖 千島樺太ノ交換

地方ノ騷亂

朝鮮トノ修好

朝鮮京城ノ變 天津條約

內閣制度ノ創立 地方自治制ノ實施

憲法發布 帝國議會

法典編纂 條約改正

明治二十七八年戰役 戰後ノ經營

明治三十三年清國事變 日英同盟

明治三十七八年戰役

戰後ノ經營 諸外國トノ關係

韓國併合

學術ノ進歩 交通機關ノ擴張 產業貿易ノ振興

世界ニ於ケル日本ノ地位

外國歷史

第三學年

甲 支那ヲ中心トセル東方諸國

每週一時

上代ノ支那 夏殷周ノ三代

春秋戰國 秦ノ統一

孔子

兩漢ノ興亡

西域トノ交通 佛教ノ東流

三國 晉ノ統一

南北朝 隋ノ統一

唐ノ興亡 五代 宋ノ統一

遼金ノ興亡

蒙古ノ勃興 宋ノ滅亡

元ノ衰亡 明ノ統一

明ノ衰運 滿洲ノ勃興

莫臥兒帝國 葡萄牙和蘭等ノ東洋經營

清ノ統一

聖祖 高宗 清露ノ交渉

鴉片戰役

長髮賊 英佛軍ノ侵入

露國ノ滿洲及中央亞細亞經營

佛國ノ印度支那經營 清佛戰爭

清國ト歐米列強トノ關係

第四學年 第一學期、第二學期ノ前半 每週二時  
乙 西洋諸國

太古ヨリ中古ノ末ニ至ル西洋諸國ノ沿革概要  
中古末ニ於ケル地理上ノ發見  
宗教改革

南洋及東洋ニ於ケル葡萄牙、西班牙、和蘭、英吉利  
ハートル大帝  
フレデリック大王

殖民地ニ於ケル英、佛人ノ衝突  
亞米利加合衆國ノ獨立

十八世紀ニ於ケル歐洲諸國ノ情勢  
佛蘭西革命 ナポレオン一世

亞米利加諸國及希臘ノ獨立  
ナポレオン三世

伊太利ノ統一  
獨逸ノ統一

露土戰役

歐洲諸國ノ形勢  
亞細亞、亞非利加及大洋洲ニ於ケル歐米諸國ノ經營

最近文明ノ進歩  
修業年限五箇年ノモノニ在リテハ左ノ要目ニ依ルヘシ

第一學年 每週一時  
修業年限四箇年ノモノ、第一學年ニ準ス

第二學年 每週二時  
修業年限四箇年ノモノ、第二學年ニ準ス

第三學年 第一學期及第二學期 每週二時  
修業年限四箇年ノモノ、第三學年ニ準シテ外國歴史ノ甲支那ヲ中心トシタル東方諸國ノ部ヲ授ケ

特ニ本邦ニ關スル事項、東亞ノ大勢ニ關スル事項ヲ稍々詳ニ授クヘシ

第二學年 第二學期 每週二時  
第四學年 每週一時

修業年限四箇年ノモノ、第四學年第一學期及第二學期前半ニ準シテ外國歴史ノ乙西洋諸國ノ部ヲ授ケ特ニ本邦ニ關スル事項、東亞ノ大勢ニ關スル事項ヲ稍々詳ニ授クヘシ

第五學年 每週一時  
修業年限四箇年ノモノ、第四學年第二學期後半及第三學期ニ準ス

實科高等女學校  
修業年限四箇年ノモノ  
日本歴史

第一學年及第二學年 每週二時  
修業年限二箇年ノ高等小學校ノ日本歴史ニ準シ稍々精深ノ程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

修業年限三箇年ノモノ  
日本歴史

第一學年

每週二時

高等小學校ニ於ケル既授ノ事項ト聯絡シテ之ヲ授ケ維新以後ノ事蹟ハ特ニ詳ニ教授スヘシ

注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シメ特ニ我國體ノ特異ナル所以及大義名分ヲ明カナラシムルコトヲ主トシ徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レテ其ノ要領ヲ失ハサランコトヲ要ス
- 二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒ノ徳性涵養ニ資セシムコトヲ力ムヘシ
- 三 有名ナル詩歌女章傳記等ニシテ歴史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 四 實科高等女學校ニ於テ日本歴史教授ノ際ニハ本邦ニ關係アル主要ナル外國歴史ノ事項ヲモ便宜附帶シテ教授スヘシ
- 五 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 六 外國歴史ハ特ニ我國ニ關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授ケ又我國體ト背馳スルカ如キ事蹟ニ就キテハ彼我國情ノ異ナル所以ヲ明ニシ生徒ヲ誤解ヲ生セサランコトヲ期スヘシ
- 七 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ聯絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖實物圖畫標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 八 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

高等女學校

第一學年

每週二時

日本地理

帝國ノ位置

地方誌

尋常小學校地理トノ聯絡ヲ圖リ地方又ハ府縣ニ就キ重要ナル事項ヲ選擇シテ補習センムヘシ

總括

地勢

山川 湖沼 平野 海岸 島嶼等

氣候及天產物

生業及物產

農業 林業 水産業 鑛業 工業 商業等

住民

人口 都會等

政治

立法 行政 司法 兵備 外交等

教育神社・宗教

交通

道路 鐵道 航路 郵便 電信・電話等

第二學年及第三學年

每週一時

滿洲地理

關東州

位置 境界 地勢 氣候 生業 交通 住民 政治 都會 沿革等

滿洲

關東州ノ項ニ準ス

亞細亞洲

世界地理

總說

位置・境域・地勢・氣候・天産物・生業・交通・住民・區劃等ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ依テ

各說

各國又ハ各地方ニ就キテ位置・境域・地勢・氣候・生業・交通・住民・政治・都會等ノ事項ヲ授クヘシ但  
レ國ノ大小・我國トノ關係ノ多少等ニ依リ教授事項ノ分量ヲ斟酌スヘシ以下之ニ依テ

清國

亞細亞洲露西亞

亞細亞洲土耳其 亞刺比亞

イラン地方

印度

印度支那

馬來諸島

總說

露西亞

スカンヂナビヤ半島

丁球

獨逸

埃利地・洪牙利

瑞西

佛蘭西

白耳義

和蘭

英吉利

イペリヤ半島

伊太利

バルカン半島

亞弗利加洲

總說

各說

加奈陀及ニユーファウンドランド

亞米利加合衆國

墨西哥

中央亞米利加

西印度諸島

前例總說記載事項ノ外更ニ政治・都會等ノ事項ヲ加フヘシ



南亞米利加洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

大洋洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

第四學年

地理概説

每週一時

太陽系

地球及其ノ運動

月及其ノ運動

曆

陸界ノ狀態

海洋ノ狀態

氣界ノ狀態 天氣及氣候

地勢氣候生物相互ノ關係

自然ト人類トノ關係

住民及其ノ狀態

生業及重要產物ノ分布

交通

世界主要諸國ノ國力比較

世界ニ於ケル本邦ノ地位

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ日本地理ヲ中心トシ既授ノ事項ヲ補習シテ地理ノ大意

ヲ授クヘシ

注意

- 一 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較聯合ヲカメ外國地理ヲ授クルニ當リテハ特ニ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎ト爲スヘシ
- 二 學校ノ所在府縣及之ト密接ノ關係アル地方ノ地理ハ稍詳細ニ教授スヘシ
- 三 世界地理ニ於テ政治ヲ授クルニ當リテハ必要ニ應シ其ノ沿革ノ大要ヲ説クヘシ
- 四 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖標本及寫眞表等ニ依リ又之ヲ幻燈等ニ映寫シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 五 地圖ヲ使用スルニ當リテハ其ノ讀方ニ注意セシメ又略圖ノ書方ニ慣レシムヘシ
- 六 地理概説ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授ケ其ノ八友ニ關スルモノハ時々ノ異動ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 七 地理ヲ授クルニハ必要ニ應シテ歴史等トノ關係ニ留意スヘシ
- 八 地名ノ稱方書方ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

高等女學校

第一學年

每週二時

算術

整數及小數

諸等數

第二學年

算術

每週二時

約數及倍數	
分數	
比例	
比	模比例
	第三學年
	算術
比例	
比例配分	混合
歩合算	
歩合	利息
	第四學年
	算術
開平	
求積	
既授事項ノ練習	
代數ノ初歩・幾何ノ初歩ヲ授クル場合ニハ次ノ要目ニ依リ第三學年以上ニ於テ之ヲ授クヘシ	
代數	
簡易ナル代數式及方程式	
幾何	
簡易ナル平面圖形及立體圖形	
修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ既授事項ノ復習及補習ヲ行フヘシ	

實科高等女學校	
高等女學校ニ準ス	修業年限四箇年ノモノ
	第一學年
	第二學年
	第三學年
	第四學年ニ準ス
高等女學校第一學年及第二學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ	每週二時
高等女學校第三學年ニ準ス	每週二時
高等女學校第四學年ニ準ス	每週二時
修業年限二箇年ノモノ	
第一學年	每週二時
第二學年	每週二時
高等女學校第一學年・第二學年及第三學年ニ準シ適宜斟酌シテ教授スヘシ	每週二時
高等女學校第四學年ニ準ス	每週二時
注意	
一 數學ハ正確ニ理會セシムルノミナラス計算ニ熟シ應用ニ慣レシメンコトヲ要ス	
二 算術ハ小學校ニ於ケル既授事項トノ聯絡ヲ保チテ之ヲ授クヘシ	
三 算術ニ於テハ暗算及筆算ノ外成ルヘク珠算ノ加減乗除ヲ課スヘシ	
四 代數及幾何ハ算術トノ聯絡ヲ保チテ之ヲ教授シ特ニ代數ヲ授クル場合ニハ開平ハ之ト共ニ授ケ幾何ヲ授クル場合ニハ求積ハ之ト共ニ授クヘシ	

理科

高等女學校

第一學年及第二學年

每週二時

植物

植物ノ教授ハ主要ナル植物ノ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

主要器官及其ノ構造  
養分 吸收 同化 呼吸 蒸散 成長 運動 生殖等

生態・分類・分布ノ大要

應用(主要ナル食用嗜好料・藥用・有毒・建築用・工業用・觀賞用植物・肥料・飼料ニ用フル植物及農林業ニ有害ナル植物等)

標本ノ調製及植物栽培ノ實習ヲモ爲サシムヘシ

凡四十四時

動物

動物ノ教授ハ主要ナル動物ノ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

外部形態

骨格・筋肉・内臟等ノ位置・形狀・關係 他ノ動物トノ比較

消化 循環 呼吸 排泄 運動 神經作用 發生等

寄生・共生・害敵ニ對スル保護等習性ノ大要

分類・分布ノ大要

應用(寄生蟲ニ對スル豫防 病媒介動物ニ對スル注意 農林・水産業上ノ有益動物有害動物相互ノ關係及其ノ利用 家畜 肥料 食料 衣料 藥品 裝飾品等)

標本ノ調製及動物飼養ノ實習ヲモ爲サシムヘシ

生理及衛生

凡三十八時

人體ノ構造

骨格・筋肉

消化器・飲食物

循環器

呼吸器

排泄器

皮膚

腦髓・脊髓・神經・五官

體溫・新陳代謝・疲勞・恢復・發育・老衰等

衛生ハ左記ノ事項ニ就キ前記ノ事項ト共ニ教授シ又ハ別ニ之ヲ授クヘシ

各機關ノ衛生並普通ノ疾患  
節制 清潔 運動 休息 睡眠 修學 執業

礦物

凡十八時

礦物ノ教授ハ左ノ材料ニ就キ觀察實驗ニ基キ適宜其ノ形態・性質・成分又ハ組成・成因・產地・應用等ヲ授ケ又鑑別ヲモ爲サシムヘシ

土

岩石附造岩礦物

主要ナル火成岩

主要ナル水成岩

主要ナル變成岩

有用礦物

主要ナル金屬礦物

主要ナル非金屬礦物

地殼ノ構造及變遷

博物ヲ教授スル際ニハ便宜植物動物礦物相互ノ關係ヲ授クヘシ

第三學年 每週二時 第四學年 每週一時

物理

凡五十四時

運動力 重量 力ノ釣合 挺子天秤 滑車 斜面螺旋 摩擦 落體 宇宙 引力 仕事 振子

時計

物質ノ三態 分子力 彈性 液體ノ壓力 浮力 比重 大氣ノ壓力晴雨計 ぼんぶ 毛管現象

熱溫度 寒暖計 熱ノ移動 膨脹 比熱 三態ノ變化 潛熱 濕度 蒸氣機關

音 音ノ強サ及高サ 音色 絃風琴管 蓄音機

光 反射鏡 屈折れんず 分散ふりや心 吸收色 光學機械

磁石 地球磁氣 電氣 電氣感應起電機 雷避雷針 電池電流電流計 電鈴電信機電話機

電燈 電氣分解 感應電流たいなも發動機 えつくす線 無線電信

凡五十四時

化學

空氣 酸素 窒素

水 水素

炭酸がす 炭素

食鹽 鹽酸 漂白粉

硫黃 硫酸

硝石 硝酸 あいもにあ

磷 まつち

奇性そーだ 炭酸そーだ 炭酸かり 石灰

硝子 陶磁器 せめんと

普通ノ金屬及其ノ主要ナル化合物 合金

石油

澱粉 砂糖 酒精

せるろーず

脂肪及油 石鹼

蛋白質

煙草 茶

石炭がす こーるたーる 石炭酸 染料

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ博物ノ内礦物ハ第三學年ニ於テ之ヲ授クヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等小學校第一學年用理科書ノ項目ニ準ス

第二學年

每週二時

高等小學校第二學年用理科書ノ項目ニ準ス

修業年限三箇年ノモノ

第一學年

高等小學校第二學年用理科書ノ項目ニ準ス

每週二時

注意

- 一 高等女學校ノ要目ハ各分科ニ就キ區分シテ之ヲ掲クト雖モ適宜分合シテ之ヲ授クルモ可ナリ
- 二 理科ハ成ルヘク生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ特ニ家事科ト相待テ日常生活ノ應用ニ資センメシコトヲ期スヘシ

圖畫

高等女學校

第一學年

每週一時

寫生畫 臨畫

幾何形態 器物 模型 植物

考案畫

主トシテ幾何的模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ簡易ナル著色ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムルモ妨ナシ

第二學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 模型 植物 動物

考案畫

幾何的模様及天然物ヨリ便化シタル模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ著色ノ練習ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムルヘシ

第三學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 植物 動物 建築物 人物 景色

考案畫

前學年ニ準ス

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

第四學年

每週一時

寫生畫

植物 動物 建築物 人物 景色

考案畫

前學年ニ準シ更ニ器物圖案ヲ授ケ便宜既授ノ模様ヲ之ニ應用セシムヘシ

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ第四學年ニ準シ更ニ進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

每週一時

寫生畫 臨畫

幾何形態 器物 模型 植物 動物

考案畫

幾何的模様及天然物ヨリ便化シタル模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ著色ノ練習ヲ爲サシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サシムルヘシ

第二學年

每週一時

寫生畫 臨畫  
器物 植物 動物 建築物 人物 景色

前學年ニ準ス

修業年限三箇年ノモノニ在リテハ木要目ニ準シテ寫生畫臨畫考案畫ヲ授クヘシ

注意

- 一 幾何畫ヲ授クル際ニハ直線角圓多角形曲線ヲ授クヘシ
- 二 寫生畫臨畫ニ在リテハ寫生畫ヲ主トシテ教授スヘシ
- 三 自在畫ヲ教授スル際ニハ成ルヘク陰影畫法及透視畫法ニ就キ簡易ニ其ノ理法ヲ説明スヘク又時々記憶畫及見取畫ノ練習ヲ爲サシムヘシ
- 四 生徒ヲシテ成ルヘク名作品又ハ其ノ複製品ヲ見シメ趣味ノ涵養ニ資スヘシ

家事

高等女學校

每週二時

家内ノ整理

住居ノ修理 保存 掃除 室内ノ設備 衣服什器ノ選擇 保存及其ノ整頓 裝飾 戸締 火ノ用心等

家事衛生

採光 換氣 排水 洗濯 清潔法等

飲食物ノ調理

日常食品 嗜好食品 飲料水 飲料 調理 獻立・貯藏等  
調理ニ關聯シテ食品 庖厨具及燃料ニ關スル事項ヲ授クヘシ

實習

洗濯 張物 シミヌキ 掃除 磨キ物 飲食物ノ調理等  
第四學年 每週二時

育兒

懷妊中ノ心得 出産 嬰兒ノ取扱方 哺乳 離乳後ノ食物 小兒ノ衣服 運動 睡眠 疾病  
言語 動作 遊戲 玩具 躰方 就學 學校ト家庭トノ關係等  
教育ヲ授クル場合ニハ言語以下ヲ省ク

養老及看病  
衣食住ノ注意 介抱 藥用 危篤者ノ取扱 應急手當  
傳染病及其ノ豫防 消毒法

家事經濟

家計簿記

實習

前學年ニ準シ更ニ應急手當ヲ加フ  
修業年限五箇年ノモノニ在リテハ第四學年ニ於テ家内ノ整理家事衛生ヲ授ケ其ノ實習トシテハ洗濯・張物・シミヌキ・掃除及磨キ物ヲ爲サシメ第五學年ニ於テ飲食物ノ調理・育兒・養老及看病・家事經濟・家計簿記ヲ授ケ其ノ實習トシテハ飲食物ノ調理・應急手當等ヲ爲サシムヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第三學年及第四學年

每週三時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ實習ノ度數ヲ増スヘシ

修業年限三箇年ノモノ

第二學年及第三學年

每週三時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ實習ノ度數ヲ増スヘシ

修業年限二箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週三時

高等女學校第三學年及第四學年ニ準シ實習ノ度數ヲ増スヘシ

注意

- 一 家事ヲ授クルニハ其ノ地方實際ノ事情ニ適切ナラシメシムルコトニ注意スヘシ
- 二 家事ヲ授クルニハ理論ニ偏スルコトナク成ルヘク實習ヲ多カラシムヘシ
- 三 他ノ學科目ニ於テ授ケタル事項ハ力メテ之ヲ家事ノ實際ニ應用スルノ法ヲ知ラシムヘシ
- 四 土地ノ情況ニ依リ便宜蔬菜ノ栽培ヲ爲サシムルモ可ナリ

本要目中單ニ衣類ノ名稱ノミヲ掲グルモノハ仕上ケニ至ル迄生徒ヲシテ實習セシメ「說明」ノ二字ヲ加フルモノハ必要ナル事項ノ說明ニ止メテ實地ノ仕立ヲ省クヘシ

第一學年

每週四時

基礎的技術ノ練習

運針法 糸ノ結ヒ方留メ方縫キ方 縫ヒ合セ方 鎖掛ケ方 折ケ方等

各種襦袢ノ裁チ方練習

一ツ身單衣

四ツ身單衣

三ツ身裕

一ツ身縮入

縮布ノ縫ヒ方

第二學年

每週四時

本裁男女單衣

本裁女裕

本裁男裕

本裁女縮入

本裁男縮入ノ說明

第三學年

每週四時

女袴

小裁中裁女袴ノ說明

本裁女縮入羽織

本裁男縮入羽織ノ說明

本裁男裕羽織

小裁中裁羽織ノ說明

小裁中裁本裁被布 中一枚仕上ケ

片面物及中幅・大幅物ニテ羽織・被布ノ裁チ方・積リ方  
腹合ヒ帶

第四學年

每週四時

絹布單衣

毛織單衣ノ説明

絹布・毛織ノ繕ヒ方

男袴

小裁・中裁男袴ノ説明

本裁男單羽織

丸帶男帶 中一筋仕上ケ

本裁女小袖

本裁女小袖重ネ物ノ説明

一ツ身縮入

足袋・涎掛ノ類

修業年限五箇年ノモノニ在リテハ本要目第四學年ノ教授事項ニ長袴・股引・夜着(襟形)・蒲團(襟形)等ヲ加ヘ適宜之ヲ第四學年・第五學年ノ二學年ニ配當シ又本要目中説明ニ止メタルモノニ就キテ實習セシムヘシ

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等

小裁・中裁袴

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方留メ方・縫キ方 縫ヒ合セ方 襷掛ケ方 衿ケ方等



四ツ身綿入羽織  
 本裁女綿入羽織  
 本裁男綿入羽織  
 本裁男袴羽織  
 片面物及中幅・大幅物ニテ羽織ノ裁チ方積リ方  
 手提袋ノ類  
 子供腹掛  
 涎掛  
 女袴  
 小裁・中裁女袴  
 第二學年  
 綿布男袴  
 小裁・中裁綿布男袴  
 絹布女單衣  
 絹布ノ袴ヒ方  
 一ツ身袖無被布  
 四ツ身被布  
 本裁被布  
 片面物及中幅・大幅物ニテ被布ノ裁チ方積リ方  
 被布合羽  
 腹合せ帯

每週十八時

みしん使用法  
 西洋涎掛・西洋前掛各種  
 しやつ類  
 つぼん下類  
 毛織單衣  
 毛織ノ袴ヒ方  
 絹布本裁女袴  
 絹布本裁男袴  
 絹布本裁男袴羽織  
 絹布本裁男綿入羽織  
 第四學年  
 絹布本裁男單羽織  
 絹布本裁女單羽織  
 絹布本裁女袴羽織  
 絹布本裁女綿入羽織  
 本裁女小袖一重  
 本裁男小袖一重  
 本裁單衣重(雛形)  
 比翼(雛形)  
 絹布本裁男袴  
 丸帶

每週十八時

男帶  
男股引  
女股引  
足袋  
女兒洋服ノ下着類  
簡易ナル小兒洋服  
小兒帽子類  
夜著(雛形)  
蒲團(雛形)  
蚊帳ノ説明

修業年限三箇年ノモノ

第一學年 每週十四時

第二學年 每週十八時

第三學年 每週十八時

修業年限四箇年ノモノ

第一學年 每週十八時

第二學年 每週十八時

修業年限四箇年ノモノ、第三學年・第四學年ニ準シ適宜同第一學年・第二學年ノ教授事項ヲ加ヘ授クヘシ

注意

一 本要目ニ示シタル事項ハ土地ノ情況ニ依リテ取捨選擇ヲ加ヘカメテ實用ニ適切ナラシムルニ注意

教授スヘシ

- 二 本要目中説明ニ止ムルモノ又ハ特別ナル練習ヲ課スルモノ、外ハ通常裁キ方・積リ方・寸法・標付ケ方・縫ヒ方順序ヲ授ケテ仕上ケシムルニアレトモ其ノ物ノ性質ニ隨ヒ便宜或ル事項ヲ加ヘ若ハ之ヲ省クヘシ例ヘハ帶ニ於テハ裁キ方・積リ方ヲ省キ袴ニ於テハ寸法割出シ方・縫取リ方等ヲ加フルカ如レ
- 三 新ニ授クルモノニテ其ノ縫ヒ方ノ緊要ナル部分ニ就キテハ特ニ部分縫ヲ課スヘシ例ヘハ袂ノ丸メ方・襷縫ヒ方等ノ如レ
- 四 本要目中説明トシテ掲ケタルモノハ材料ノ性質ニ依リテハ教師ヨリ説明ヲ與フルコトナク既授事項ノ應用トシテ生徒ニ自ラ考察セシムヘシ
- 五 模範トナルヘキ實物・雛形等ヲ示シテ其ノ要點ヲ説キ生徒技能ノ發達ヲ助クヘシ
- 六 實習ノ際家事科・圖書科ト聯絡ヲ保チテ便宜衣服ノ目的・服地ノ種類・其ノ鑑別法・色ノ配合・染色・洗濯等衣服ニ關シテ注意スヘキ事項ヲ授クヘシ
- 七 高等女學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リみしんノ使用法ヲ授クヘシ
- 八 曲尺ヲ用フル地方ニ在リテハ殊更ニ曲尺ニ改ムルコトヲ要セス

音樂、唱歌

音樂

高等女學校

第一學年

樂典

每週二時

譜表・音名・音部記號・音符・休止符・縱線・拍子・嬰變及本位記號・速度標語・發想記號及雜記號

基本練習

發聲練習・音程練習・聽音練習・呼吸練習

平易ナル單音唱歌

歌曲

每週二時

前學年ニ準シ更ニ音程論ノ大意ヲ授クヘシ

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

第二學年

每週二時

音階論ノ大意

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌 二部ノ輪唱歌及二部ノ重音唱歌

樂器

あるがんに構造及各部ノ名稱使用法・基礎的練習簡易ナル樂曲  
但レびあるの若ハはいおりんノ奏法ヲ授クルコトヲ得

第四學年

每週二時

和聲ノ初步

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌 二部三部ノ輪唱歌及二部三部ノ重音唱歌

樂器

前學年ニ準シ程度稍進ミタル樂曲

修業年限五箇年ノモノ、第五學年ニ於テハ左ノ事項ヲ教授スヘシ

第四學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ授クヘシ

唱歌

實科高等女學校

修業年限四箇年ノモノ

第一學年及第二學年

每週二時

高等女學校音樂第一學年及第二學年ニ準シ樂典ヲ除ク但シ歌曲ヲ授クル際樂典ニ關スル事項ヲ附  
帶シテ教授スルコトヲ得

修業年限三箇年ノモノ

第一學年

每週二時

高等女學校音樂第二學年ニ準シ樂典ヲ除ク但シ歌曲ヲ授クル際樂典ニ關スル事項ヲ附帶シテ教授  
スルコトヲ得

注意

- 一 樂典ハ平易ナル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ又之カ爲ニ特ニ時間ヲ設ケス歌曲ヲ授クル際ニ適宜附帶シテ教授スルモ可ナリ
  - 二 唱歌及樂器ノ教授ニハ總テ本譜ヲ用フヘシ
  - 三 歌曲ハ歌詞曲調共ニ高尚優雅ナルモノヲ選フヘシ
  - 四 歌曲ハ其ノ數多キヲ求メスシテ十分之ニ練熟セシメンコトヲ期スヘシ
- 文部省訓令第十三號

北海道廳 府縣

今般勅令第二百十六號ヲ以テ小學校令中ニ改正ヲ加ヘラレ文部省令第二十四號ヲ以テ小學校令施行規則中ニ改正ヲ施セリ因テ左ニ共ノ改正ノ要旨ト施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要トヲ舉示シ實施上遺漏ナカラントコトヲ望ム

高等小學校ノ目的ハ義務教育ヲ終リタル兒童ニ對シ更ニ進ミタル普通教育ヲ施シ國民道德ヲ涵養スルト共ニ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授ケ卒業後各種ノ事業ニ從事スルニ一層適切ナル性格ヲ得シムルニ在リ是レ從來共ノ教科目中心ニ手工、農業、商業ヲ加ヘラレタル所以ナリ而シテ近時時勢ノ必要ニ應シ之ヲ加設スル高等小學校益々増加シ今ヤ少數ノモノヲ除ク外悉ク其ノ施設ヲ見ルニ至レルヲ以テ今回ノ改正ニ於テハ從來ノ隨意科目ヲ廢シテ必修科目ト爲シ兒童ニハ必ス手工、農業、商業ノ何レカ一ヲ課スルコト、シ又其ノ教授時數ヲ増加シ以テ當該教科目教授ノ效果ヲ完カラシメ高等小學校本來ノ目的ヲ貫徹セントス又英語ハ從來獨立ノ一教科目トシテ土地ノ情況ニ依リ加設スルコトヲ得シメタルモ今回之ヲ改メ商業中ニ加ヘテ之ヲ授クルコトヲ得シメ以テ該科目ヲレテ實用上一層適切ナラシメンコトヲ期セリ故ニ從來既ニ此等ノ實業ニ關スル教科目ヲ設置セルモノハ改正ノ旨趣ニ依リテ益々教員設備等ノ改善ヲ圖リ其ノ未タ之ヲ設置セサルモノニ在リテハ速

ニ適切ノ施設ヲ爲サシメンコトヲ要ス但シ地方ニ依リテハ適宜ナル教員ヲ得難ク隨テ今述ニ普ク之ヲ施設セシムルコト能ハサルモノアルヘキヲ察シ特別ノ事情アルモノハ特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得シメタリ

代用教員ノ制ハ實際ノ狀況ニ順ミ正教員ノ不足ヲ補充スルカ爲己ムヲ得シテ設ケラレタルモノナルモ兒童教育上ノ影響ヨリ觀レハ毫モ正教員ト異ナルモノニアラス然ルニ從來共ノ進退ハ都市長ヲシテ之ヲ行ハシメタルヲ以テ之ヲ正准教員ニ比スレハ著シク權衡ヲ失スルノミナラス代用教員ノ勤續期間ハ頗ル短クシテ交迭頻繁ナルカ爲教育上ノ影響モ亦實ニ憂フヘキモノアリ是レ今回代用教員ノ進退ニ關スル規定ヲ改正シ其ノ進退ハ府縣知事ヲシテ之ヲ掌ラシメ以テ一層其ノ選任ヲ慎重シメ優良ナル人物ヲ得テ教育ノ改善ヲ期セントスル所以ナリ地方長官ハ宜シク此ノ旨ヲ體シ一方ニ於テ代用教員ノ人選ヲ慎重ト同時ニ地方經濟ノ狀況ニ應シ成ルヘク其ノ俸給額ヲ増シ適當ノ人物ヲ得ルニ努ムルト共ニ他方ニ於テハ正教員補充ニ關シ益々其ノ施設ヲ進メ速ニ其ノ不足ヲ補ヒ以テ小學校教育改善ノ實ヲ舉ケンコトヲ期セラルヘシ

幼稚園ニ於ケル保育事項等ヲ小學校ニ於ケル教則共ノ他ノ如ク劃一ニ規定スルハ却テ保育ノ進歩發達ヲ促ス所以ニアラサルノミナラス往々ニシテ保育ノ本旨ヲ誤ルノ虞ナキヲ保セス又從來ノ如ク保育時數ヲ制限スルハ實際上不便ナルヲ以テ適宜之ヲ伸縮スルヲ得シムルノ要アリ尙從來ノ如ク驗上幼兒ノ定員ヲ増加シテ實際ノ施設ニ便ナラシムルノ必要ヲ認メタリ是レ幼稚園ニ關スル規定ヲ改正シタル所以ナリ

此ノ他小學校ノ教則休業日教員檢定等ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘタルハ要スルニ從來ノ實驗ニ徴シ必要ナル改正ヲ施スト共ニ小學校教育ノ内容ノ充實改善ヲ期セントスルニ外ナラス

本大臣ハ地方長官カ施設監督宜シキヲ得小學校ノ教育ヲシテ其ノ本來ノ目的ヲ貫徹スルニ於テ益々適切ナラシメ其ノ效果ヲ舉ケ以テ今回改正ノ旨趣ニ副ハンコトヲ望ム

明治四十四年七月三十一日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省訓令第十四號

北海道廳 府縣

今般文部省令第二十六號ヲ以テ中學校令施行規則中ニ改正ヲ加ヘリ  
中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ施シ將來國家ノ中堅タルヘキ國民ヲ養成スル所ナルヲ以  
テ品性ノ陶冶人格ノ修養ニ重キヲ置クヘキハ勿論各學科目ノ教授ニ就テモ益々其ノ進歩改善ヲ  
圖リ以テ中學校教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス

現行中學校令施行規則ハ公布以來年ヲ閱スルコト既二十年其ノ間時勢ノ進歩ニ伴ヒ必要ナル改正  
ヲ施セルコト兩三回ニ及ヘリト雖モ方今ノ情勢ニ鑑ミ中等以上ノ國民タルヘキ性格ヲ涵養シ其ノ  
生活ノ實際ニ適切ナル普通ノ智能ヲ確得シ身體ヲ強健ナラシムルニ於テ尙遺憾ノ點多シトモ是  
レ今回規則中ニ更ニ改正ヲ加ヘ或ハ修身其ノ他各學科目ノ教授ノ要旨ヲ補正シ且其ノ教授時數  
ノ配當ヲ變更シ或ハ新ニ學科目ヲ加ヘ或ハ教授日數ヲ增加シタル等主トシテ各學科目ノ教授ヲ改  
善シ以テ中學校教育ノ本旨ヲ貫徹セントスル所以ナリ

學科目中ニ新ニ實業ノ一科目ヲ加ヘ土地ノ情況ニ應シ簡易ナル農業、商業又ハ手工ヲ授クルコ  
ト、ナシタルハ中學校ハ豫備教育ノ機關ニアラスシテ高等普通教育ヲ施スヘキ木來ノ性質ニ鑑ミ  
中等以上ノ國民タルヘキ者ヲシテ實業ニ關スル智能ヲ修得セシムルト共ニ之ニ對スル趣味ヲ上進  
シ勸勞ヲ重シスルノ美習ヲ養成セシムルノ最要ナルヲ認メタルニ因ル然リト雖モ地方ニ依リテハ  
或ハ直ニ適宜ナル教員ヲ得ルコト能ハサル事情アルヘク或ハ地方經濟ノ關係上進ニ之ヲ設置シ難  
キコトアルヘキヲ慮リ當分ノ内之ヲ缺クコトヲ得シメタルモ成ルヘク速ニ之ヲ加設センコトヲ要  
ス而シテ本學科目ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得シメタルハ土地ノ情況ニ依リ生徒ノ志望ヲ參酌シ適  
切ナル措置ヲ爲サシメンカ爲ナリ

學科及柔術ハ從來各學校ニ於テ任意ニ之ヲ施設シ生徒ノ志望ニ依リテ科外ニ之ヲ習ハレタリ

モ今回正科トシテ體操中ニ加フルコトヲ得シメタル所以ハ羣衆及柔術カ生徒心身ノ鍛鍊上ニ及ホ  
ス成績ニ徴シ共ノ施設ヲ必要ト認メタルニ因ルモノトス  
寄宿舎ニ關スル規定ニ改正ヲ加ヘ特別ノ事情ノ存セサル限り各學校ニ於テ之ヲ設ケシムルコト、  
ナセルハ生徒ヲシテ規律アル生活ニ馴レ秩序アル修養ヲ爲シ風紀ヲ嚴肅ニシ以テ善其ナル校風ヲ  
作ラシメンカ爲ニ最必要ト認メタルニ因ル故ニ從來未ダ寄宿舎ノ設ナキ中學校ニ在リテハ成ルヘ  
ク速ニ相當ノ施設ヲ爲サンコトヲ要ス  
之ヲ要スルニ今回中學校令施行規則中ニ改正ヲ加ヘタルハ時勢ノ進歩ニ應シ益々中學校教育ノ内容  
ノ充實改善ヲ期セントスルニ外ナラス而シテ教育内容ノ充實改善ハ一ニ之ヲ學校長及教員ノ奮勵  
努力ニ俟ツ地方長官ハ宜シク改正ノ旨趣ヲ體シ中學校職員ヲ督勵シ以テ其ノ實績ヲ舉クルニ於テ  
毫モ遺算ナカラシメンコトヲ期セラルヘシ

明治四十四年七月三十一日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省訓令第十五號

北海道廳 府縣

明治三十五年文部省訓令第三號中學校教授要目左ノ通改正ス地方長官ハ各中學校長ヲシテ本改正  
要目ニ準據シテ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ各學科目教授ノ内容ヲ充實シ克ク中學校教育ノ本  
旨ヲ貫徹セシメンコトヲ期セラルヘシ

明治四十四年七月三十一日

文部大臣 小松原英太郎

中學校教授要目  
本要目實施上ノ注意  
修身  
國語及漢文

外國語  
歴史  
地理  
數學  
博物  
物理及化學  
法制及經濟  
實業  
農業 商業 手工  
圖畫  
唱歌

本要目實施上ノ注意

- 一 各學科目ヲ教授スルニハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルコトヲ力ムルト共ニ互ニ聯絡補益シテ統一ヲ保タンコトヲ要ス
- 二 本要目ニ掲ケタル事項及順序ハ斟酌ヲ加フルモ妨ナレ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ヲ注入シ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ
- 四 教授ハ學年ノ始ニ精シクシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラザランコトヲ要ス
- 五 教授用具ハ教授上差支ナキ限り成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テントヲ力ムヘシ又諸學科目ニ通スル用具ハ成ルヘク之ヲ兼用スヘシ

修身

第一學年

每週一時

生徒心得

學校家庭・國家及社會ニ關聯シテ日常心得ヘキ事項ヲ教授シ生徒タルノ本分ヲ明ニ悟ラシムヘシ

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦・暗寫セシムヘシ

作法

第二學年及第三學年

每週一時

道德ノ要領

誠實 勤勉 勇氣 忍耐 自重 廉恥 節制 身體ノ鍛鍊等  
 孝行 友愛等  
 敬愛 從順 信義 恭儉 禮節 同情 寬恕 謝恩等  
 忠君 愛國 奉公等  
 以上ノ事項ハ適切ナル例話ヲ舉ケテ平易ニ教授スヘシ

作法

第四學年及第五學年

每週一時

戊申詔書

詔書ノ全文ニ就キテ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ知ラシムヘシ

道德ノ要領

皇位及皇室

國 國體 臣民

家

祖先 親子 夫婦 兄弟姊妹 親族 僕婢

社會合同生活

合同ノ精神 秩序 風俗 公益

職業 名譽 財產 權利義務

人格

國交

外國ニ對スル信義 外國人ニ對スル禮儀交際

我國道德ノ特質

我國道德ノ由來 祖先尊崇 忠孝一致 愛國奉公

注意

- 一 教育ニ關スル勅語ハ第二學年以上ニ於テハ每學年適宜若干ノ時間ヲ以テ復習セシムヘキノミナラス常ニ教授ノ歸趣ヲ此ニ求メ聖旨ノ存スル所ヲ切實ニ領得セシムヘシ
- 二 修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ應ジシメ又力メテ實際ノ生活ニ適切ナラシメントヲ要ス
- 三 本要目ノ中實務ノ對象ヲ示セルモノニ就キテハ主トシテ之ニ對スル實務ヲ説キ且之カ實踐ニ必要ナル諸德ノ涵養ヲ力メントヲ要ス
- 四 作法ヲ教授スルニハ克ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメントヲ要ス但シ之ヲ授クルニハ特ニ時間ヲ設ケス他ノ修身教授ニ於テ便宜併セ課スルモノ可ナリ

五

教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタル時又ハ國民ノ記念スヘキ日及忠貞賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

國語及漢文

國語及漢文ヲ國語講讀漢文講讀作文文法及習字ノ五分科トス

國語講讀

國語講讀ノ材料ハ普通文ヲ主トシ口語文書讀文韻文ヲ交フ  
普通文ハ現代文ヲ主トシ近世文近古文ヲ交フ何レモ平易ニシテ作文ノ模範トスヘキモノトスルヘシ

口語文ハ簡明ニシテ方言ヲ雜フルコトナク口語ノ標準ヲ示スニ足り話方作文ノ模範トスヘキモノトスルヘシ

書讀文ハ平易ニシテ繁雜ニ失セズ日用書讀文ノ模範トスヘキモノトスルヘシ

韻文ハ新體詩短歌今樣俳句等ニ互リテ格調高雅ナルモノトスルヘシ

右諸種ノ文章ハ我國體及民族ノ美風ヲ記シ國民性ヲ發揮スルニ足ルモノ、健全ナル思想ヲ述ヘ道義的觀念ヲ涵養スルニ足ルモノ、忠貞賢哲ノ事蹟ヲ敘シ修養ニ資スヘキモノ、文學的趣味ニ富ミ心情ヲ高雅ナラシムルニ足ルモノ、又ハ日常ノ生活ニ裨益シ常體ヲ養成スルニ足ルモノ等トスルヘシ

漢文講讀

漢文講讀ノ材料ハ平易雅馴ニシテ成ルヘク我國ニ慣用セラル、熟語成句等ヲ包含セルモノトスルヘシ

右材料ハ句讀點返點送假名ヲ施シタルモノトスルヘシ但シ送假名ハ高學年ニ於テハ便宜之ヲ省クコトヲ得

右材料ノ内容ノ標準ハ略、國語講讀ノ項ニ述ヘタル所ニ據ル

作文  
作文ハ現代文ヲ主トシテ口語文及書牘文ヲ併セ課スヘシ

文法  
文法ハ主トシテ現代文ニ通有セル法則ヲ説明スヘシ

習字  
習字ハ楷書・行書・草書ノ三體トシテ大字及細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ

國語講讀

第一學年 每週四時

讀本ハ尋常小學讀本トノ聯絡ヲ圖リ現代文ヲ主トシテ口語文・書牘文ヲ交ヘ間、韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ現代文・口語文ノ種類ハ記事文・敘事文トス

讀方及解釋 發音ヲ明確ニシテ讀ヲ正レクシ假名遣漢字ノ字畫用法及語句・文章ノ意義ヲ領得シテ全文ノ大意ヲ把握セシメ文意・文勢ヲ誦讀ノ上ニ表サシメ材料ニ應シテ文章ノ妙味ヲ玩味セシメ布置・結構ヲ説明シテ思想・排列ノ法ヲ知ラシムヘシ

話方 主トシテ讀本所載ノ事項ニ就キ談話ヲ練習セシム共ノ際發音ニ注意シ方言・訛言ヲ矯正センコトヲ力ムヘシ

暗誦 隨時適當ナル章句・文章及格言等ヲ暗誦セシムヘシ

書取 讀本若ハ讀本以外ノ語句・文章ヲ筆記セシメ假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫用法ヲ正確ニシ且速記ノ習慣ヲ養フヘシ

漢文講讀  
讀本ハ初ニ漢文ノ組織ト國語ノ組織トノ異同ヲ示セル簡單ナル句例ヲ舉ケ次テ用語平易ニシテ

漢文講讀

第一學年 每週一時

結構簡易ナル短篇ヲ採録セルモノタルヘシ

讀方及解釋 成ルヘク國語ノ法則ニ從ヒテ誦讀セシメ文字ノ字畫用法ニ注意セシメ且口語ト密接シテ語句・文章ノ意義ヲ領得セシムヘシ

書取 隨時熟語・成句等ヲ書取ラシメ字畫用法ヲ正確ナラシムヘシ

作文  
主トシテ自作文ヲ課シ便宜生徒既習ノ事項ニ關聯シテ文話ヲ爲シ又正誤法・敷衍法・短縮法・改作法(復文)等種々ノ練習ヲ行フヘシ

習字  
自作文ハ種類ニ就キテハ記事文・敘事文ヲ主トシテ書牘文ヲ併セ課シ文體ニ就キテハ文語文ヲ主トシテ口語文ヲ併セ課スヘシ

楷書・行書トシテ大字・細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ

國語講讀  
第二學年 每週七時

讀本ハ現代文ヲ主トシテ近世文・口語文ヲ交ヘ間、書牘文・韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ現代文・近世文・口語文ノ種類ハ記事文・敘事文及論說文トス

讀方及解釋 話方 暗誦 書取  
前學年ニ準ス

漢文講讀  
讀本ハ主トシテ平易ナル記事文及敘事文ヲ採録セルモノタルヘシ

讀方及解釋 前學年ニ準シ又材料ニ應シテ文章ノ妙味ヲ玩味セシメ布置・結構ヲ説明シテ思想

排列ノ法ヲ知ラシムヘシ



暗誦 隨時適當ナル章句・文章及格言等ヲ暗誦セシムヘシ  
書取 前學年ニ準ス  
作文 前學年ニ準ス  
習字 前學年ニ準ス

行書ヲ主トシ楷書・草書ヲモ交ヘ以テ大字・細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ  
第二學年 每週一時

國語講讀 讀本ハ現代文ヲ主トシ近世文ヲ交ヘ口語文・韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ平易ナル著書又ハ抄本ヲ併用スルモ妨ナシ  
讀方及解釋 話方 暗誦 書取  
前學年ニ準ス  
漢文講讀 讀本ハ程度ノ稍進メル記事文・敘事文及簡易ナル論說文ヲ主トシテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ平易ナル著書又ハ抄本ヲ併用スルモ妨ナシ  
讀方及解釋 暗誦 書取  
前學年ニ準ス

隨時國語ノ簡單ナル章句ヲ漢文ニ譯セシメ措辭用字ノ法ヲ會得セシムヘシ  
前學年ニ準ス但シ自作文ハ其ノ種類ニ就キテハ記事文・敘事文・論說文ヲ主トシ書讀文ヲ併セ課スヘシ  
隔週一時

作文 成ルヘク既修ノ材料ニ基キ主トシテ現代文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ  
習字 行書ヲ主トシ楷書・草書ヲ交ヘ以テ細字ヲ練習セシメ又假名ヲ併セ課スヘシ  
第四學年 每週六時

國語講讀 讀本ハ現代文・近世文ヲ主トシテ近古文ヲ交ヘ間ニ書讀文・韻文ヲ加ヘテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ平易ナル著書又ハ其ノ抄本ヲ併用スルモ妨ナシ  
讀方及解釋 話方 暗誦 書取  
前學年ニ準ス  
漢文講讀 讀本ハ更ニ程度ノ進メル記事文・敘事文・論說文ヲ主トシテ組織セルモノタルヘシ但シ名家ノ著書又ハ其ノ抄本ヲ併用シ若ハ代用スルモ妨ナシ  
讀方及解釋 暗誦 書取  
前學年ニ準ス

作文 前學年ニ準ス  
隔週一時  
文法 前學年ニ準ス但シ自作文ハ文體ニ就キテハ專ラ文辭文ヲ用フヘシ  
每週一時

國語講讀 第五學年 每週六時  
國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

國語講讀 前學年ニ準ス 每週二時

漢文講讀

前學年ニ準ス

每週三時及隔週一時

作文

前學年ニ準ス

隔週一時

注意

- 一 各分科ノ教授ハ互ニ聯絡補益センコトヲ力ムヘシ
- 二 講讀ノ際ニハ常ニ他ノ學科目ト相俟テ生徒ノ思想感情ヲ啓發陶冶センコトヲ期スヘシ
- 三 漢字ヲ教授スル際ニハ普通ニ行ハル、字音並俗字、和字、略字等ノ字體ヲ避ケス實用ニ適シ  
ンコトヲ主トシテ煩瑣ナル考證ニ趨ラサランコトヲ要ス
- 四 字畫及語意ノ異同ハ常ニ相對比シテ教授シ又其ノ語ヲ部分トセル普通ノ熟語ヲ附帶シテ教  
授スヘシ
- 五 故事、古語等ハ大體ノ説明ヲ與フルニ止メ其ノ出典等ニ關シテ煩瑣ナル穿鑿ニ趨ラサラン  
コトヲ要ス
- 六 適當ノ時期ニ於テ字書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ
- 七 作文ノ教授ハ迂遠ニ流レズ難澁ニ失セズ簡明達意ノ文ヲ作ラシメンコトヲ期スヘシ
- 八 作文ハ初ハ主トシテ即題ヲ課シ學年ノ進ムニ從ヒテ漸ク之ヲ減シ宿題ト相半スルニ至ラシ  
ムヘシ
- 九 作文ハ添削ノ際批正スヘキ部分ニシテ生徒ノ自ラ訂正レ得ヘキモノハ符號ヲ付シテ推敲ヲ  
促シ共通セル誤謬又ハ參考ニ資スヘキ事項ハ之ヲ一般ニ知ラシムル等常ニ其ノ成績ヲ利用  
センコトヲ力ムヘシ
- 十 文法ハ特ニ其ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ便宜講讀作文等ニ附帶シテ之ヲ教授シ又

ハ練習セシムヘシ

- 十一 文法ハ實例ニ就キテ歸納的ニ教授シ實用ニ適切ナラシメンコトヲ要ス
  - 十二 習字ヲ教授スル際ニハ間架結構ノ大要ヲ知ラシムヘシ但シ專ラ實用ニ適切ナラシメン  
コトヲ主トシテ徒ニ繁雜ナル書論ニ涉ルコトヲ避クヘシ
  - 十三 習字ハ特ニ其ノ時間ヲ設ケサル學年ニ在リテモ作文書取其ノ他ノ場合ニ於テ常ニ書寫  
ニ練習セシメンコトヲ力ムヘシ
- 外國語ノ各分科ニ於テ授クル事項左ノ如シ
- 發音 綴字
- 單語ニ就キテ單音連音、あくせんと及文字ノ組合セヲ授ク
- 讀方及譯解
- 文章ノ聽方讀方及解釋ヲ授ク
- 話方及作文
- 話方ニ於テハ對話、說話ノ聽方言方ヲ授ク
- 作文ニ於テハ凡左ノ諸例ニ準シ適宜之ヲ課ス
- 一 讀方及譯解又ハ話方ニ於テ練習セル事項ヲ應用シテ記述セシムルモノ
  - 一 國語ヲ外國語ニ譯セシムルモノ
  - 一 記述スヘキ事項ノ梗概ヲ授ケ又ハ使用スヘキ語句ヲ示シテ之ヲ綴ラシムルモノ
  - 一 課題ヲ與ヘ自由ニ文ヲ綴ラシムルモノ
- 書取
- 文章ヲ臨寫セシメ又ハ之ヲ朗讀シテ筆記セシム

習字

書寫文字ノ書方ヲ授ク

文法

品詞論及文章論ノ一斑ヲ授ク

第一學年

每週六時

發音

綴字

初ハ專ラ發音綴字ヲ授ケ後ニハ他ノ分科ニ關聯シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方及譯解 話方及作文 書取  
近易ナル文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ近易ナル話方及作文書取ヲ練習セシムヘシ

習字

成ルヘク既習ノ語句文章ニ就キテ之ヲ授クヘシ  
習字ヲ授クル爲メ每週一時以內ヲ分ツコトヲ得

第二學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ

習字

前學年ニ準ス

第三學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

普通ノ文章ニ就キテ讀方及譯解ヲ授ケ之ト關聯シテ話方及作文書取ヲ練習セシムヘシ

文法

成ルヘク既習ノ材料ニ基キテ文法ニ關スル一般普通ノ法則ヲ授クヘシ  
文法ヲ授クル爲メ每週一時以內ヲ分ツコトヲ得

第四學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授クヘシ但シ話方及作文ヲ練習セシムル爲メ每週一時以內ヲ分ツコトヲ得

文法

前學年ニ準ス

第五學年

每週七時

讀方及譯解 話方及作文 書取

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケ兼テ文法上ノ練習ヲ爲サシムヘシ

注意

- 一 發音ハ何レノ學年ニ於テモ之ヲ忽ニスヘカラスト雖モ初期ノ教授ニ於テ特ニ注意シテ之ヲ正スヘシ
- 二 發音ヲ授クルニ際シ必要アルトキハ舌齒唇等ノ位置ヲ説明シ又ハ發音圖ヲ示スヘシ
- 三 讀方及譯解ニ於テハ場合ニ依リ實物繪畫等ヲ用ヒ又彼我風俗習慣等ノ相違ヲ説キテ意義ノ了解ヲ助クヘシ
- 四 解釋ハ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシメ國語ヲ以テスル場合ニハ其ノ正格ナルモノヲ使用セシムヘシ
- 五 教授中教師ハ生徒ノ了解シ得ル程度ニ於テ成ルヘク外國語ヲ使用スヘシ

六 生徒ノ學力ニ應レ正確明瞭ニ會得セル文章ニ就キ時々暗誦ヲ課スヘシ  
七 適當ノ時期ニ於テ豫習ヲ課シ又辭書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ  
歷史

日本歷史

第一學年

每週一時

神代 皇基ノ遠遠  
神武天皇

崇神天皇 垂仁天皇

日本武尊

三韓 任那及三國 神功皇后 文物ノ傳來

仁德天皇

大陸トノ交通 朝鮮半島ノ變遷

佛教ノ傳來

蘇我・物部兩氏ノ爭亂

聖德太子 支那ヘノ使節派遣

佛教ノ興隆 美術・工藝ノ進歩

蘇我氏ノ無道

大化ノ新政

蝦夷ノ服屬 百濟・高麗ノ滅亡

新羅ノ朝鮮半島統一

律令ノ撰定

奈良奠都 卑人及西南諸島ノ服屬

聖武天皇 奈良時代ノ佛教・文物

和氣清麻呂

平安奠都 蝦夷ノ鎮定

朝鮮半島ノ變遷 渤海ノ入貢

佛教ノ新宗派 漢文學

攝政・關白

菅原道真

地方ノ情況 承平・天慶ノ亂

平安時代ノ文物

刀伊ノ入寇 前九年・後三年ノ役

後三條天皇 院政 僧兵

源平二氏ノ隆替 平氏ノ滅亡

第二學年

每週二時

源賴朝 鎌倉幕府 守護・地頭

承久ノ亂 北條氏ノ執權

鎌倉時代ノ佛教・文物

蒙古ト高麗 元寇

朝廷ト幕府

北條氏ノ滅亡

建武中興 足利尊氏ノ反 楠木正成・新田義貞等ノ勤王  
 吉野ノ朝廷  
 室町幕府 足利義滿  
 關東管領 永享嘉吉ノ亂  
 應仁ノ亂  
 室町時代ノ佛教文物  
 足利氏ノ季世 群雄割據  
 明トノ交通 高麗ト朝鮮 歐羅巴人ノ來航  
 織田信長  
 豐臣秀吉  
 豐臣秀吉ノ朝鮮征伐  
 德川家康 關ヶ原ノ戰 豐臣氏ノ滅亡  
 江戸幕府 德川家光  
 海外諸國トノ交通 天主教ノ禁 島原ノ亂  
 德川綱吉 德川吉宗  
 江戸時代ノ佛教文物 西洋學術ノ傳來  
 諸藩ノ治  
 國史古典ノ研究 尊王論

露國人ノ來航 海防論 蝦夷地ノ開拓  
 亞米利加合衆國使節ノ來朝 開港・攘夷ノ論 和親條約  
 安政ノ大獄 幕府ノ衰頹  
 長州征伐  
 大政奉還  
 島羽伏見ノ戰 明治戊辰ノ役

現代ノ一般

第五學年

第三學期 每週二時

建國ノ體制  
 氏族制度  
 國初ヨリ平安時代末ニ至ル大勢變遷ノ概要  
 朝鮮半島トノ關係 支那トノ交通  
 武家政治  
 鎌倉・吉野朝廷時代ニ於ケル王政復古ノ運動  
 鎌倉・室町時代ニ於ケル支那及朝鮮半島トノ交通  
 歐羅巴人ノ來航 通商貿易 天主教ノ傳播 邦人ノ海外渡航  
 江戸時代朝鮮ノ來聘  
 江戸時代ニ於ケル外國貿易  
 鎖國政策  
 邊境ノ事情

開港ノ顛末  
幕府ノ衰亡 王政復古  
明治ノ新政 五箇條ノ御誓文 東京奠都  
版籍奉還 廢藩置縣  
外交 使節派遣 歐米文物制度ノ採用 徵兵ノ制  
朝鮮トノ關係 征韓論  
清國トノ修好 臺灣事件  
北海道ノ拓殖 千島樺太ノ交換  
地方ノ騷亂  
琉球ノ處分 朝鮮トノ修好  
明治十五年京城ノ變 明治十七年京城ノ變 天津條約  
立憲政體ノ階梯 國會開設ノ大詔  
內閣制度ノ創立 地方自治制ノ實施  
憲法發布 帝國議會  
法典編纂 條約改正  
明治二十七八年戰役 臺灣ノ經營  
明治三十三年清國事變 日英同盟  
明治三十七八年戰役  
樺太及租借地ノ經營 韓國ノ保護 密國ノ保全 日英同盟ノ擴張 日佛日露ノ協約 亞米利加  
合衆國トノ外交文書交換 韓國併合

學術ノ進歩 交通機關ノ擴張 產業・貿易ノ振興  
世界ニ於ケル日本ノ地位及日本ト諸外國トノ現在關係

外國歷史

甲 支那ヲ中心トセル東方諸國 每週二時  
第三學年

上代ノ支那  
夏 殷 周  
春秋・戰國  
周代ノ文物 孔子  
秦ノ統一  
漢ノ統一  
武帝ノ業 四夷ノ服屬  
前漢ノ衰亂 後漢  
西域トノ交通 印度 佛教ノ東流  
兩漢ノ文物  
三國 晉ノ統一  
胡族ノ侵入  
南北朝 隋ノ統一  
唐ノ創業  
玄宗 安史ノ亂

唐代ノ文物宗教 南海ノ貿易  
 唐ノ衰亡 五代  
 宋ノ統一  
 渤海遼金ノ興廢  
 宋代ノ文物  
 蒙古ノ勃興  
 元ノ世祖 宋ノ滅亡  
 東西ノ交通 ヲルコボロ  
 元ノ衰亡 諸汗國ノ盛衰 帖木兒  
 明ノ統一  
 明ノ衰運 滿洲ノ勃興  
 莫臥兒帝國 葡萄牙人ノ來航 通商及宣教  
 元明ノ文物  
 清ノ統一  
 聖祖 高宗 清路ノ交渉  
 邊外ノ征服 清ノ文物  
 英國ノ東方經略  
 鴉片戰役  
 長髮賊 英佛軍ノ侵入

露國ノ滿洲經略  
 露國ノ中央亞細亞經略 伊犁事件  
 佛國ノ印度支那經略 清佛戰爭  
 清國ニ對スル諸強國ノ壓迫  
 乙 西洋諸國  
 第四學年  
 太古ノ東方諸國  
 希臘諸國 歷山王 希臘ノ文物  
 羅馬ノ建國 共和制 レーザー 帝政  
 基督教  
 日耳曼諸族ノ侵入 西羅馬帝國ノ滅亡  
 サラセンノ勃興 回教  
 フランク王國 佛蘭西・獨逸兩國ノ分立  
 ノルマンノ活動  
 神聖羅馬帝國 羅馬法王  
 西歐ノ制度及國情  
 十字軍及其ノ結果  
 英佛ノ交渉 百年戰役  
 土耳其ノ勃興 東羅馬帝國ノ滅亡  
 文藝ノ復興及諸發明

每週二時

西班牙、葡萄牙 地理上ノ發見 新大陸ノ殖民

宗教改革 和蘭ノ獨立

三十年戰役

ルイ十四世

英吉利ノ革命

西班牙繼承ノ役

南洋及東洋ニ於ケル葡萄牙、西班牙、和蘭、英吉利

ベートル大帝 北方戰役

フレデリック大王 埃地利繼承ノ役 七年戰役

波蘭ノ分割 西比利亞ノ拓殖

殖民地ニ於ケル英、佛人ノ衝突

亞米利加合衆國ノ獨立

十八世紀ニ於ケル歐洲諸國ノ情勢及文物

佛蘭西革命 ナポレオン一世

維納列國會議 神聖同盟

亞米利加諸國及希臘ノ獨立

第五學年

七月革命 二月革命

ナポレオン三世 クリミア戰役

第一學期每週二時

伊太利ノ統一  
 亞米利加合衆國ノ膨脹 南北戰爭  
 普・佛戰役 獨逸ノ統一  
 露・土戰役 伯林會議  
 伯林會議後ニ於ケル歐洲諸國ノ形勢  
 亞細亞ニ於ケル歐米諸國ノ經營  
 亞弗利加及大洋洲ニ於ケル歐米諸國ノ經營  
 最近文明ノ進歩

注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シメ特ニ我國體ノ特異ナル所以及大義名分ヲ明カナラシムルコトヲ主トシ徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レテ其ノ要領ヲ失ハサランコトヲ要ス
- 二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行・事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒ノ徳性涵養ニ資センコトヲ力ムヘシ
- 三 有名ナル詩歌・文章・傳記等ニシテ歴史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助ケヘシ
- 四 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 五 外國歴史ハ特ニ我國ニ關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授ケ又我國體ト背馳スルカ如キ事歴ニ就キテハ彼我國情ノ異ナル所以ヲ明ニシ生徒ヲ誤解ヲ生セサランコトヲ期スヘシ
- 六 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ聯絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖・實物・圖畫・標本等ヲ示シテ生徒ノ



七 知識ヲ確實ナラシムヘシ  
地名・人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス  
地理

第一學年  
日本地理  
每週二時

帝國ノ位置  
地方誌

尋常小學校地理トノ聯絡ヲ圖リ地方又ハ府縣ニ就キ重要ナル事項ヲ選擇シテ補習セシムヘシ  
總括

地勢

山川 湖沼 平野 海岸 島嶼等

氣候及天產物  
生業及物產

農業 林業 水産業 鑛業 工業 商業等

住民  
人口 都會等

政治

立法 行政 司法 兵備 外交等

教育 神社 宗教

交通  
道路 鐵道 航路 郵便 電信 電話等

第二學年

滿洲地理

每週一時

關東州

位置 境域 地勢 氣候 生業 交通 住民 政治 都會 沿革等

滿洲

關東州ノ項ニ準ス  
世界地理

亞細亞洲

總說

位置 境域 地勢 氣候 天產物 生業 交通 住民 區劃等ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ倣フ  
各說

各國又ハ各地方ニ就キテ位置 境域 地勢 氣候 生業 交通 住民 政治 都會等ノ事項ヲ授クヘシ但  
シ國ノ大小 我國トノ關係ノ多少ニ依リ 教授事項ノ分量ヲ斟酌スヘシ以下之ニ倣フ  
清國

亞細亞洲露西亞

亞細亞洲土耳其 亞刺比亞

イラン地方

印度 印度支那

馬來諸島

歐羅巴洲

第三學年  
世界地理

每週一時

總說

各說

露西亞

スカンヂナビヤ半島

丁抹

獨逸

埃地利・洪牙利

瑞西

佛蘭西

白耳義

和蘭

英吉利

イペリヤ半島

伊太利

バルカン半島

第四學年

世界地理

每週一時

亞弗利加洲

前例總說記載事項ノ外更ニ政治都會等ノ事項ヲ加フヘシ

北亞米利加洲

總說

各說

加奈陀及ニユーファウンドランド

亞米利加合衆國

墨西哥

中央亞米利加

西印度諸島

南亞米利加洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

大洋洲

亞弗利加洲ノ項ニ準ス

第五學年

每週一時

自然地理概說

宇宙 太陽系 太陽

地球及其ノ運動

月及其ノ運動

曆

陸界ノ變動及地形

海洋ノ狀態

氣界ノ狀態 天氣及氣候

地勢氣候生物相互ノ關係

人文地理概説

自然ト人類トノ關係

住民及其ノ狀態

生業及重要產物ノ分布

交通

國家

世界主要諸國ノ國力比較

世界ニ於ケル本邦ノ地位

注意

- 一 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較聯合ヲ力メ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リテハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎ト爲スヘシ
- 二 學校所在府縣及之ト密接ノ關係アル地方ノ地理ハ稍詳細ニ教授スヘシ
- 三 世界地理ニ於テ政治ヲ授クルニ當リテハ必要ニ應シ共ノ沿革ノ大要ヲ説クヘシ
- 四 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ共ノ他ハ常ニ地圖・標本・寫眞・繪畫表等ニ依リ又之ヲ幻燈等ニ映寫シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 五 地圖ヲ使用スルニ當リテハ其ノ讀方ニ注意セシメ又略圖ノ書方ニ慣レシムヘシ
- 六 自然地理ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 七 人文地理ハ時々ノ異動ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 八 地理ヲ授クルニハ必要ニ應シテ歴史等トノ關係ニ留意スヘシ
- 九 地名ノ稱方書方ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

數學

數學ハ算術・代數・幾何及三角法ニ分チ各學年ニ對シテ教授事項ヲ配當スト雖モ常ニ相互ノ聯絡ヲ圖リテ教授シ特ニ算術ニ關スル複雜ナル事項ハ代數及幾何ヲ授クル場合ニ之ヲ教授スヘシ

第一學年

每週四時

算術

尋常小學校ニ於ケル算術トノ聯絡ヲ保チ整數・小數・諸等數・分數・歩合算ノ補習及練習ヲ爲サシメ且比例ヲ授クヘシ

第二學年

每週四時

代數

負數

整數式

分數式

約分・通分

四則

一次方程式

約數・倍數

第二學年

代數

開方

開平

開立

二次方程式

無理式

幾何

直線

角

平行線

每週五時

直線形

三角形 平行四邊形

第四學年

每週四時

圓

代數

比例

比例 複比例 比例配分 混合

級數

等差級數 等比級數

幾何

比例

比例線 相似形

第五學年

每週四時

對數

步合算

步合 利息

幾何

平面

平面上直線 二面角 立體角

多面體

角錐

角錐

曲面體

圓錐

圓錐

三角函數

球 三角法

銳角ノ三角函數 一般角ノ三角函數 二角ノ和及差ノ三角函數

三角形ノ解法

簡易ナル測量

注意

- 一 數學ハ正確ニ理會セシムルノミナラス計算ニ熟シ應用ニ慣レレメンコトヲ要ス
- 二 算術ニ於テハ暗算及筆算ノ外ニ珠算ヲ併セ課スルモ妨ナレ
- 三 幾何ニ於ケル軌跡・作圖・面積及體積ハ適當ナル場合ニ於テ便宜之ヲ授クヘシ

博物

第一學年植物 動物

每週二時

第二學年植物 動物

同

第三學年動物 生理及衛生

同

第四學年礦物 博物通論

同

植物

凡七十八時

植物ノ教授ハ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

分類

顯花植物 被子植物・裸子植物及其ノ主要ナル科ノ性質・適例  
隱花植物 羊齒植物・蘚苔植物・菌藻植物ノ性質・適例  
學校所在地方ノ普通植物ノ分類

解剖

根・葉及莖ノ構造

生理

養分 吸收 同化 蒸散 呼吸 成長 運動 刺戟感應 生殖

生態

植物生活ト外界トノ關係及其ノ植物ノ形態・生理分布上ニ於ケル影響

分布

地理的分布 生態的分布 學校所在地方ニ於ケル分布

應用

主要ナル食用嗜好料・藥用・有毒・建築用・工業用・觀賞用植物 醱酵・腐敗・傳染病等ノ原因トナル植物 肥料・飼養ニ用フル植物及農林業ニ有害ナル植物採集・栽培・標本調製ノ實習

動物

凡七十八時

動物ノ教授ハ觀察・實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ

分類

脊椎動物 哺乳類 鳥類 爬蟲類 兩棲類 魚類 兩頭索類・被囊類

節足動物

昆蟲類 蜘蛛類 多足類 甲殼類

軟體動物

頭足類 腹足類 瓣鳃類

蠕形動物

環蟲類 圓蟲類 扁蟲類

棘皮動物

海膽類 海星類 沙蠟類

腔腸動物

珊瑚類 水母類

海綿動物

原始動物

形態

動物體ノ主要ナル部分

解剖

骨骼・筋肉・內臟等ノ位置・形狀・關係 他ノ動物トノ比較

生理

消化 循環 呼吸 排泄 運動 神經作用 生殖 發生 變態

習性

習性ノ中共ノ構造トノ關係ノ顯著ナルモノ 自然現象トシテ趣味アルモノ 人生ニ密接關係アルモノ等

寄生・共生・害敵ニ對スル保護等

動物ノ傳播 地理上ノ分布

應用

寄生蟲ニ對スル豫防 病毒媒介動物ニ對スル注意 農林水産業上ノ有益動物・有害動物相互ノ

關係及其ノ利用 家畜 肥料 水産物ノ利用

食料 衣料 藥品 染料 裝飾品 賞翫用等

採集・飼育・標本調製ノ實習

生理及衛生

凡六十時

人體ノ構造

骨骼系

骨ノ構造・聯接機能・發育

筋肉系

筋肉ノ種類・構造・機能・發育

消化系

飲食物

消化器及其ノ機能

循環系

血液

循環器及其ノ機能

淋巴

呼吸系

呼吸器及其ノ機能

發聲器

排泄系

排泄器及其ノ機能・尿

皮膚

皮膚ノ構造及其機能 脂肪

毛髮 爪

神經系

腦髓・脊髓・神經・五官及其ノ機能・發育

衛生ハ左記ノ事項ニ就キ前記ノ事項ト共ニ若ハ別ニ之ヲ授クヘシ

各機關ノ衛生並普通ノ疾患

全身ニ關スル事項

體溫 新陳代謝 疲勞 恢復 發育 老衰

個人衛生

節制 清潔 運動 休息 睡眠 修學 執業

救急療法 疾患ニ對スル心得

酒・煙草ノ害

公衆衛生

居住地 交通 集會 職業 傳染病

礦物

凡五十六時

鑛物ノ教授ハ左ノ材料ニ就キ觀察實驗ニ基キ適宜其ノ形態性質成分又ハ組成・成因・變化・產狀・產地應用等ヲ授ケ又鑑別ヲモ爲サシムヘシ

主要ナル岩石及造岩鑛物

火成岩及其ノ造岩鑛物

花崗岩 綠岩 石英

橄欖岩 附蛇紋岩

石英粗面岩 安山岩

水成岩及其ノ造岩鑛物

砂岩 礫岩 泥岩 粘板岩

凝灰岩 珪岩 石灰岩 方解石

變成岩

片麻岩 結晶片岩

地殼構造概要

地史概要

造岩鑛物以外ノ主要ナル有用鑛物

金鑛 銀鑛 銅鑛 鐵鑛 鉛鑛 亞鉛鑛

心鑛 水銀鑛 鋅鑛 錳鑛 亞錳鑛

柘榴石 黃玉石 鋼玉石 金剛石 石墨

琥珀 石炭 煤 石油

凡十六時

動物鑛物三界ノ差異及相互ノ關係

生物體ノ構造

原形質 細胞 組織 器官

生活現象

生活作用 生活法ノ種類 外界ト生活狀態

生活狀態ト生物ノ形態及構造 蕃殖維持

生物ノ進化

生物ノ分布

人生ト動植物三界トノ關係

注意

一 本要目ニ掲ケタル事項ハ土地ノ情況ト季節トニ依リ便宜斟酌スヘシ

二 博物ハ區分シテ之ヲ授ケト雖モ常ニ植物・動物・鑛物三界ノ相互ノ關係ニ留意シ生徒ヲシテ

自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シムヘシ

三 博物ハ特ニ物理及化學・地理・農業ノ學科目ト聯絡シテ之ヲ授ケヘシ

物理及化學

物理

第四學年

每週二時

物性

物質・慣性 重力・質量・密度 物質ノ三態 分子力 彈性 液體ノ壓力 比重 氣體ノ壓力 表面張力・毛管現象

熱

溫度 膨脹 比熱 三態ノ變化 潛熱 濕度 熱ノ移動

運動及力

運動速度・加速度・力 運動量 力ノ作用及反作用 力ノ釣合 力ノ能率・重心 單一器械 摩擦

宇宙引力 落體拋射體 圓運動 仕事 えねるぎー 熱ノ仕事當量 振子 彈性體ノ振動

波動 第五學年 每週二時

音 音波 強サ 高サ 干涉 調和 音色 共鳴

光 直進 光度 反射 屈折 分散 輻射吸收 光波

電氣及磁氣 磁石 磁氣感應 磁場 地球磁氣 二種ノ電氣 傳導 電氣感應 空中電氣 電流電池 電流ノ強サ 電動力抵抗 電氣分解 電流ト熱 電流ト磁氣 電流相互ノ作用 感應電流 えづく

放射能 電波

化學

每週二時

第四學年

空氣 酸素 窒素

水 水素

無水炭酸 炭素

鹽素 臭素 沃素 弗素及其ノ化合物

酸素 硫黃及其ノ化合物

窒素 磷 砒素 あんちもん及其ノ化合物

炭素 珪素 硼素及其ノ化合物

第五學年

每週二時

なとりうむ かりうむ及其ノ化合物 あむにもにうむ化合物

あるしうむ ばりうむ及其ノ化合物

あるみにうむ及其ノ化合物

錫 鉛 銻 鉛及其ノ化合物

まぐねしうむ 亜鉛及其ノ化合物

鐵につけるこばるとまんがんくろむ及其ノ化合物

銅 水銀 銀 金 白金及其ノ化合物

沼氣 えちれん あせちれん 石油

有機酸

脂肪油

しめん化合物 尿素

こーるたーる べんぜん あにりん 色素

あるかろいど

蛋白質

左ニ掲クル術語定律假説等ハ適當ナル場合ニ於テ之ヲ説明スヘシ但シ稍々複雑ナルモノハ成ルヘク後ニ之ヲ授クヘシ



質量不變ノ定律 定比例ノ定律 倍數比例ノ定律 氣體反應ノ定律  
 分子量原子量 化學式  
 酸鹽基鹽  
 溶液ノ性質 電離  
 可逆反應 化學的平衡  
 週期律

注意

- 一 實驗ノ簡易ナルモノハ成ルヘク生徒ヲシテ之ヲ行ハレムヘシ
- 二 適切ナル場合ニ簡易ナル計算問題ヲ課スヘシ
- 三 日常生活ニ資スヘキ事項並實業上主要ナル機械器具並製品及其ノ製方ニ就キテ説明ヲ與フルコトヲ力ムヘシ

法制及經濟

每週二時

法制

國家 憲法 憲法發布ノ勅語  
 天皇 大權  
 臣民(服從ノ義務・納稅兵役ノ義務・選舉權ノ行使ニ關スル事項等)  
 帝國議會 選舉  
 國務大臣及樞密顧問  
 中央官廳  
 地方官廳及公共團體附自治ノ本旨  
 行政ノ大要

訴訟及行政訴訟

條約附國際關係

人 親族 家 相続 法人附商事會社

物 權利ノ得喪

所有 用役 債權債務 擔保

罪及刑

裁判所 民刑訴訟ノ大要

法 法ノ重シムヘキ所以 法ト道德トノ關係等

經濟

生産 分業及協力 企業 機械

物價 貨幣 信用及信用證券 銀行 貿易 交通

地代 賃金 利子 利潤

消費 貯蓄 奢侈 保險

國家ノ財政 自治體ノ財政

注意

- 一 法制及經濟ハ理論ニ馳セスカメテ簡易實用ヲ主トスヘシ
- 二 法制ヲ授クルニハ法文ニ拘泥セス制度ノ精神ヲ會得セシムルコトヲ力ムヘシ
- 三 法制ヲ授クル際便宜登記ニ關スル事項ヲ授クヘシ
- 四 經濟ヲ授クル際便宜產業組合ニ關スル事項ヲ授クヘシ

實業

農業

農業ハ土地ノ情況ニ依リ本要目中コリ便宜選擇分合レテ授クヘシ

第四學年及第五學年

每週二時

土壤 土壤ノ分類・組成及性質 土壤ノ微生物 土壤ノ改良

肥料 肥料ノ分類・配合・評價  
 主要ナル肥料ノ性質・效用・施用・貯藏等  
 栽培

作物 品種 選種 種子採集 整地及其ノ用具 蕃殖法 苗床 移植・除草・中耕及其ノ用具  
 施肥 收穫・調製・貯藏及其ノ用具 作付順次  
 作物病蟲害  
 主ナル作物病蟲及其ノ防除 主ナル害蟲及其ノ防除 益蟲・益鳥及其ノ蕃殖・保護  
 農業經濟法規  
 農業ノ要素 農業組織 農業管理 農業簿記 農業ノ發達ニ必要ナル諸機關 農業法規  
 重要作物  
 左ノ作物ノ栽培・利用等  
 園藝 禾穀類 荳菽類 工藝作物 飼料作物等  
 果樹 蔬菜 花卉ノ蕃殖・管理・利用等 庭園  
 耕地改良  
 測量・製圖 灌漑 排水 區畫整理 耕地整理法等  
 蠶業

畜産 畜室 器具 畜ノ品種 飼育 疫病 菌ノ利用 製種 製絲等  
 家畜・家禽・蜜蜂等ノ品種・蕃殖・飼育・管理・疾病・利用等

造林

林樹 種苗 蕃殖及移植 保護 保安林 利用 經理一般 測量・製圖等  
 水産 漁船 漁具 水族並漁場・漁期 漁法 製造 養殖等

注意

- 一 農業ハ博物・物理及化學ト密接ノ關係ヲ保タシムヘシ
- 二 農業ニ在リテハ其ノ地方ノ農業學校及農事試驗場等ト密接ノ聯絡ヲ保ツコトヲ力ムヘシ
- 三 農業ノ教授ハ適當ノ範圍ニ於テ實驗實習ヲ課スヘシ
- 四 教授時數ヲ増減シタル場合ニ於テハ本要目ニ掲ケタル材料ヲ斟酌シテ便宜之ヲ定ムヘシ

商業  
 第四學年  
 商事要項及商業算術

每週二時

緒論  
 商業  
 商人  
 商業ノ組織及經理  
 商業機關  
 手形・有價證券

賣買

賣買取引ノ條件手續及方法  
賣買取引上重要ナル書類及之ニ關スル計算  
取引所ノ意義及種類  
取引所ニ於ケル取引ノ種類

税關

關稅・戻稅交附金  
船舶出入ノ手續  
貨物輸出入ノ手續  
關稅ニ關スル計算

倉庫

倉庫業者ノ業務  
倉庫證券  
貨物出入ノ手續  
倉敷料ノ計算

銀行

銀行ノ意義及種類  
普通銀行ノ業務  
銀行事務ニ關スル計算

鐵道

鐵道業者及運送取扱人ノ業務

海運

旅客及貨物取扱手續並之ニ關スル重要ナル書類  
運賃手数料ニ關スル計算

海運ニ依ル物品運送契約及之ニ關スル重要書類  
積込及引渡ニ關スル手續

海損

運賃及海損ニ關スル計算

保險

保險ノ意義及種類  
保險證券約款  
保險ニ關スル手續  
保險ニ關スル計算

第五學年

簿記

每週二時

複式簿記

貸借及仕譯ノ意義

勘定科目

仕譯ノ練習

帳簿及其ノ記入法

結算

例題記帳及結算練習

主要帳及補助帳ヲ用フル場合ニ於ケル帳簿及諸表ノ種類・關係  
特種ノ勘定科目

例題記帳及結算練習

單式簿記

帳簿及其ノ記入法

例題記帳練習

結算

單・複兩式ノ差異及變更ノ手續

銀行簿記

帳簿ノ種類及組織

勘定科目

事務取扱ノ順序及手續

例題記帳練習

商品

其ノ地方ノ重要ナル商品ニ就キ生産消費種類・品位・製造用途・荷造・賣買單位等ノ大要ヲ説明スヘ

注意

一 商事要項及商業算術ハ成ルヘク其ノ地方ノ商業ノ實際ト聯絡セシムヘシ

二 諸證券類ハ成ルヘク離形ヲ示シ又各種ノ取引上ニ必要ナル書式ハ生徒ヲシテ實地練習セシムヘシ

三 簿記ハ記帳練習ニ重キヲ置キ例題ハ實際ノ取引ニ準據センコトヲ力ムヘシ

四 商業算術及簿記ニ於ケル計算ノ際珠算ヲ練習セシムヘシ

五 生徒ヲシテ其ノ地方ノ商業機關・商況・貨物ノ集散・交通機關等ニ就キ隨時實地調査セシムヘシ

六 地方ノ情況及教授時數ニ應ジ本要目ニ掲ケタル事項ハ適宜斟酌スルヲ妨ケス

手工

第四學年

每週二時

粘土石膏細工

普通ノ粘土細工及之ヲ石膏ニ寫スコト

材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

竹細工

普通ノ竹細工材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

木工

鉋削及鋸斷練習 簡易ナル日用器具等ノ製作

簡易ナル製圖

設計圖 見取圖

第五學年

每週二時

木工

簡易ナル日用器具等ノ製作 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

金工

簡易ナル日用器具等ノ製作(針金細工・板金細工) 普通金屬ノ加工法 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法

簡易ナル製圖  
前學年ニ準ス

工業大意

工業ノ種類及之ニ關スル經濟・法規等

注意

- 一 材料ノ性質・用法及工具ノ使用法等ニ關スル事項ハ實習ニ附帯シテ之ヲ授ケ又工具ノ使用法ヲ授クル際ニハ工具ノ手入法保存法ヲモ授クヘシ
- 二 圖畫科トノ聯絡ハ勿論數學・物理・化學等トノ關係ニ注意スヘシ
- 三 土地ノ情況ニ依リ便宜・藝細工・柳細工等ヲ加ヘ若ハ之ヲ以テ竹細工ニ代フルモ妨ナレ
- 四 教授時數ヲ増減シタル場合ニ於テハ本要目ニ掲ケタル材料ヲ斟酌シテ便宜之ヲ定ムヘシ

寫生畫 臨畫

第一學年

每週一時

幾何形體 器物 模型 植物

考察畫

主トシテ幾何的模樣ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニテ簡易ナル着色ヲ爲サシメ考察畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サレムルモ妨ナレ

第二學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 模型 植物 動物

幾何的模樣及天然物ヨリ便化シタル模樣ヲ授クヘシ  
寫生畫及臨畫ニテ着色ノ練習ヲ爲サシメ考察畫ニテ配色ノ應用ヲ爲サレムルヘシ

第二學年

每週一時

寫生畫 臨畫

器物 植物 動物 建築物 人物 景色

考察畫

前學年ニ準ス

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

幾何畫

直線 角 圓 多角形 曲線

第四學年

每週一時

寫生畫

植物 動物 建築物 人物 景色

考察畫

前學年ニ準シ更ニ器物圖案ヲ授ケ便宜既授ノ模樣ヲ之ニ應用セシムヘシ

色彩ニ關シテハ前學年ニ準ス

幾何畫

立體ノ平面圖 立面圖 側面圖

第五學年

每週一時

幾何畫  
前學年ニ準シ更ニ切斷面・展開圖・等角圖ヲ加ヘ又透視畫法ノ一斑ヲモ授クヘシ

注意

- 一 自在畫ハ初ヨリ幾何畫ト聯絡ヲ保メシムルコトニ注意シ又時々記憶畫及見取畫ヲ練習セシムヘシ
- 二 色彩ヲ授クルニハ着色法ノ外六色及其ノ明色ト暗色トノ區別ヲ知ラシメ更ニ色ノ性質對比及調和ヲ示スヘシ
- 三 幾何畫ヲ授クル際ニハ成ルヘク幾何ノ知識ト聯絡ヲ保メンコトヲ力ムヘシ
- 四 生徒ヲシテ成ルヘク名作品又ハ其ノ複製品ヲ見シメ趣味ノ涵養ニ資スヘシ

第一學年 每週一時

基本練習

發聲練習 音程練習 聽音練習 呼吸練習

歌曲

平易ナル單音唱歌

第二學年

每週一時

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌 平易ナル輪唱歌

第三學年

每週一時

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌 輪唱歌 平易ナル重音唱歌

注意

- 一 唱歌ノ教授ニハ總テ本譜ヲ用フヘシ
- 二 歌曲ハ歌詞曲調共ニ高尚優雅ナルモノヲ選フヘシ
- 三 歌曲ハ其ノ數多キヲ求メスシテ十分ニ之ニ熟達セシメンコトヲ期スヘシ
- 四 歌曲ヲ授クル際ニハ便宜樂典上ノ近易ナル事項ヲ附帶シテ教授スヘシ
- 五 生徒中變聲期ニ際セル者ニハ唱歌セシメサルコトヲ得

○農商務省訓令第十四號

林區署

製材職工定夫規則第三十四條中第五號「一日及十五日」ヲ「毎月一日及十五日若ハ第一及第三日曜日」ニ改ム

明治四十四年七月十九日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○農商務省訓令第十五號

山林局 林區署

明治四十四年農商務省訓令第六號科目表中炭入臨時部官有物拂下代ノ款ノ次位ニ雜收入ノ款ノ利子收入ノ項ノ利子收入ノ目ヲ又森林資金炭入林野拂下代ノ款林野拂下代ノ項ノ末位ニ延納利子ノ目ヲ設置ス

明治四十四年七月三十一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

○朝鮮總督府訓令第五十九號(官報七月三日)

朝鮮總督府留學生監督ニ關スル規程左ノ通定

留學生監督

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

明治四十四年六月二十七日

朝鮮總督府留學生監督ニ關スル規程

- 第一條 留學生監督ハ官費留學生ノ入學シタル學校ノ名稱、所在地及學則ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ但シ學則ハ既ニ報告シタル學校ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 第二條 留學生監督ハ毎年二回以上官費留學生ノ學業成績及品行ヲ調査シ朝鮮總督ニ報告スヘシ但シ其ノ進級及卒業ハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
- 第三條 留學生監督朝鮮總督府留學生規程第十一條ニ依リ承認ヲ爲シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ都度朝鮮總督ニ報告スヘシ
- 第四條 留學生監督ハ朝鮮總督府留學生規程第十三條各號ノ一ニ該當スト思料スル者アルトキハ事實ヲ詳具シ朝鮮總督ニ報告スヘシ
- 第五條 留學生監督ハ官費留學生及私費留學生ノ名簿ヲ備ヘ留學生ノ氏名、住所、留學年月日、留學期間、學校ノ名稱及所在地、履修學科、經歷ノ大要共ノ他必要ト認ムル事項ヲ之ニ記載スヘシ
- 第六條 留學生監督ハ會計ニ關スル帳簿ヲ備ヘ毎月末一般ノ出納及官費留學生ニ對スル諸給與ヲ之ニ記載スヘシ
- 第七條 留學生監督ハ朝鮮總督府留學生規程第十二條第一項ニ依ル文書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ
- 留學生監督ハ朝鮮總督府留學生規程第二十條ニ依ル文書ヲ受ケタルトキハ進達ナク之ヲ進達スヘシ

第八條 留學生監督ハ私費留學生ニシテ其ノ品行不良若ハ疾病又ハ學業ノ成績不良ノ爲成業ノ見込ナシト認メタルトキハ事實ヲ詳具シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第九條 第一條及第二條ノ規定ハ私費留學生ニ之ヲ準用ス

第十條 留學生監督ハ朝鮮總督府留學生規程ニ規定スルモノノ外留學生ニ關スル重要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府訓令第六十號(官報七月六日)

朝鮮總督府警察官署

警察巡閱規則左ノ通定

明治四十四年七月一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

警察巡閱規則

- 第一條 巡閱ハ警察各部署ニ於ケル紀律ノ弛張、服務ノ勤怠、事務ノ整否、法規令遵實施ノ狀況共ノ他警察ニ關スル各般ノ事務ヲ檢閲シ併セテ民情風俗ヲ觀察スル爲之ヲ行フ
- 第二條 巡閱ヲ分チテ左ノ二種トス
  - 一 特別巡閱
  - 二 通常巡閱
- 第三條 特別巡閱ハ警務總長之ヲ施行ス
- 第四條 通常巡閱ハ毎年一回以上京城ニ於テハ警務總監部警務課長共ノ他ニ於テハ各道警務部長ヲシテ之ヲ施行セシム
- 前項ノ場合ノ外警務總長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ所部ノ官吏ヲシテ各部署ニ對シ隨時

之ヲ施行セシムルコトヲ得

第五條 巡閱終了シタルトキハ其ノ狀況ヲ詳細ニ記載シ且一事項毎ニ意見ヲ附シ巡閱日誌ヲ添ヘ特別巡閱ニ在リテハ朝鮮總督ニ、通常巡閱ニ在リテハ警務總長ニ報告スヘシ

第六條 本規則ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ハ警務總長之ヲ定ム

○朝鮮總督府訓令第六十一號(官報七月十七日)

明治四十四年朝鮮總督府訓令第四十二號中第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
小包郵便物關稅トシテ貼付シタル收入印紙ノ消印ハ郵便局ニ於テ普通使用ノ日附印ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

明治四十四年七月十一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

〔參照〕

○朝鮮總督府訓令第六十二號(官報七月二十六日)  
明治四十四年五月十七日朝鮮總督府訓令第四十二號ハ收入印紙貼付ノ書類ヲ收受シタルトキ消印押捺方ノ件ナリ

高等法院檢事長  
控訴院檢事長  
地方裁判所檢事正

檢察事務又ハ警察事務ニ付檢事又ハ警察官ニ對シ一般ノ例規ト爲ルヘキ訓示又ハ通牒等ヲ發シテ付テハ此ノ際取纏メ報告スヘシ

明治四十四年七月十八日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○大藏省訓令第三十號

明治三十六年大藏省訓令第三十一號稅務統計彙帳調製規程中左ノ通改正ス

明治四十四年八月二日

第二條中「北海道」ノ下ニ「長崎縣下對馬國及島根縣下隱岐國」ヲ加フ

大藏大臣 公爵桂太郎

○陸軍省訓令第十六號

明治四十四年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍一殿

明治四十四年八月二日

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

歲入臨時部

△印増設

款	項	目	部
官有物拂下代	地所拂下代		
	建物拂下代		
		地所拂下代	
		建物拂下代	

○陸軍省訓令第十七號

明治四十四年度當省所管歲入歲出科目表中左記ノ通増設ス

陸軍一殿

明治四十四年八月二十二日

陸軍大臣 伯爵寺內正毅

明治四十四年八月 訓令 大藏省第三十號 陸軍省第十六號 第十七號



歳出經常部		歳出臨時部		印刷費	
款	項	目	節		
軍事費	修繕費	近衛歩兵第二聯隊 兵舎修繕			
				無線電信研究費	
				研究費	
					雑費

○文部省訓令第十六號

今般本省ニ於テ左ノ通甲種程度實業學校修身教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ宜ク各學校長ヲレテ本要目ニ準據シ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ生徒ノ品性ヲ陶冶シ本學科目教授ノ效果ヲ完ウセシメンコトヲ期セラルヘシ尙ホ徒弟學校及乙種組織ノ實業學校ニ於テモ本要目ヲ斟酌シテ教授細目ヲ編成セシメラルヘシ

明治四十四年八月十七日

文部大臣 小松原英太郎

北海道廳 府縣

- 甲種程度ノ實業學校修身教授要目
- 一 修身ノ教授ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ一般國民トシテ又實業者トシテ必要ナル道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルコトヲ努ムヘシ
  - 二 本要目ハ修業年限三箇年ノ學校ヲ標準トシ教授スヘキ事項ヲ示レタルモノナリ修業年限ヲ延長セル場合ニ於テハ全學年ニ亙リ本要目中ノ事項ヲ精深ニ教授スルモノトス
- 第一學年及第二學年 每週一時

生徒心得

學校ノ種類ニ應シ日常心得ヘキ事項ヲ教授シ生徒タルノ本分ヲ明ニ悟ラシムヘシ

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦暗寫セシムヘシ

道德ノ要領

皇位及皇室

國體、臣民

家、祖先、親子、夫婦、兄弟姊妹、親族、僕婢

社會ノ秩序、風俗、公益、名譽、財產、權利、義務

人格

作法

第二學年 每週一時

戊申詔書

詔書ノ全文ニ就キテ述義シ聖旨ノ存スル所ヲ知ラシムヘシ

道德ノ要領

職業

實業者ノ本務

同業者間ノ本務、組合員相互間ノ本務、雇者被雇者間ノ本務、被雇者相互間ノ本務

外國ニ對スル信義、外國人ニ對スル禮義、交際我國道德ノ特質

作法

我國道德ノ由來、祖先尊崇、忠孝一致、愛國奉公

豫科ヲ附設セルモノニ於テハ左記ニ依ルヘシ

豫科

生徒心得

第一學年及第二學年 每週一時

學校ノ種類ニ應シ日常心得ヘキ事項ヲ教授シ生徒タルノ本分ヲ明ニ悟シレムヘシ

教育ニ關スル勅語 勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦・暗寫セシムヘシ

道德ノ要領 誠實、勤勉、勇氣、忍耐、自重、廉耻、節制、身體ノ鍛鍊等

孝行、友愛等 敬愛、從順、信義、恭儉、禮節、同情、寬恕、謝恩等 忠君、愛國、奉公等

作法 以上ノ事項ハ適切ナル例話ヲ舉ケテ平易ニ教授スヘシ

本科

第一學年及第二學年 每週一時

道德ノ要領

皇位及皇室

國、國體、臣民

家、祖先、親子、夫婦、兄弟姊妹、親族、僕婢

社會ノ秩序、風俗、公益、名譽、財產、權利義務

人格

作法

第三學年 每週一時

豫科ヲ附設セサル場合ニ同シ

注意

一 教育ニ關スル勅語ハ第一學年(豫科ヲ附設セルモノニ於テハ理科第一學年)ニ於テ之ヲ授ケ第

二 學年(豫科ヲ附設セルモノニ於テハ豫科第二學年又ハ本科第一學年)以上ニ於テハ每學年適

宜若干ノ時間ヲ復習ニ充テ且常ニ教授ノ踰越ヲ茲ニ求メ生徒ヲシテ聖旨ノ存スル所ヲ切實ニ

領得セシメンコトヲ要ス

二 修身ノ教授ハ生徒ノ思想年齡ニ應シ又實際ノ生活ニ對シカメテ適切ナランコトヲ要ス

三 本要目中責務ノ對象ヲ示セルモノニ就キテハ主トシテ之ニ對スル責務ヲ説キ生徒ヲシテ之カ

實踐ニ必要ナル諸德ノ涵養ニカメシメンコトヲ要ス

- 四 作法ヲ教授スルニハ生徒ヲシテ能ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス但シ之ヲ授クルニハ特ニ時間ヲ設ケテ他ノ修身教授ニ於テ便宜併セ課スルモ可ナリ
- 五 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ國民ノ紀念スヘキ日及忠良賢哲ノ紀念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

○農商務省訓令第十六號

原蠶種製造所處務規程左ノ通定ム

原蠶種製造所

農商務大臣 男爵大浦兼武

明治四十四年八月一日

- 第一條 原蠶種製造所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ主管事務ニ付其ノ責ニ任ス
- 第二條 原蠶種製造所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又主管事務ノ幾分ヲ委任スルコトヲ得
- 第三條 原蠶種製造所支所ニ支所長ヲ置ク
- 第四條 支所長ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ支所全般ノ事務ヲ處理ス
- 第五條 各部課ニ部長及課長ヲ置ク
- 第六條 部長及課長ハ所長ノ命ヲ承ケ分擔ノ事務ニ對シ其ノ責ニ任ス
- 第七條 部長又ハ課長事故アルトキハ所長ハ臨時其ノ代理者ヲ命ス
- 第八條 原蠶種製造所長ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 一部下ノ官吏訴訟ノ爲又ハ裁判所ノ證人參考人若ハ鑑定人トシテ出張旅行

- 二 部下ノ官吏看護婦省墓參拜地療養又ハ旅行ノ願及除服出仕
- 三 月俸金二十五圓又ハ日給金八十錢ヲ超エサル雇員ノ命免及賞與
- 四 部長及課長ノ命免ヲ除クノ外部下ノ官吏ニ事務ノ分擔ヲ命免スルコト
- 五 部下ノ官吏ノ受驗願
- 六 出納官吏ノ命免
- 七 官吏療治料ノ給與
- 八 官役職工人夫死傷者ニ療養料扶助料及埋葬料ノ給與
- 九 内國博覽會、共進會共ノ他類似ノ會又ハ道廳府縣ノ請求ニ對シ參考品ノ出陳又ハ貸與
- 十 一廉五百圓ヲ超エサル印刷物ノ調製、物件ノ買入、借入、運搬、入夫、職工ノ雇傭及建設物ノ新營修繕
- 十一 寄贈ノ圖書、標本等ノ領收及其領收證又ハ謝狀ノ發送
- 十二 一廉金二百圓ヲ超エサル寫字料、翻譯料、廣告料、保管料及手数料類ノ處理
- 十三 見積價格一廉金二百圓ヲ超エサル物品ノ處分
- 十四 工事及物件ノ賣買貸借ニ關シ伺濟ノ範圍内ニ於テ豫定價格ノ指定
- 十五 明治二十三年勅令第九十三號ニ依リ隨意契約ノ締結
- 十六 官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬等金額百圓以内ノ處理
- 十七 金額二百圓以内現金ノ前渡
- 十八 守衛、給仕、小使及常備夫ノ備能、賞與
- 十九 遺失物ノ處分
- 二十 金額百圓以下ノ物品ノ亡失毀損ニ關スル事項
- 二十一 出版圖書、印刷物ノ配與
- 第六條 原蠶種製造所長ハ別ニ定ムル規程ニ依リ原蠶種ノ配付ヲ爲スヘシ

明治四十四年八月 訓令 農商務省第十七號 造林統計規程

- 第七條 原蠶種ノ事業ニ關シ旅費ヲ負擔シ所員ノ出張巡回ヲ請フモノアルトキハ所長之ヲ許否ス  
 第八條 原蠶種製造所長ハ所務ノ爲所員ニ出張巡回ヲ命スルコトヲ得  
 第九條 原蠶種製造所長出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ認可ヲ受クヘシ  
 第十條 原蠶種製造所長ハ事務處理ノ爲經同ノ上處務細則及支所ノ處務規程ヲ設クルコトヲ得  
 第十一條 原蠶種製造所長ハ事業成績ヲ審査編集シ農商務大臣ニ報告スヘシ  
 第十二條 原蠶種製造所長ハ其ノ專決事項ノ一部ヲ支所長ニ委任スルコトヲ得  
 ○農商務省訓令第十七號
- 造林統計規程左ノ通相定ム  
 明治四十四年八月二日  
 農商務大臣 男爵大浦兼武  
 大林区署
- 造林統計規程  
 第一條 大林区署長ハ毎年度施行ノ造林事業ニ付經常部ト特別經營部ト各別ニ統計表ヲ調製シ翌年度十月三十一日限リ之ヲ進達スヘシ  
 第二條 造林統計表ハ左ノ六種ニ分チ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ  
 第一號様式 人工植栽天然生育砂防植栽成林撫育林業試験  
 第二號様式 苗圃  
 第三號様式 防火線  
 第四號様式 林道河川貯水場雜工  
 第五號様式 森林買上  
 第六號様式 造林統計總括  
 第三條 造林統計表ノ記載例說明書ハ農商務大臣官房統計課長及山林局長ノ定ムル所ニ依ル

附則  
 第四條 明治三十三年八月訓令第三十號及同二十九年五月訓令第二十號ハ之ヲ廢止ス  
 (別記)  
 印ハ未練

第一號様式  
 人工植栽(天然生育、砂防植栽、成林撫育、林業試験)

府縣	目別	樹種	面積	本數	經費	一町歩當		備考
						本數	經費	

明治四十四年八月 訓令 農商務省第十七號 造林統計規程  
 五八三

明治四十四年八月 訓令 農商務省第十七號 造林統計規程

川貯水場(雜工)		第三號樣式 防 火 線				
經 費	備 考	目 別	延 長	面 積	經 費	百坪ニ對スル經費

明治四十四年八月 訓令 農商務省第十七號 造林統計規程

第二號樣式 苗 圃							
備 考	目 別	樹 種	數 量	面 積	經 費	養成苗數	備 考

明治四十四年八月 訓令 農商務省第十七號 造林統計規程

第六號樣式					第五號樣式		
造林統計總括							
種類		面積	數量	經費	備考	項別	種類
項	目						

明治四十四年八月 訓令 農商務省第十七號 造林統計規程

森林買上			第四號樣式		
面積	經費	備考	林道(河)		
			目別	種類	面積又ハ其ノ他ノ數量

〔參照〕 明治三十三年七月農商務省訓令第三十號ハ造林成績報告格式同三十九年五月十日第二十號ハ經常部造林統計報告格式準據方ノ件ナリ

○朝鮮總督府訓令第六十三號(官報八月五日)

稅關所屬船舶乘組員及稅關定備人員被服給與及貸與規程左ノ通定ム  
 朝鮮總督 伯耆寺内正毅  
 朝鮮總督府稅關

明治四十四年七月二十二日

- 稅關所屬船舶乘組員及稅關定備人員被服給與及貸與規程
- 第一條 本規程ニ於テ船舶乘組員ト稱スルハ船長、機關長、運轉手、機關手ノ職務ヲ取扱フ者、定備人員ト稱スルハ水夫長、火夫長、船長、舵手、油差、水夫、火夫、船夫、使丁、倉庫夫、給仕、小使、常備夫トス
  - 第二條 船舶乘組員及定備人員ニハ別表ニ定ムル所ノ被服ヲ給與ス但シ雨衣ハ隨時之ヲ貸與ス
  - 第三條 被服ハ必要ノ程度ニ依リ共ノ一部ヲ給與セサルコトヲ得
  - 第四條 稅關長ハ被服ノ保存期間ヲ定メ報告スヘシ
  - 第五條 船舶乘組員又ハ定備人員被服ノ給與ヲ受ケタル者被服ノ保存期間中ニ職ヲ去リタルトキハ即時被服ヲ返納スヘシ
  - 第六條 夏服ハ六月一日ヨリ九月末日迄、冬服ハ十月一日ヨリ翌年五月末日迄之ヲ着用スルモノトス但シ土地ノ情況ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得
  - 第七條 稅關長ハ帳簿ヲ備ヘ被服ノ種類毎ニ其ノ數量、調製年月日、出納等ニ關スル事項ヲ詳細ニ記載スヘシ

船舶乘組員及定備人員被服表

種類		職務			上			衣			袴		帽			
職名	被服	種類	地	製	種類	地	製	種類	地	製	種類	地	製	種類	地	製
船長	冬服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
機關長	冬服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
運轉手	冬服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
機關手	冬服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
船夫長	冬服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
火夫長	冬服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
船長	夏服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
機關長	夏服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
運轉手	夏服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
機關手	夏服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
船夫長	夏服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形
火夫長	夏服	長ジャケット	桐	黒	水兵	水兵形	折返襟ノ周邊ニ幅二分ノ白線	胸	桐	長	桐	赤	赤色ノ襟襟文字ニテ其ノ職名	圓形	圓形	圓形

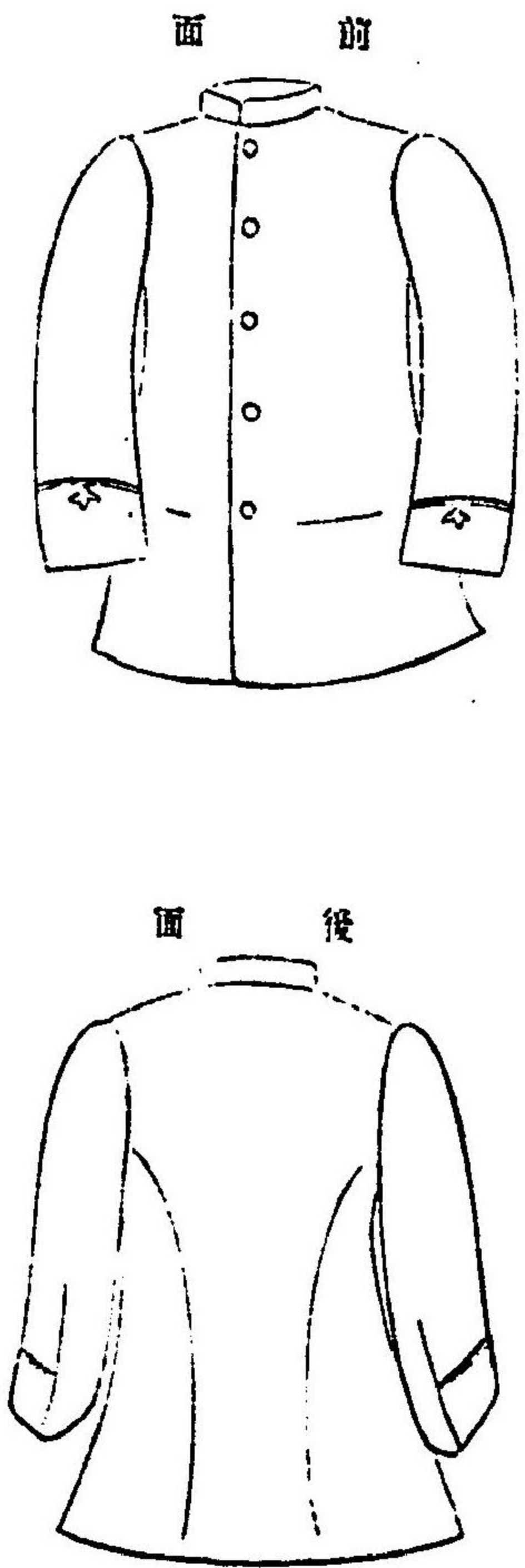
明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船舶乘組員及定備人員被服給與及貸與規程 五八九

靴製式	衣		雨		外		徽
	帽	袴	地	製	地	製	
同上	覆蓋齊黑油引製形狀如圖	覆蓋齊黑油引	覆蓋齊黑油引	堅縫胸飾本ヲ附シ肩及広ヲ二重トス形狀如圖	質齊齊黑油引	幅廣堅縫形狀如圖船長推關ヲ附ス	全徑一寸五分ノ金色金屬製旭星八丈織ノ帶ニ所屬稅關支金打出ノ「」字ヲ附シ他丁ハ帽ノ周圍ニ幅五分ノ黒線一條ヲ附ス
同上	覆蓋齊黑油引製形狀如圖	袴上縁ニ紐ヲ縫込テ形狀如圖	覆蓋齊黑油引	同上	同上	幅廣堅縫一重形狀如圖	支金打出ノ「」字ヲ附シ他丁ハ帽ノ周圍ニ幅五分ノ白線一條ヲ附ス
同上	覆蓋齊黑油引製形狀如圖	同上	同上	但シ長サ膝上六寸トス	同上	同上	同上
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

備考 從來給與又ハ貸與シタル被服ハ其ノ保存期間満了ニ至ル迄之ヲ不用スルコトヲ得

上衣

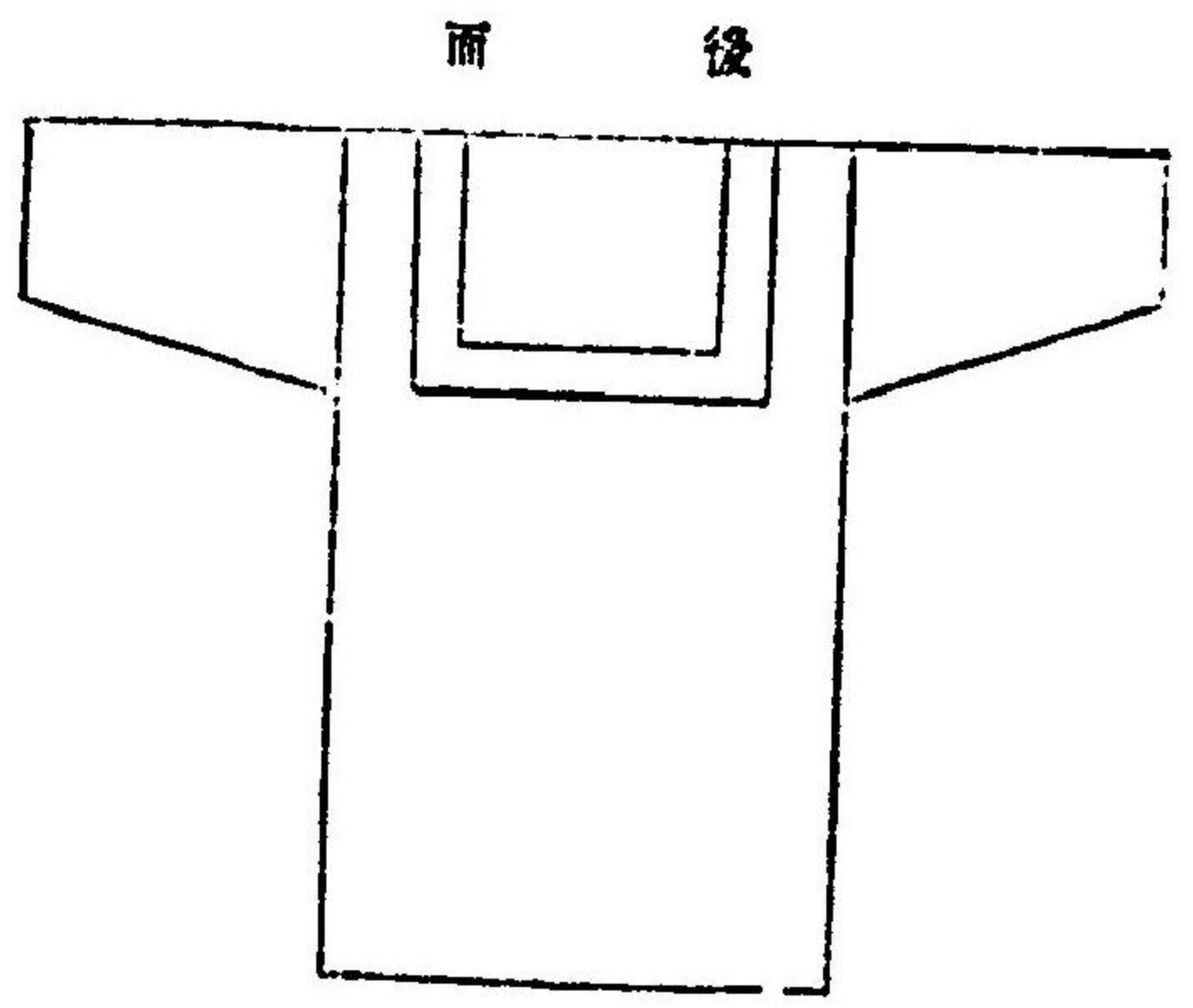
船長、機關長、運轉手、機關手





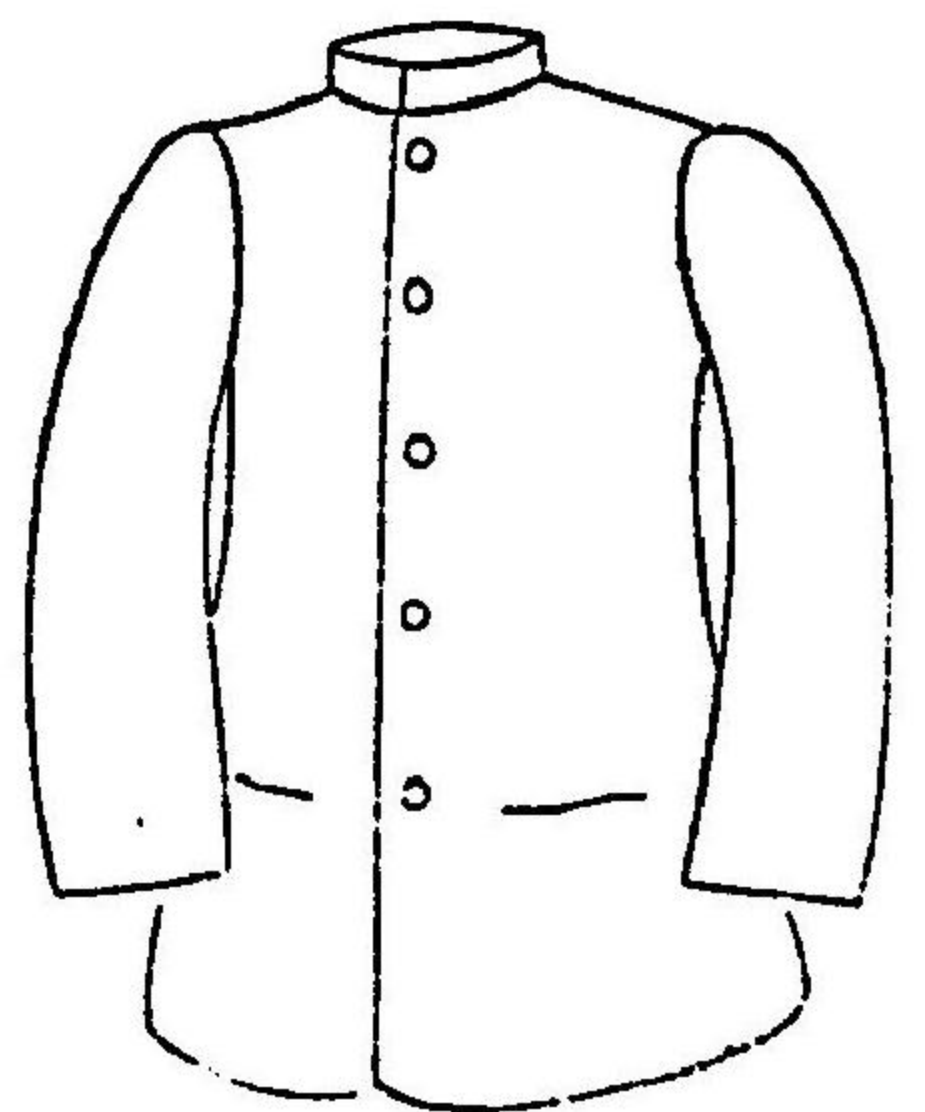
明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 我國所屬船舶乘組員及機關定備人衣服給與及費規程 五九二

水夫長、火夫長、船長、舵手、油差、水夫、火夫、船夫

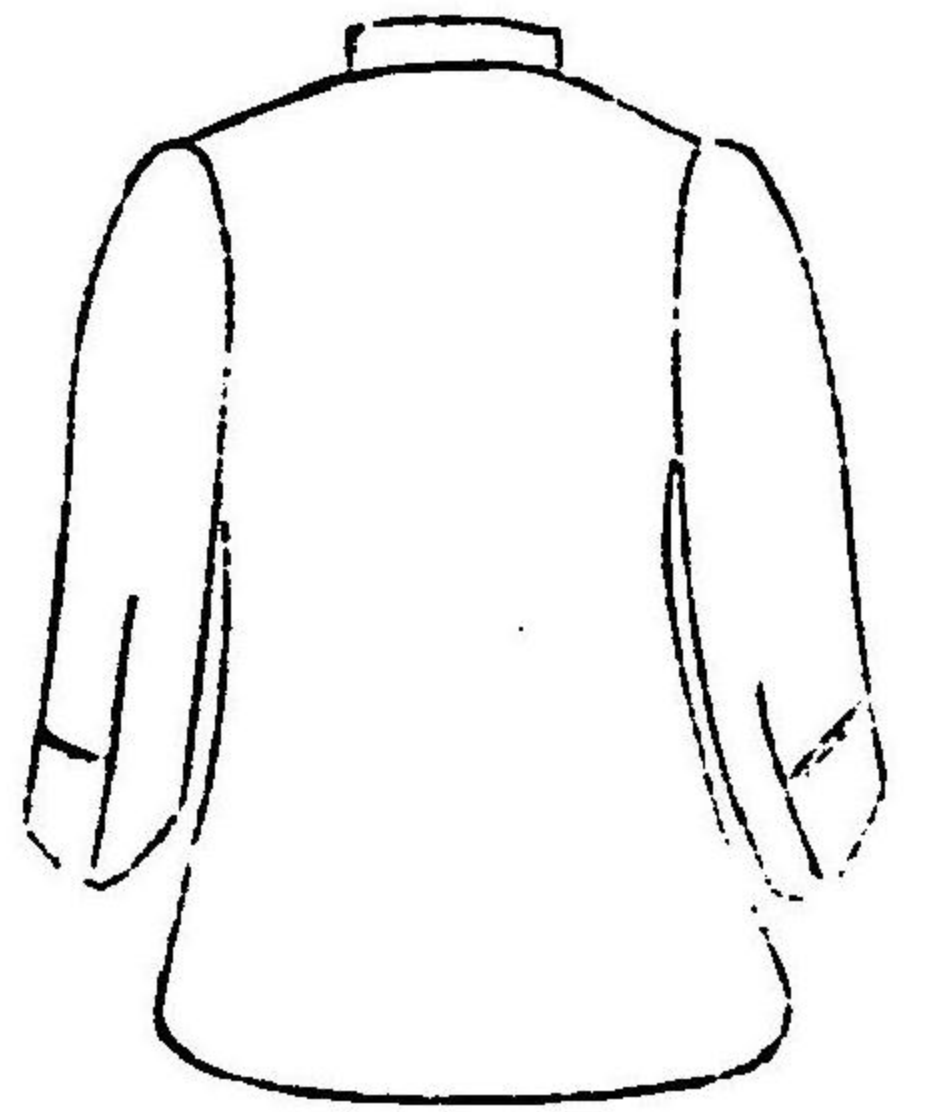


使丁

面 前

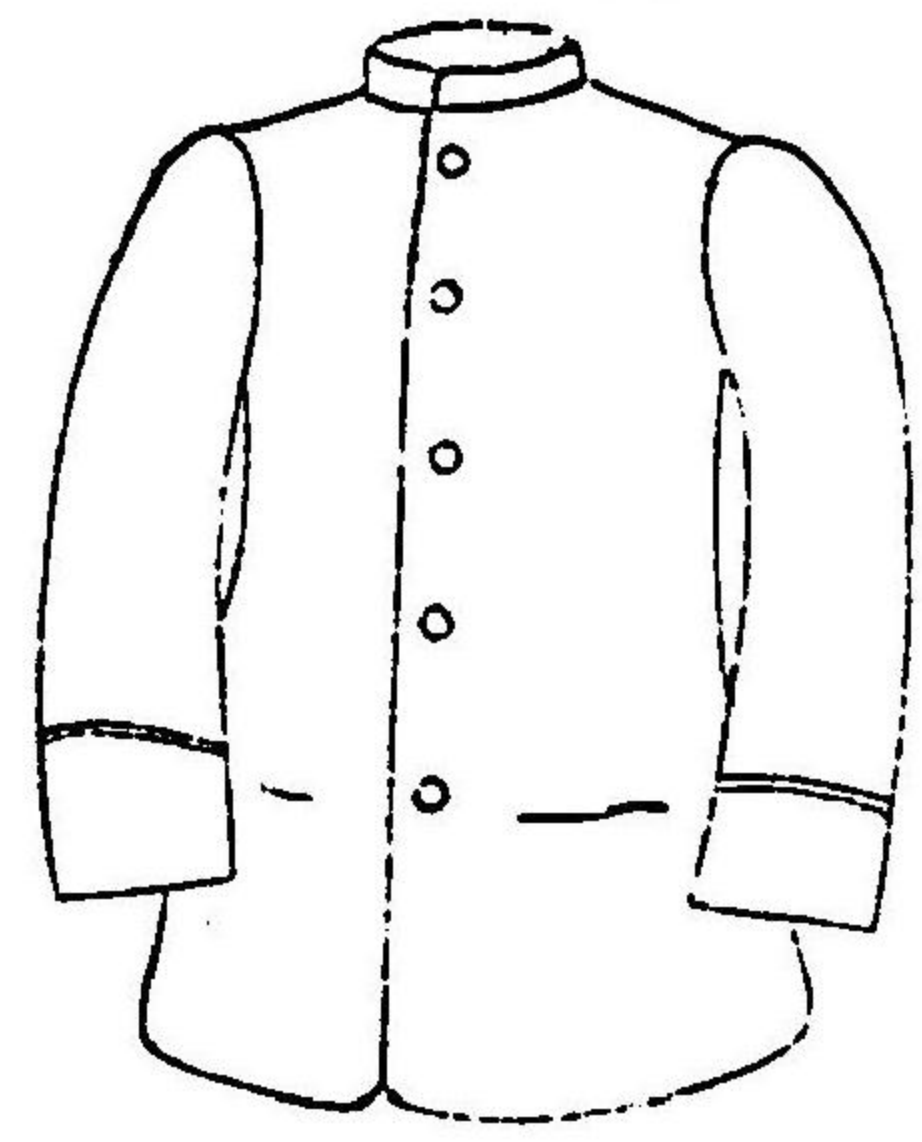


面 後

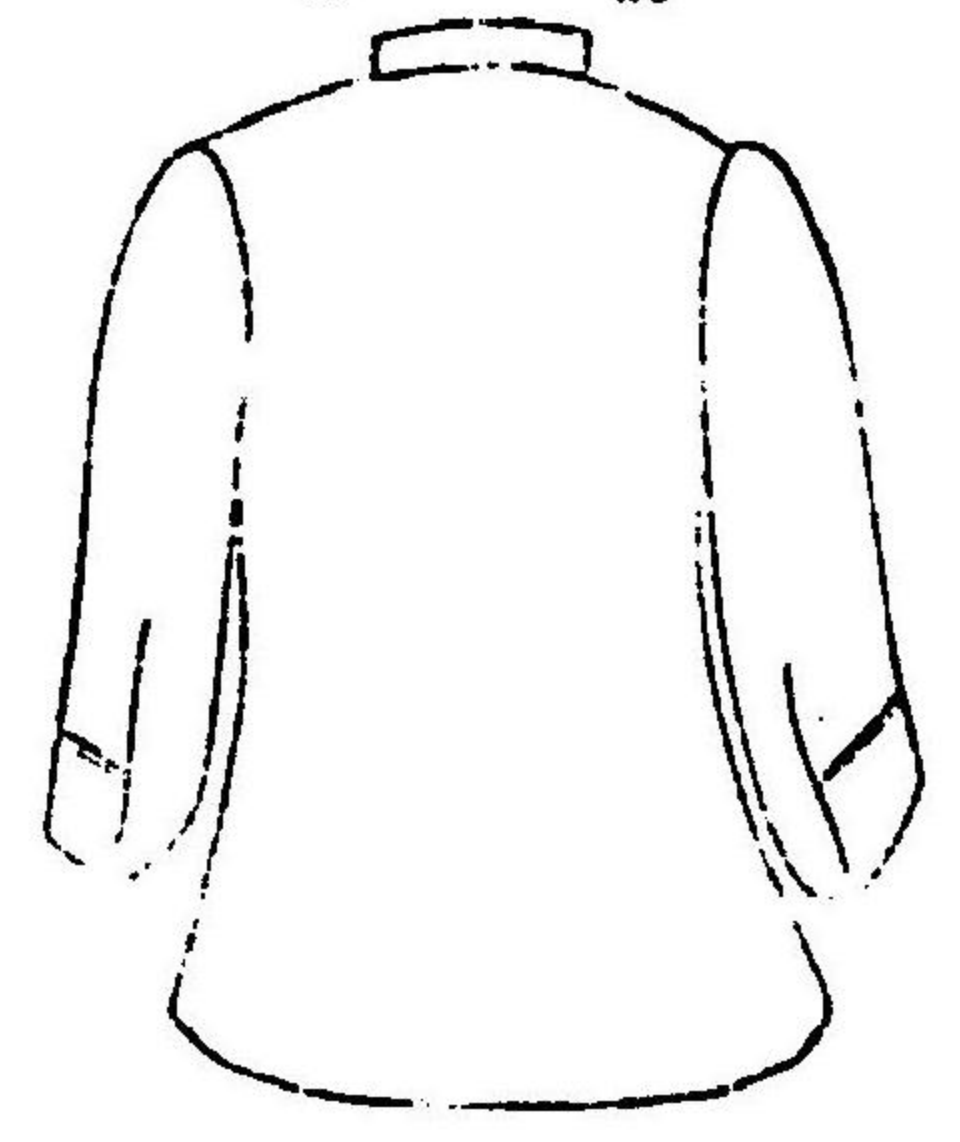


給仕

面 前



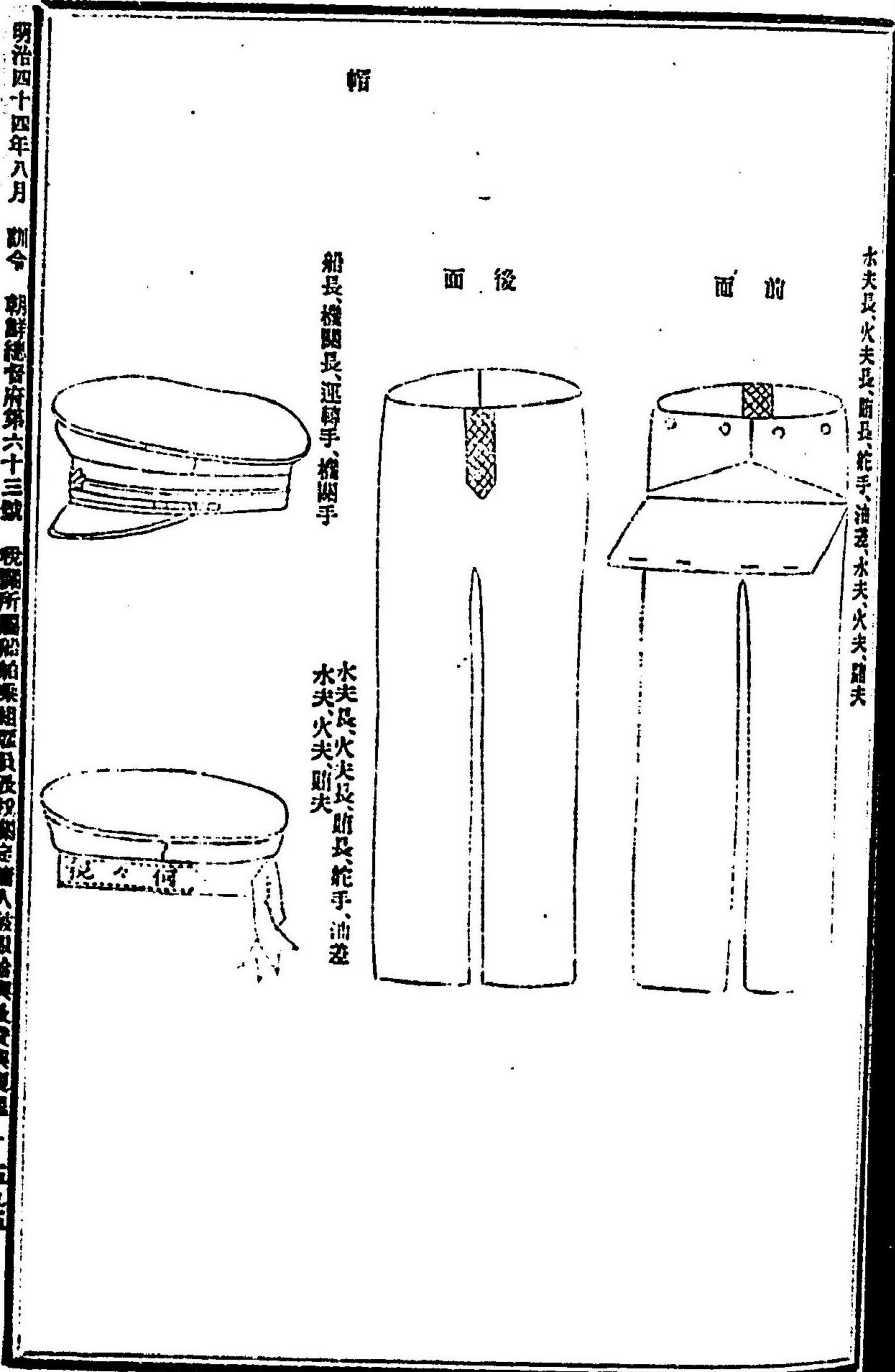
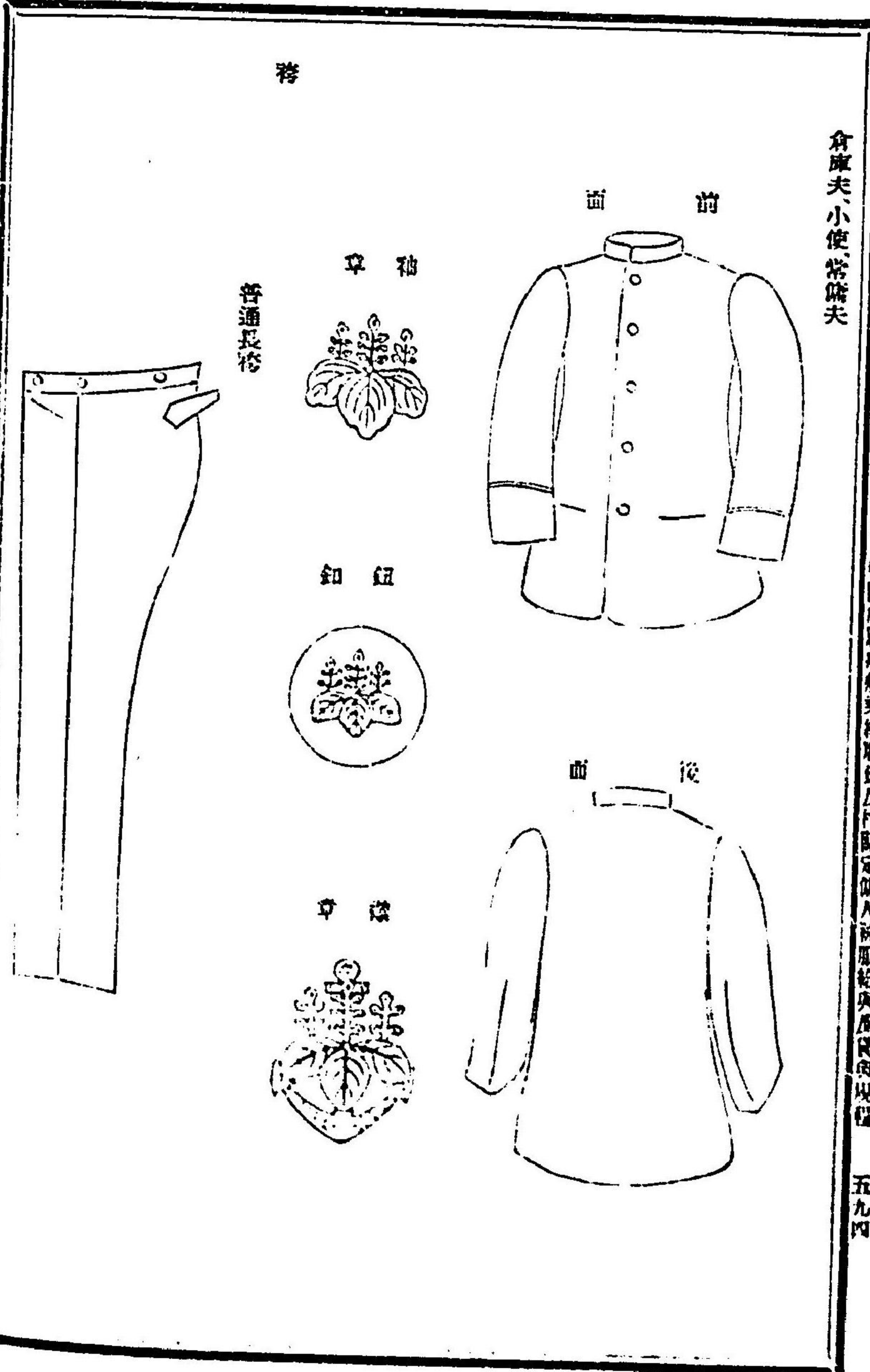
面 後



明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 我國所屬船舶乘組員及機關定備人衣服給與及費規程 五九三

明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船柏乘組服式及稅關定備人員被服給與及費用規程 五九四

倉庫夫、小使、常備夫

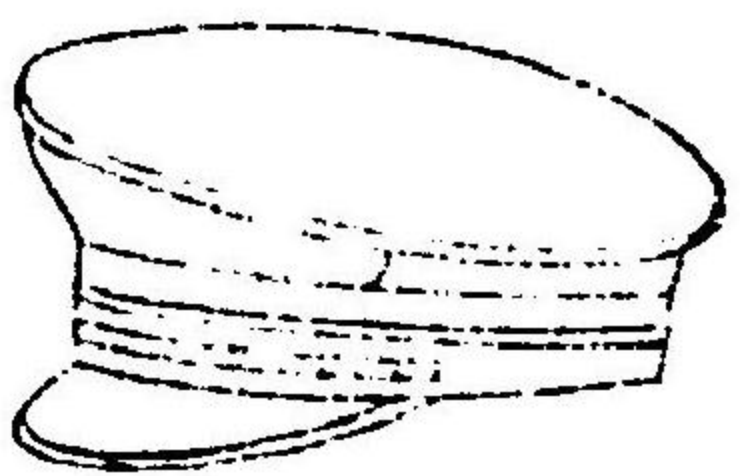


明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船柏乘組服式及稅關定備人員被服給與及費用規程 五九五

明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船舶乘組員及稅關定備人員被服給與及定規程 五九六

使丁

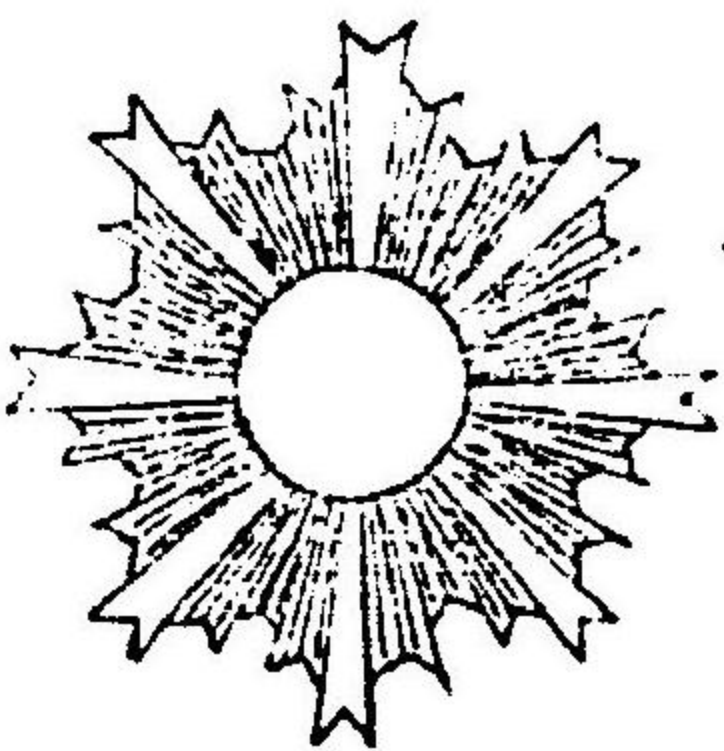
倉庫夫、給仕、常備夫



徽章

船長、機關長、運轉手、機關手

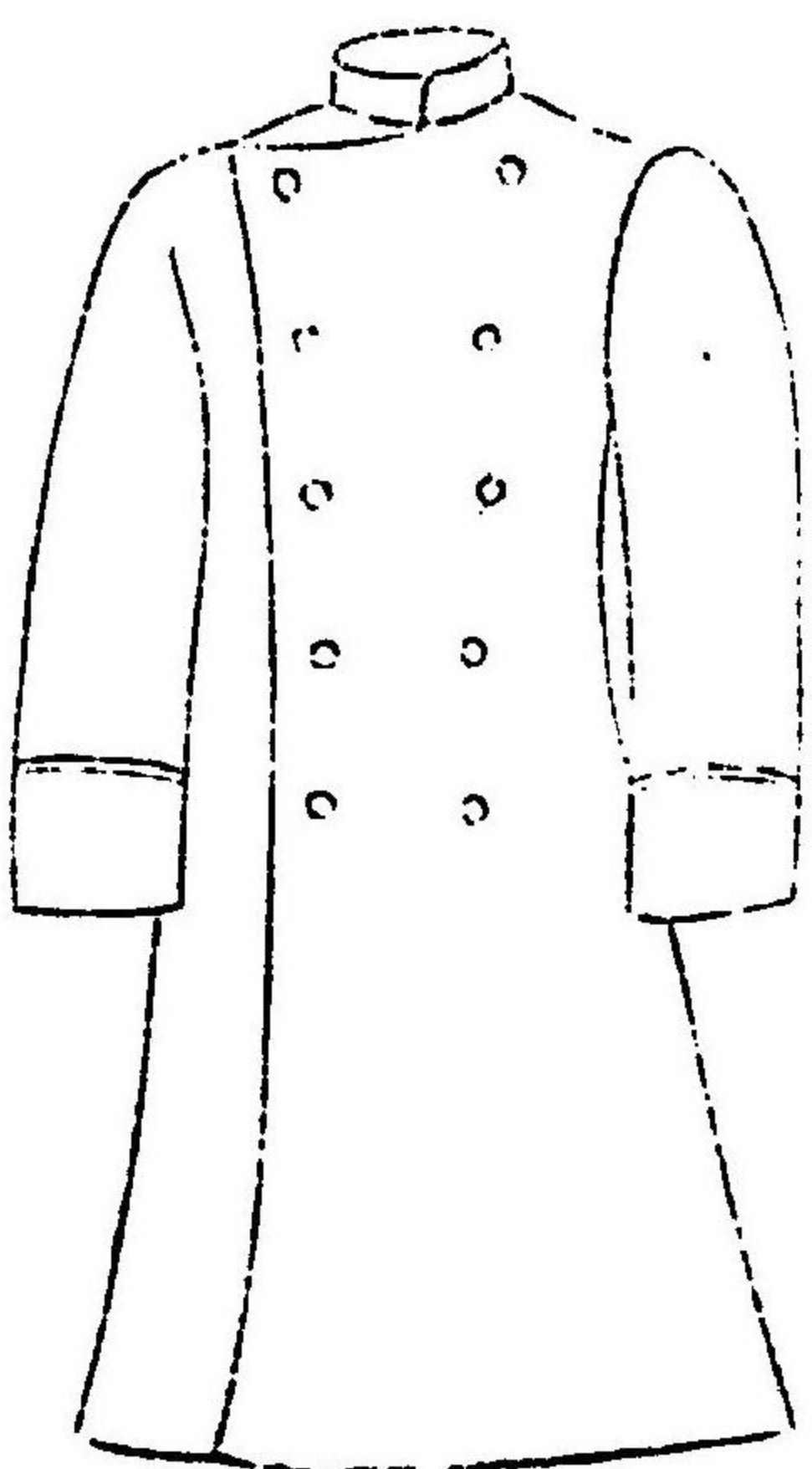
使丁、倉庫夫、給仕、小使、常備夫



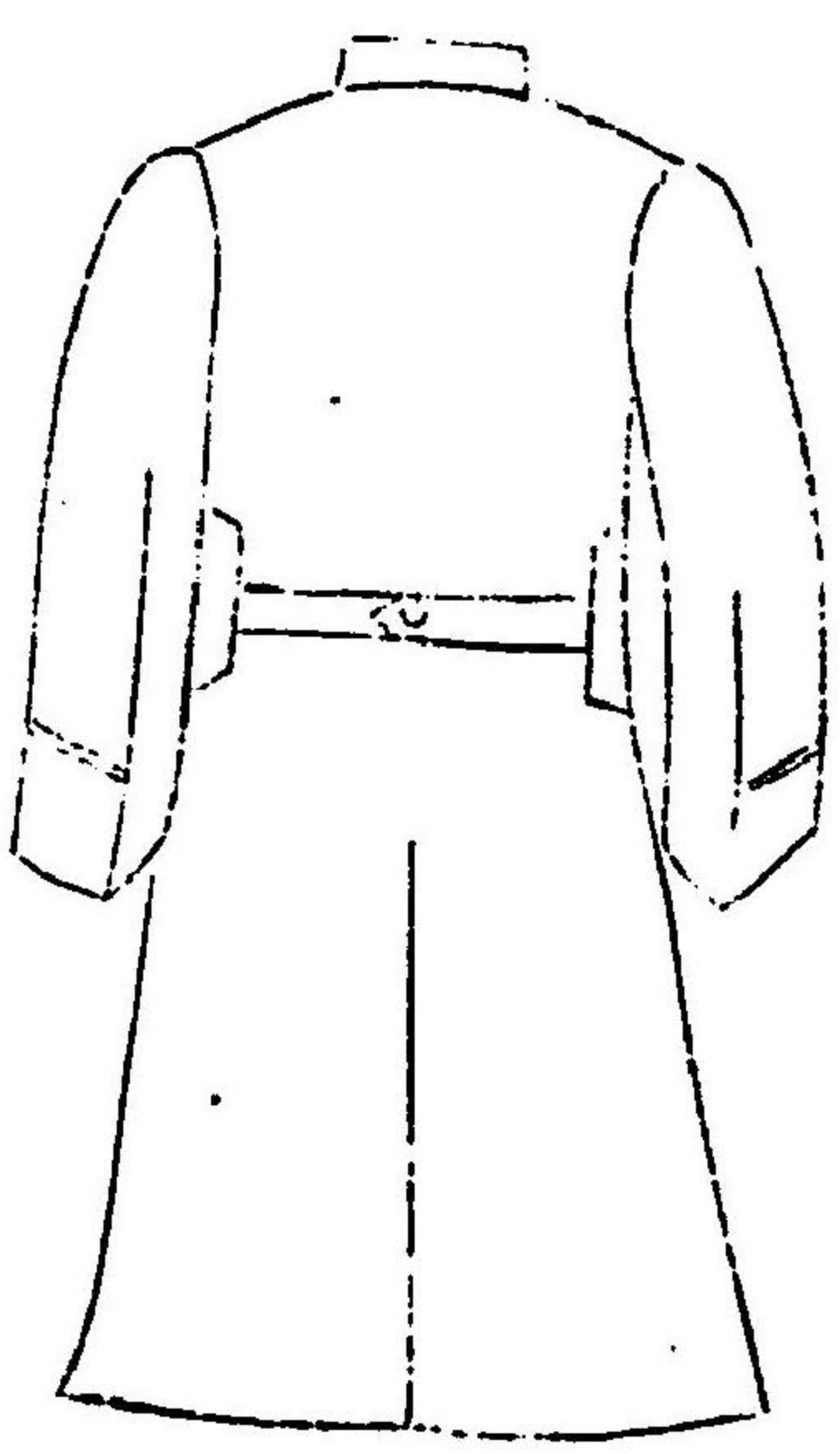
外 套

船長、機關長

面 前

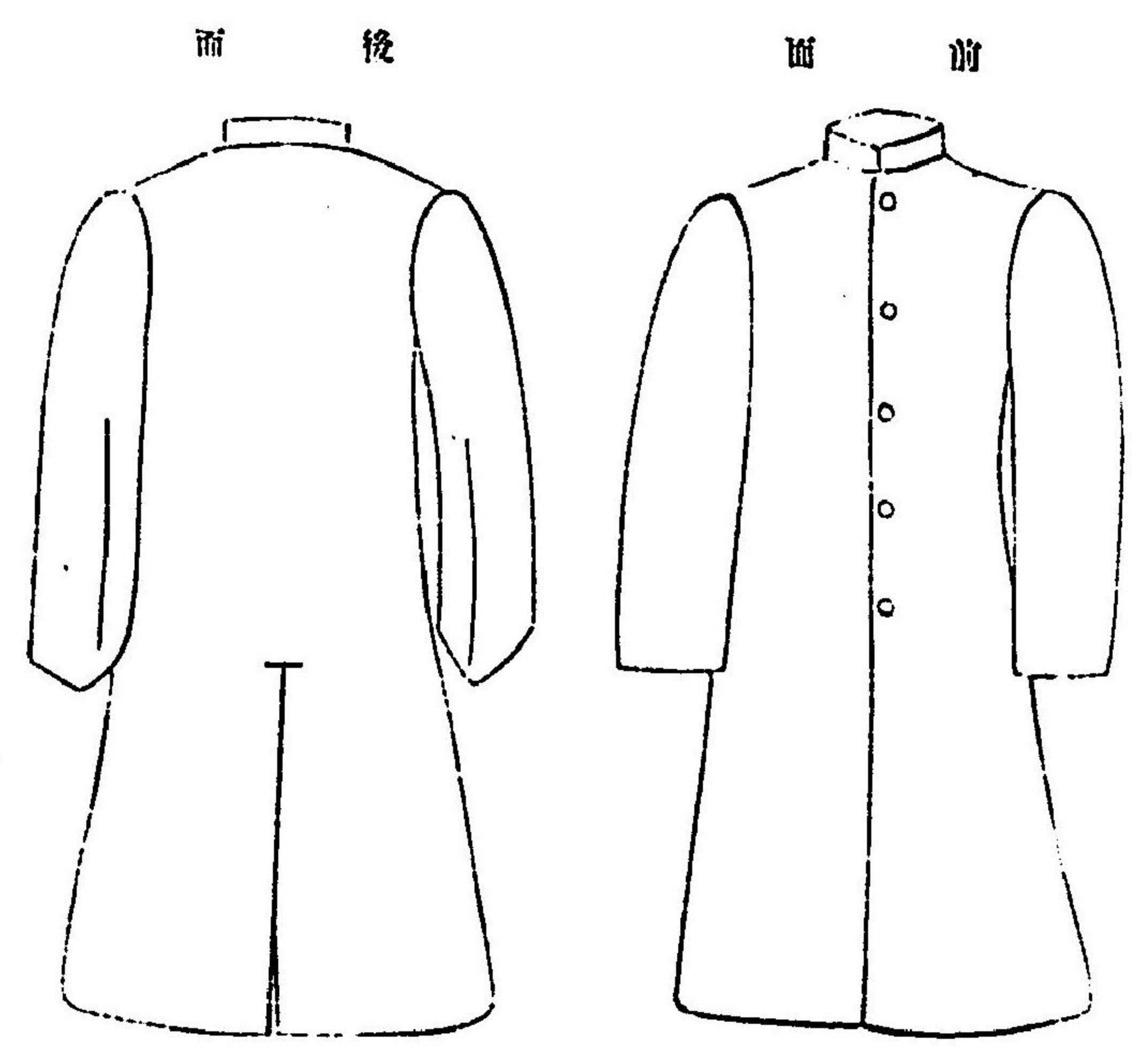


面 後



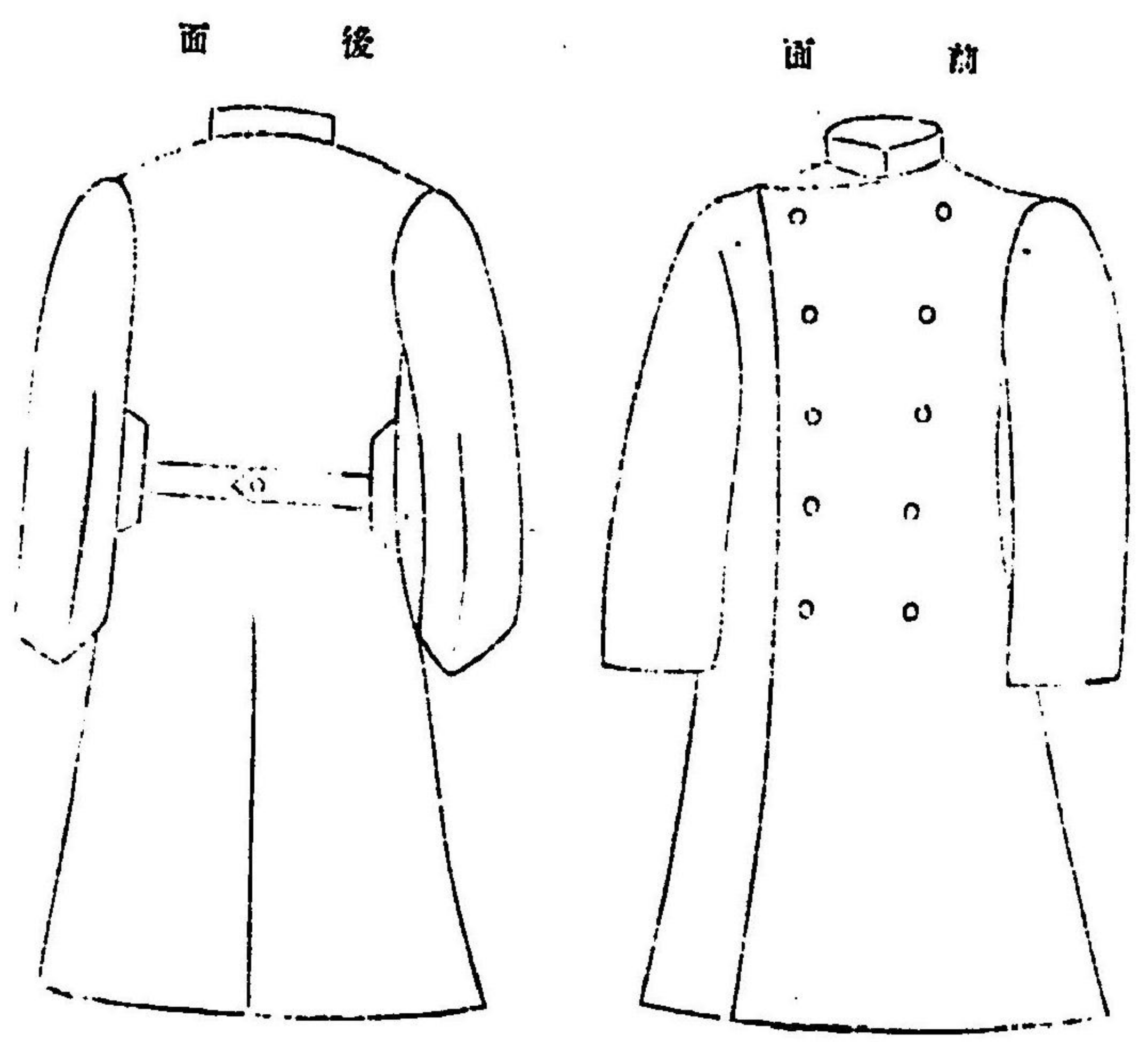
明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船舶乘組員及稅關定備人員被服給與及定規程 五九七

明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船舶乘組員及稅關定備人員被服給與及貸與規程 五九九



水夫長、水夫、船長、舵手、油釜、水夫、火夫、船夫、便丁、倉庫夫、給仕、小使、常備夫

明治四十四年八月 訓令 朝鮮總督府第六十三號 稅關所屬船舶乘組員及稅關定備人員被服給與及貸與規程 五九八



運務手、荷關手